

—茨城県土浦市—

下坂田中台遺跡

—坂田地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2014

土 浦 市
土 浦 市 教 育 委 員 会
株 式 会 社 東 京 航 業 研 究 所

一茨城県土浦市一

下坂田中台遺跡

—坂田地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2014

土 浦 市
土 浦 市 教 育 委 員 会
株 式 会 社 東 京 航 業 研 究 所

序

土浦市は、霞ヶ浦や桜川など豊富な水資源に恵まれ、太古から人々が生活するのに適したところがありました。そのため市内には、集落跡や貝塚、古墳など数多くの遺跡が600箇所以上も存在しています。これらの遺跡は、当時の人々の生活や環境を知る手掛かりとなります。また、現代に生きる私たちが豊かな生活を送ることのできる、先人たちの残してくれた貴重な文化財でもあります。

このように貴重な文化財を保護して後世に伝えることは、今に生きる私たちの責務であり、また、郷土の発展のためにも大切なことあります。

この度、上坂田・下坂田両地区において大規模な畠地帯総合整備事業が計画され、平成24年度に下坂田中台遺跡と下坂田貝塚の記録保存を目的とした第2次発掘調査が行われました。

この調査の結果は本文に記載されているとおりですが、調査で発見された貴重な資料が今後、土浦の古代史の解明に役立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書刊行にあたり、関係各位の皆様のご協力とご支援に對しまして厚く御礼を申し上げます。

平成26年3月

土浦市教育委員会
教育長 井坂 隆

例　　言

1. 本報告書は茨城県土浦市下坂田に所在する下坂田中台遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は坂田地区畠地帯総合整備事業に伴うもので、土浦市の委託を受けた株式会社東京航業研究所が、土浦市教育委員会の指導のもと実施した。
3. 発掘調査については、土浦市教育委員会の指導を受けて実施した。
4. 調査内容および調査組織は下記の通りである。

所 在 地　土浦市下坂田 1480 番地外

調 査 面 積　西区 296.43 m²・東区 179.42 m²　計 475.85 m²

調 査 期 間　平成 24 年 11 月 27 日～平成 24 年 12 月 28 日

調 査 指 導　比毛君男（土浦市教育委員会）

調 査 担 当　林 邦雄（東京航業研究所）

発掘調査参加者　市村浩男　遠藤幸子　大沼義則　加藤通紀　柴ヶ谷紀夫　寺崎清次　萩原和弘
平林敬子　堀籠孝行　宮本富夫　山崎一義　渡辺由美子（50 音順）

5. 整理期間と整理従事者は以下の通りである。

整 理 期 間　平成 25 年 10 月 8 日～平成 26 年 3 月 5 日

整 理 作 業 員　石割裕二郎　菊池久美子　五味和夫　田上達恵　富水義昭　永田正博　西郡 明
西村久由規　林 珙佳（50 音順）

6. 本書の原稿執筆分担は第 1 章第 1 節を比毛、第 1 章第 2 節～第 6 章を林が担当した。
7. 遺物の写真撮影は村井建三（東京航業研究所）が担当した。
8. 本遺跡から出土した遺物の分類作業は林が担当した。
9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、下記の方々、諸機関より御教示・御協力を賜った。記して謝意を表す次第である。（敬称略）

茨城県教育委員会文化課　茨城県県南農林事務所　坂田地区県営畠地帯総合土地改良事業実施協議会
土浦市産業部耕地課　常洋建設株式会社

10. 毛野考古学研究所の松田政基氏には第 2 章の基礎的資料を快く御教示してくださった。特に記して謝意を表したい。
11. 本報告書に関わる出土品および記録図面・写真などは、一括して上高津貝塚ふるさと歴史広場において保管・管理している。

凡　　例

1. 本書に記している座標値は、世界測地系に基づく。挿図のうち、平面図の方針は座標北を、土層断面図の水準高は海拔標高を示す。

2. 全体図や出土遺物で使用した遺構の略号は次の通りである。

S I : 積穴住居跡 SD : 溝 SK : 土坑 SE : 井戸 F P : 屋外炉 S P : ピット

S X : 性格不明 ヒ : 表土 ユ : 床面直上 ホ : 掘り方内 カ : 摂乱

3. 文中に掲載した実測図の縮尺は原則として次の通りで、掲載図にスケールを明示している。また、遺物写真については遺物実測図と原則として同縮尺である。

全体図 1/200・1/300 遺構図 1/60・1/150 土器・土器拓影・石器 1/3・1/5

4. 遺物番号は本文、挿図、写真図版と一致する。

5. 各遺構番号は調査時では西区・東区を通し番号で振っていったが、報告書では西区および東区で独立して番号を振りなおしている。

6. 遺構内出土遺物の出土状態は、下記の記号を用いた。

● 土器 ○ 石器

7. 挿図中のスクリーントーンは下記に示す通りである。

遺構図 [diagonal hatching] ... 焼土範囲

遺物図 [solid black box] ... 須恵器断面

[cross-hatching] ... 耕薙範囲

[horizontal hatching] ... 赤彩範囲

[vertical hatching] ... 黒色付着物範囲

8. 本書中の色調に関する表現は『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議監修 財團法人日本色彩研究所色票監修 2008年度版)を用いた。

9. 引用・参考文献は一括して第6章まとめの末に記している。

目 次

序

例言 凡例

目次

第1章 調査に至る経緯と経過.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 発掘作業の経過.....	1
第3節 整理等作業の経過.....	2
第2章 遺跡の位置と環境.....	2
第1節 遺跡の位置と地理的環境.....	2
第2節 歴史的環境.....	2
第3節 下坂田中台遺跡における過去の調査履歴.....	5
第3章 調査の方法と基本層序.....	7
第1節 調査の方法.....	7
第2節 基本土層.....	7
第4章 下坂田中台遺跡西区.....	10
第1節 繩文時代.....	10
第2節 古墳時代.....	21
第3節 中世以降.....	29
第4節 ピット.....	34
第5節 遺構外出土遺物.....	38
第5章 下坂田中台遺跡東区.....	49
第1節 中世以降.....	49
第2節 ピット.....	65
第3節 遺構外出土遺物.....	70
第6章 まとめ.....	72
引用・参考文献.....	74
写真図版	
抄録	

挿図・表目次

第1図 調査地点位置図.....	3	第23図 2号堅穴住居跡（1）.....	23
第2図 周辺の遺跡分布図.....	4	第24図 2号堅穴住居跡（2）.....	24
第3図 下坂田中台遺跡調査区位置図.....	6	第25図 2号堅穴住居跡出土遺物.....	25
第4図 基本土層図.....	7	第26図 3号堅穴住居跡.....	27
第5図 下坂田中台遺跡西区全体図.....	8	第27図 3号堅穴住居跡出土遺物.....	27
第6図 下坂田中台遺跡東区全体図.....	9	第28図 23・24号土坑.....	28
西 区		第29図 1号溝.....	30
第7図 1号堅外炉.....	11	第30図 1号衛列.....	30
第8図 1～4号土坑.....	11	第31図 16・18・20・21・25・26号土坑.....	31
第9図 2号土坑出土遺物.....	12	第32図 27・28号土坑.....	32
第10図 3号土坑出土遺物.....	12	第33図 27号土坑出土遺物.....	32
第11図 4号土坑出土遺物.....	12	第34図 1～3・5～11号ピット.....	34
第12図 5～12号土坑.....	14	第35図 12・14～21・23・24・29・32 ・33号ピット.....	35
第13図 6号土坑出土遺物.....	15	第36図 ピット出土遺物.....	37
第14図 7号土坑出土遺物.....	15	第37図 遺構外出土遺物（1）.....	38
第15図 9号土坑出土遺物.....	15	第38図 遺構外出土遺物（2）.....	39
第16図 11号土坑出土遺物.....	16	第39図 遺構外出土遺物（3）.....	40
第17図 12号土坑出土遺物.....	17	第40図 遺構外出土遺物（4）.....	41
第18図 13～15・17・19・22号土坑、 31号ピット.....	19	第41図 遺構外出土遺物（5）.....	42
第19図 13号土坑出土遺物.....	19	第42図 遺構外出土遺物（6）.....	43
第20図 19号土坑出土遺物.....	20	第43図 遺構外出土遺物（7）.....	44
第21図 1号堅穴住居跡.....	21		
第22図 1号堅穴住居跡出土遺物.....	22	第44図 1号井戸.....	50

第45回	2号井戸	50
第46回	2号井戸出土遺物(1)	50
第47回	2号井戸出土遺物(2)	51
第48回	1~9号土坑	52
第49回	8号土坑出土遺物	53
第50回	9号土坑出土遺物	53
第51回	10~19号土坑	56
第52回	10号土坑出土遺物	57
第53回	19号土坑出土遺物	57
第54回	20~22号土坑	58
第55回	21号土坑出土遺物	59
第56回	1号性格不明遺構	60
第57回	1号性格不明遺構出土遺物(1)	61
第58回	1号性格不明遺構出土遺物(2)	62
第59回	1~4・9・13・14・17号ピット	65
第60回	29・32・35・41・43~45・47 ・51・54・79・80・85号ピット	66
第61回	ピット出土遺物	69
第62回	遺構外出土遺物	70
第1表 調査地点周辺の跡跡一覧		5
西 区		
第2表	2号土坑出土遺物観察表	12
第3表	3号土坑出土遺物観察表	12
第4表	4号土坑出土遺物観察表	12
東 区		
第19表	2号井戸出土遺物観察表	51
第20表	8号土坑出土遺物観察表	53
第21表	9号土坑出土遺物観察表	53
第22表	10号土坑出土遺物観察表	57
第23表	19号土坑出土遺物観察表	57
第24表	21号土坑出土遺物観察表	59
第25表	1号性格不明遺構出土遺物観察表	63・64
第26表	ピット一覧表	67・68
第27表	ピット出土遺物観察表	69
第28表	遺構外出土遺物観察表	71

写真図版目次

西 区		
P L 1	西区完掘、西区完掘及び1号階列完掘、1号 堅穴住居跡完掘及U'A~A'土層断面、1号 堅穴住居跡1号土坑完掘、2号堅穴住居跡完 掘、2号堅穴住居跡A~A'土層断面、2号 堅穴住居跡B~B'土層断面、2号堅穴住居跡 1号土坑完掘	
P L 2	2号堅穴住居跡1号炉完掘、2号堅穴住居跡 2号炉完掘、3号堅穴住居跡出土状況、 3号堅穴住居跡完掘及びB~B'土層断面、3 号堅穴住居跡A~A'土層断面、1号溝完掘、 1号溝土層断面、1号屋外炉土層断面及び完 掘	
P L 3	1号屋外炉土層断面、1号土坑完掘、2号土 坑完掘、3・4号土坑及び1・2号ピット完掘、 4号土坑遺物出土状況、5号土坑完掘、6号 土坑土層断面及び完掘、7号土坑及び6号ピッ ト完掘	
P L 4	8号土坑完掘、9号土坑土層断面及び完掘、 10号土坑及び34号ピット完掘、11・12号土 坑及び4・25・26号ピット完掘、13号土坑完掘、 14号土坑完掘、15号土坑及び27号ピット完掘、 16号土坑及び18号ピット土層断面及び完掘	
P L 5	17号土坑及び31号ピット完掘、18号土坑完掘、 19号土坑土層断面及び完掘、20号土坑土層断 面及び完掘、21号土坑完掘、22号土坑完掘、 23号土坑完掘、24号土坑土層断面及び完掘	
P L 6	27号土坑土層断面及び完掘、25・26・28号土 坑完掘、28号土坑土層断面、3号ピット完掘、 7号ピット完掘、29号ピット完掘、西区南側 縦文時代土坑及びピット群、基本土層断面	
東 区		
P L 7	東区完掘及び1号性格不明遺構完掘、1号性 格不明遺構A~A'土層断面両側、1号性格 不明遺構A~A'土層断面中央部、1号性格 不明遺構A~A'土層断面北側、1号性格不 明遺構B~B'土層断面、1号性格不明遺構C ~C'土層断面、1号性格不明遺構D~D'土 層断面、1号性格不明遺構E~E'土層断面	
P L 8	1号土坑完掘及び土層断面、2号土坑完掘、3 号土坑完掘、4~6号土坑完掘、7号土坑完掘、 8号土坑及び23号ピット完掘、9号土坑及び 57・61・73~75・84号ピット完掘、10号土 坑完掘	
P L 9	11号土坑完掘、12・13号土坑及び11・36・37 号ピット完掘、14・19号土坑及び22号ピッ ト完掘、19号土坑遺物出土状況、15号土坑 完掘、16・18号土坑完掘、17号土坑完掘、20 号土坑及び44号ピット完掘	
P L 10	20号土坑歯骨出土状況、21・22号土坑完掘、 1号井戸完掘、2号井戸土層断面及び完掘、 2号ピット根石検出、3号ピット完掘、12・ 47・63~66号ピット完掘、東区南側ピット 群	
西 区		
P L 11~16	出土遺物(1)~(6)	
東 区		
P L 17~19	出土遺物(7)~(9)	

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

平成7（1995）年2月、新治村教育委員会教育長宛に茨城県土浦土地改良事務所【以下、両者ともに呼称は当時】から、下坂田・上坂田の台地上縁辺部における県営畠地帯総合土地改良事業計画と、事業予定地内の埋蔵文化財の有無について照会がなされた。新治村教育委員会が現地踏査を行ったところ、埋蔵文化財包蔵地・貝塚・古墳群の存在が確認されたため、試掘確認調査が必要である旨を回答した。

更に平成14（2002）年8月、茨城県土浦土地改良事務所から新治村教育委員会に対して埋蔵文化財の有無と遺跡が存在した場合の取扱についての照会が提出された。それを受けた新治村教育委員会は、同年11月に赤弥堂遺跡の北側に部分的に試掘確認調査を実施した。調査の結果、今回の試掘対象範囲内では埋蔵文化財は確認されなかった。

平成18（2006）年2月に新治村が土浦市と合併すると、当事業計画の具体化を受けて、同年6月に土浦市教育委員会は事業地全域の現地踏査を行った。平成19（2007）年2月には直近で工事予定区間となる赤弥堂遺跡の東側に、遺跡の範囲や密度、性格を把握するための試掘確認調査を行った。翌平成20（2008）年3月には、前者を除く赤弥堂遺跡の西側から事業区域西端の坂田塙台古墳群・武者塙古墳群にかけての事業区域内全体に試掘確認調査を行った。調査の結果、台地縁辺部を中心に広範囲で埋蔵文化財の存在が確認された。

これら試掘確認調査の結果をもとに、土浦市教育委員会は茨城県土浦土地改良事務所・土浦市産業部耕地課と協議を継続し、農道建設対象箇所に対して記録保存のための発掘調査を行うことで合意した。平成20（2008）年3月25日、茨城県知事と土浦市長との間で坂田地区の埋蔵文化財取扱全般に関する覚書を締結し、同年7月茨城県知事と土浦市長間で赤弥堂遺跡の発掘調査に関する協定書を締結した。

以後、平成20（2008）年度に赤弥堂遺跡（東地区・中央地区）、平成21（2009）年度に赤弥堂遺跡（西地区）の発掘調査を行った。平成23（2011）年度は、事業地のほぼ中央にあたる下坂田中台遺跡・下坂田貝塚・坂田台山古墳群と、事業地東端の下坂田塙台遺跡・坂田塙台古墳群の2地点の発掘調査を実施した。この結果、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚の北辺を残して調査が必要な箇所は全て終了することになり、平成24（2012）年度に最終となる発掘調査が行われた。

今回の調査に関する文化財保護法関連の手続は、既に平成20（2008）年6月17日付で茨城県土浦土地改良事務所長より当事業全体に関する埋蔵文化財の発掘の通知（文化財保護法第94条）が土浦市教育委員会に提出され、6月27日付で茨城県教育委員会教育長宛に進達した。

発掘調査は株式会社東京航業研究所が実施することとなり、埋蔵文化財発掘調査の届出（文化財保護法第92条）を、11月6日付けで茨城県教育委員会教育長宛に進達した。12月4日付けで茨城県教育委員会教育長より埋蔵文化財発掘調査の通知を受けている。なお、平成25年1月25日付で発掘調査終了確認依頼の進達を行い、同年2月6日付けで茨城県教育委員会教育長より終了確認の通知を受けた。

第2節 発掘作業の経過

発掘調査は、平成24年11月27日から平成24年12月28日まで実施した。発掘調査の概略は以下のとおりである。

西地点は11月27日・28日に調査区南側から、東地点は11月28日・29日に重機により表土掘削を行った。

西地点の表土層は40cm程、東地点は60cm程である。確認面は両地点ともにソフトローム層直上面である。西地点は29日の精査の結果、調査区の中央付近に大きな住居跡が2軒および多数の落ち込みが検出された。全面的にトレッチャー痕が残るうえ、中央部より北側は過去に営まれていた果樹園により遺構の残存状況は悪かった。東地点は30日の精査の結果、調査区の南端にソフトローム層の地山が残るほか、全面に遺構の覆土が検出された。12月3日から西地点の住居跡から遺構の掘削を行い、12月14日より遺構掘削を開始した東地点と平行して作業を行った。西地点は19日に遺構の掘削が終了して、全体の写真撮影、20日に測量作業を行った。東地点は12月27日に東地点の遺構の掘削を終了した後、西地点において基本土層の確認のための掘削作業を行った。28日に東地点全体の写真撮影および測量作業を行い、発掘作業を終了した。

第3節 整理等作業の経過

整理作業は平成25年10月9日より平成26年3月5日までの約5ヶ月にわたって実施した。

平成25年内は遺物の洗浄・注記・接合作業と平行して、写真測量した遺構の図化作業をSTP（デジタル図化解析機）を用いて行った。平成26年1月7日から平成26年3月5日までは遺構図面の修正・トレース・遺物の実測・遺物写真的撮影・図版編集・原稿執筆などの作業を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図）

下坂田中台遺跡は、茨城県の中央部に位置する土浦市に所在している。土浦市は北に石岡市、西はつくば市、東はかすみがうら市、南は牛久市や稲敷郡阿見町と接し、東には霞ヶ浦、北西には筑波山を望む。本遺跡は土浦市の中央部西寄りに位置するが、2006年の市町村合併以前は旧新治郡新治村の所在であった。また、本遺跡が位置する下坂田地区は西側の上坂田地区と合わせて坂田地区と呼称されている。

土浦市の中央部には桜川が流れ、霞ヶ浦に至る。左岸は新治台地、右岸は筑波・稲敷台地が広がり、本遺跡は新治台地の標高28~29mの縁辺部に位置する。

霞ヶ浦周辺の地形は約3万年前の古鬼怒川によって形成された地形が元となり、約1.8万年前の後期旧石器時代から始まる海進により、本遺跡付近まで汽水域が広がっていたとされる。

現在本遺跡周辺は畑地や果樹園、宅地などが広がり、台地の縁辺部には針葉樹が形成されている。本遺跡の北には国道125号線が東西に、東には常磐自動車道が南北に走る交通の要所となっている。

第2節 歴史的環境（第2図）

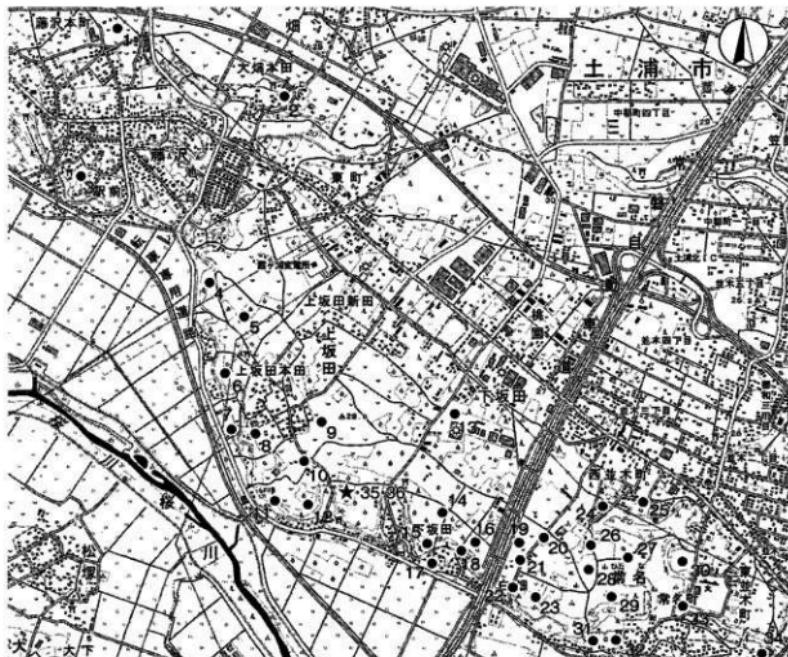
本遺跡の周辺で確認されている遺跡の概要について時代順に述べることとする。

旧石器時代 常磐自動車道の東側に分布する常名台遺跡群（25~30）で確認されているのが目立つのみで、その数は少ない。神明遺跡（27）の第4次調査で石器ブロックが1基、山川古墳群（29）の第2次調査で石器ブロック3基と炉跡が検出されている。この炉跡は炭化物から約3.2万年前のものであると測定されている。

縄文時代 本遺跡である下坂田中台遺跡（★）、下坂田貝塚（35）における2013年の調査でも当期における地点貝塚や竪穴住居跡が検出されている。そのほかでも集落跡のほか、地点貝塚が数多く確認されている。上坂田北部貝塚（4）、上坂田寺裏貝塚（8）、下坂田馬場先貝塚（14）、赤弥堂遺跡（18）などから前期の



第1図 調査地点位置図 (1:50,000)



第2図 周辺の遺跡分布図 (1 : 25,000)

地点貝塚が、神明遺跡（27）では中期の土坑から地点貝塚が確認されている。新治台地で確認されている貝塚はどれも小規模だが広範囲に点在していることは特色として挙げられよう。

弥生時代 山川古墳群（29）の第3次調査で後期の堅穴住居跡が2軒、北西原遺跡（28）の第2次調査で1軒の堅穴住居跡、赤弥堂遺跡（18）や下坂田塙場遺跡（12）で土器の小片が確認されるのが目立つ程度で至って低调である。

古墳時代 弥生時代から遺跡は格段に増えて、台地の縁辺部を中心に古墳が築かれている傾向にある。集落跡では常名台遺跡群（25～30）から前期や後期の堅穴住居跡、神明遺跡（27）第3次調査では、前期の堅穴住居跡が検出されている。下坂田周辺では赤弥堂遺跡（18）で前期、下坂田中台遺跡・下坂田貝塚における2013年の調査でも前期や中期の堅穴住居跡が検出されている。古墳では前期から終末期まで多岐にわたり、市の指定史跡である武者塚古墳（10）や常名天神山古墳（32）、本遺跡の南に位置する坂田台山古墳群（36）は7世紀築造の終末期古墳である。

奈良・平安時代 古墳時代に比べ、遺跡数は少なくなるが、大多数は常名台遺跡群（25～30）に集中している。弁才天遺跡（30）では奈良時代の堅穴住居跡から和同開珎が、隣接する西谷津遺跡（25）では青銅製帶金具が出土している。また、八幡下遺跡（34）からは円面鏡や丸瓦が出土していて、この付近に寺院などの存在を窺わせる。

第1表 調査地点周辺の遺跡一覧

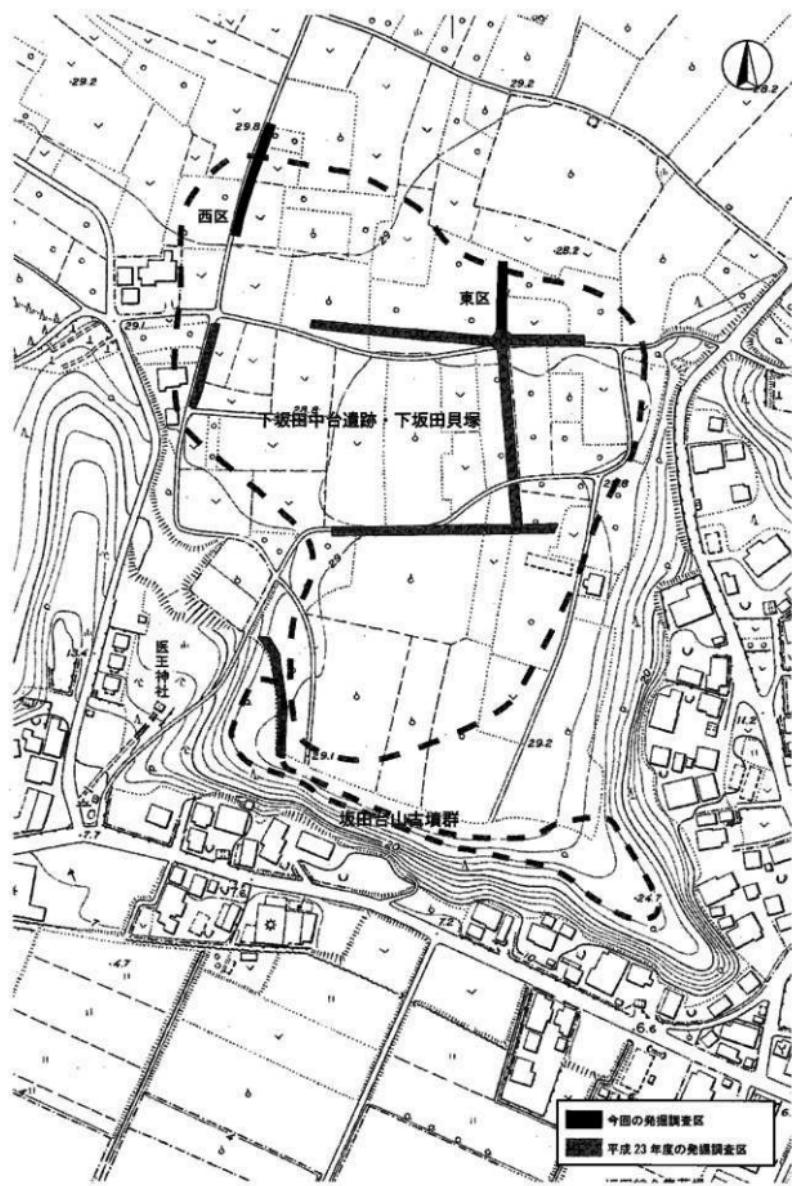
調査地名	北緯	東経	調査地名	北緯	東経
1 高岡堂古墳群			○		
2 大塚小貝塚	○				
3 藤沢城跡			○		
4 上坂田北部貝塚	○	○			
5 上坂田南古墳群		○			
6 上坂田立野古墳群		○			
7 峯台館跡			○		
8 上坂田中裏貝塚	○		○		
9 上坂田館跡の内館跡			○		
10 武者塚古墳		○			
11 坂田堀台古墳群		○			
12 下坂田堀台古墳群	○	○	○		
13 坂田郡鳴山古墳群			○		
14 下坂田馬場先史遺	○				
15 下坂田人神社古墳群		○			
16 下坂田川山古墳群		○			
17 下坂田尾倉内館跡			○		
18 赤弥堂遺跡	○	○	○	○	○
19 小田遺跡			○		
20 アラク遺跡			○		○
21 小原の上遺跡			○		
22 桐の上遺跡			○		
23 司馬遷遺跡			○		
24 西谷堀台古墳群				○	
25 西谷堀台古墳群				○	○
26 北西高地古墳群				○	○
27 神明遺跡			○	○	○
28 北西高地跡			○	○	○
29 山川古墳群			○	○	○
30 仲才天遺跡			○	○	○
31 鶴峯堀台古墳				○	
32 金沢天神山古墳				○	
33 天神島遺跡			○	○	○
34 八幡下遺跡				○	○
35 下坂田貝塚			○		○
36 坂田山古墳群			○	○	○

中世 本遺跡周辺では藤沢城跡（3）、峯台館跡（7）、上坂田館の内館跡（9）などの城館跡が台地縁辺部に沿って点在しているが、調査が進んでおらず、範囲や建物配置などは明確ではない。神明遺跡（27）や山川古墳群（29）では薬研堀や建物跡、井戸跡などが確認され、13～14世紀の常名地区に方形居館跡の存在が明らかとなっている。

近世 この時期に属する遺跡は少なく、赤弥堂遺跡（18）、神明遺跡（27）、山川古墳群（29）などから道路跡や溝、土坑などが検出されているに留まる。

第3節 下坂田中台遺跡における過去の調査履歴（第3図）

本遺跡は土浦市教育委員会や有限会社毛野考古学研究所などが主体となって、2011年に坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚の3遺跡にまたがる地点を合計で2,760 m²発掘調査している。この調査は本調査の南側に位置していて、縄文時代の堅穴住居跡が3軒、土坑が36ヶ所、縄文時代後期前葉から中葉の地點貝塚が2ヶ所、遺物は中期から晚期前葉までの土器や石器、骨角製品、貝製品、獸骨などが、古墳時代では4世紀から6世紀後葉ごろの堅穴住居跡が11軒、なかでも土製の模造鏡が出土していることは特筆できる。奈良・平安時代は堅穴住居跡が2軒と低調で、他に溝跡が2条、土坑が1基、中世では掘立柱建築跡が1棟、溝跡が11条、堀跡が2条、道路状遺構が2条、土坑が3基、地下式壙が1基、馬埋納土坑1基、井戸跡1基と多数の遺構が検出され、特に中世の遺構は北側に集中して、中世期の中心地は北側に位置する可能性が高いことを指摘している。近世では溝跡や井戸跡が1基ずつ検出されている。



第3図 下坂田中台遺跡調査区位置図 (1:2500)

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法（第3～6図）

調査区の座標は公共座標（世界測地系）を基準に設定した。

調査区は総合区画整理事業地内にあたる2ヵ所に設定されている。調査地点は西側（西区）と東側（東区）に分かれる。西区は南北が約60.8m、東西が約50m、東区は南北が約35.4m、東西が約5.0～5.2mを測る区画である。面積は西地点が約296.43m²、東地点は約179.42m²を測る。

発掘調査にあたっては、重機を用いて表土・耕作土層を撤去し、主として人力で遺構確認面までの掘り下げを行った。遺構の確認作業はジョレン、掘削作業は移植ゴテを使用して掘り下げる。包含層および遺構内出土の主たる遺物については、原則として光波測量機を用いて3次元記録を実施した。また、遺構については、デジタルカメラによる写真測量と手実測作業を併用した。写真撮影にあたっては35mmモノクロフィルム、35mmカラーリバーサルフィルム、デジタルカメラ（1330万画素）を併用し、適宜、記録撮影を行った。

第2節 基本土層（第4図）

西区の中央部において基本土層確認のため土層観察作業を行った。遺構確認面は西区・東区共にⅢ層の上面である。土層の概要は以下の通りである。

第Ⅰ層 耕作土層

第Ⅱ層 10YR3/4 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、やや縮まる。

第Ⅲ層 10YR4/6 褐色土層 ロームブロックを少量、ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。

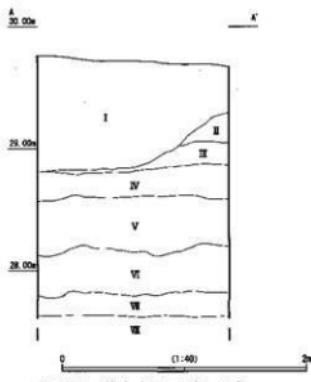
第Ⅳ層 10YR7/6 明黄褐色土層 黒色・橙色粒子を微量含む。粘性を持ち、強く縮まる。

第Ⅴ層 10YR5/8 黄褐色土層 赤色・黒色粒子を少量含む。粘性を持ち、強く縮まる。

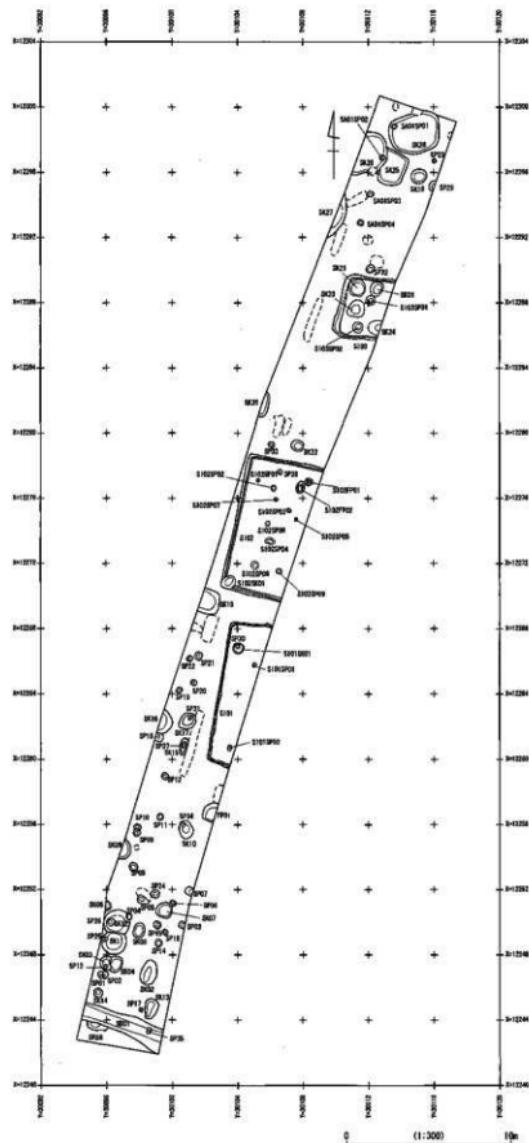
第Ⅵ層 10YR7/8 黄褐色土層 黑色粒子を少量含む。粘性を持ち、強く縮まる。

第Ⅶ層 10YR6/8 明黄褐色土層 粘土ブロック・鹿沼土粒を少量含む。粘性および縮まりを強く持つ。

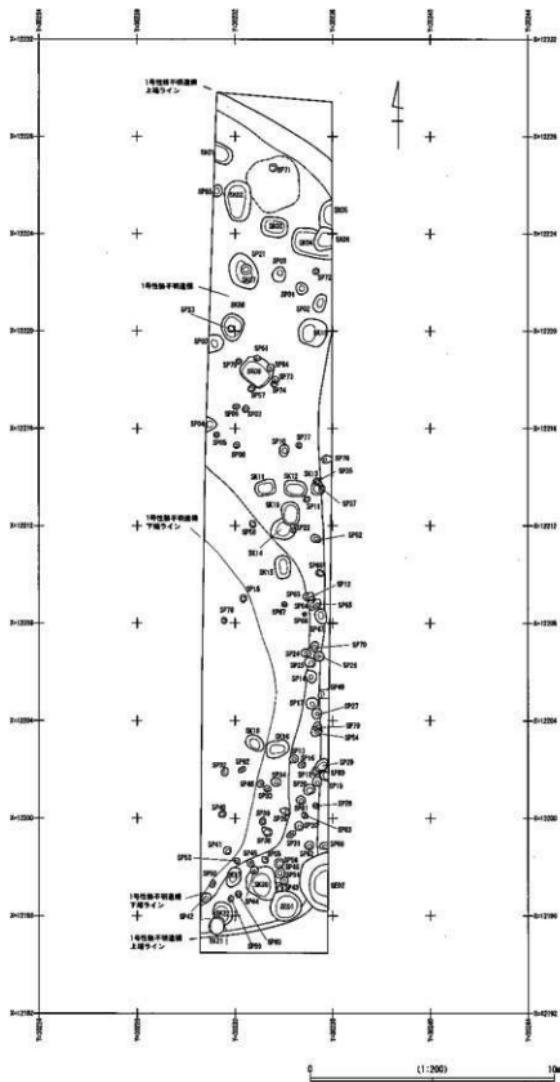
第Ⅷ層 鹿沼輕石土層



第4図 基本土層図 (1:40)



第5図 下坂田中台遺跡西区全体図 (1:300)



第6図 下坂田中台遺跡東区全体図 (1:200)

第4章 下坂田中台遺跡西区

西区の調査は平成24年11月27日～12月20日まで行われた。検出された遺構は竪穴住居跡3軒、溝1条、柵列1条、屋外炉1基、土坑28基、ピット35基を数える。以下から時代順に遺構・遺物の概観をしていくが、ピットは時代不明なものが多く、別に節を立てて言及している。

第1節 繩文時代

繩文時代の遺構は土坑18基、屋外炉1基が検出されている。主に西区中央部から南側に集中して分布して、南に向かうほど密度が濃くなる傾向がある。遺物は中期中葉の阿玉台期から後期後葉安行2式期まで、特に後期中葉の堀ノ内から加曾利B式期までを中心に出土している。

1号屋外炉（第7図）

西区の南側に位置する。東側の半分が調査区外である。平面形は不整円形を呈する。長径約119cm、短径は現状約78cm、深さは約27cmを測る。主軸方向はN-19°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は起伏に富むが被熱の度合いは弱い。覆土は2層に分けられ、自然の埋没状況を呈する。このうち焼土は北側を中心に中～下層にかけて存在する。遺物は繩文土器が4点出土している。遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて繩文時代中期中葉阿玉台期の屋外炉であろう。

1号土坑（第8図）

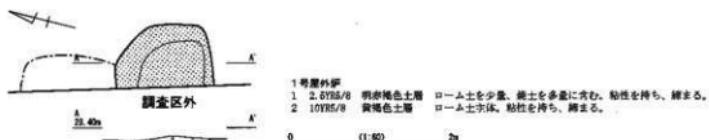
西区の北側に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は約91cm、短径は約75cm、深さは約51cmを測る。主軸方向はN-31°-Eを示す。断面形は筒状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて性格は不明だが、繩文時代の所産であろう。切り合ひ関係から見て3号竪穴住居跡に先行する。

2号土坑（第8・9図）

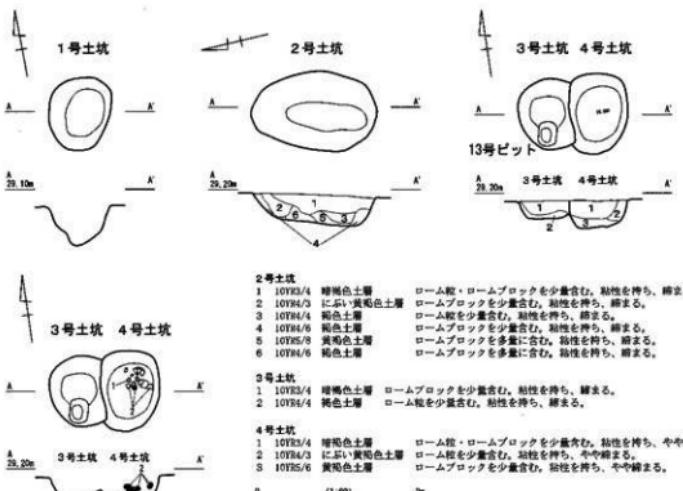
西区の南側に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は約152cm、短径は約98cm、深さは約32cmを測る。主軸方向はN-18°-Eを示す。断面形は筒状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は6層に分けられ、自然の埋没状況を呈する。遺物は繩文時代中期後葉加曾利E式期などの土器が23点出土している。このうち称名寺期の1点を図示した。遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて性格は不明だが、繩文時代後期前葉の所産であろう。

3号土坑（第8・10図）

西区の南側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約86cm、深さは約22cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、自然の埋没状況を呈する。遺物は繩文時代中期後葉加曾利E式期などの土器が23点出土している。このうち3点の遺物を図示した。1は繩文時代後期中葉の堀ノ内2式、2・3繩文時代後期中葉の加曾利B1式の深鉢である。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて性格は不明だが、繩文時代後期中葉の所産であろう。切り合ひ関係から見て4号土坑に先行する。



第7図 1号屋外炉



第8図 1～4号土坑

4号土坑 (第8・11図)

西区の南側に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約100cm、短径は約72cm、深さは約31cmを測る。主軸方向はN - 12° - Eを示す。断面形は筒状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期、後期前葉称名寺などの土器が23点出土している。このうち4点の遺物を図示した。全て縄文時代後期前葉称名寺1式の土器である。出土遺物や構造の形状や覆土のあり方から考えて縄文時代後期前葉の土壤基であろう。切り合ひ関係から見て3号土坑に後続する。

5号土坑 (第12図)

西区の南側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約92cm、短径は約67cm、深さは約24cmを測る。主軸方向はN - 11° - Eを示す。断面形は直状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦を持つ。覆土は単一層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期などの土器が3点出土しているが全て細片のため図示し得なかっ



第9図 2号土坑出土遺物

第2表 2号土坑出土遺物観察表

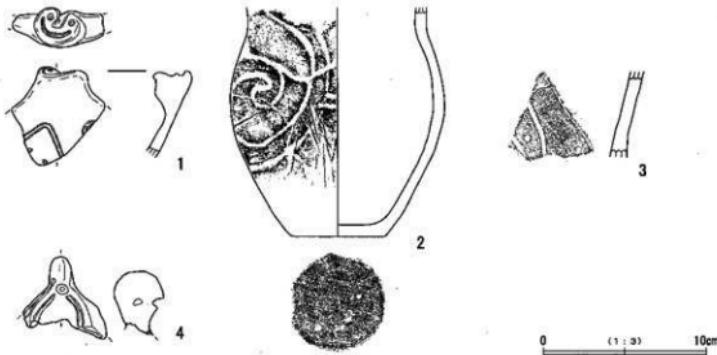
種類	土質	模様	形態	断面	表面	内部	外側	内側	特徴	名前
1. 壁土	純土土質	無模	筒状	粗片	-	<48>	-	白色粒7・砂粒	内外面: 橙色 少量	地文としてRL模文を施文体。多赤の流 動性を有す。



第10図 3号土坑出土遺物

第3表 3号土坑出土遺物観察表

種類	土質	模様	形態	断面	表面	内部	外側	内側	特徴	名前
1. 壁土	純土土質	無模	筒状	粗片	-	<23>	-	白色粒7・少量、 白雲母片微量	内外面: 明小褐 色	粗粒状構造を有す。その極に細粒を 施す。平行比縫を構成させて、その間に 横の割目を入れる。
2. 壁土	純土土質	無模	筒状	粗片	-	<33>	-	白色粒7・白雲 母片微量	内外面: 橙色 少量	筒状外縁1条の沈縫。内面ナデ。 加古利B 1式附
3. 壁土	純土土質	無模	筒状	粗片	-	<33>	-	白色粒7・石英 粒・白雲母多量	内外面: にい 粒、白雲母多量 橙色	筒状外縁多条の沈縫を有す。



第11図 4号土坑出土遺物

第4表 4号土坑出土遺物観察表

種類	土質	模様	形態	断面	表面	内部	外側	内側	特徴	名前
1. P 4	純土土質	無模	口縁部～ 筒状	粗片	-	<60>	-	白色粒子・白雲 母片微量	内外面: 淡黃褐 色	底板が底縫の沈縫部。底縫部上面を円形 に取りだし、沈縫と斜向又は直角。斜部 に平行する沈縫を山形に施し、比縫開 けがある。
2. P 5・7・8	純土土質	無模	筒状～底 部	70	-	<140>	55	白色粒7・白雲 母片微量	内外面: 明小褐 色	筒状外縁平行する沈縫で底縫灰、淡黄 色を施す。沈縫間に斜角小切の沈縫灰又 は底縫の無縫が調節。
3. 壁土	純土土質	無模	筒状	粗片	-	<53>	-	白色粒子・苏打 石微量	内外面: にい 粒、蘇打石 微量	重下する2条の沈縫内に斜向文を施す。
4. 壁土	純土土質	深模	突起部	粗片	-	<51>	-	白色粒7・チャート 微量	内外面: 明黄褐 色 白雲母多量	円形に突出する突起。底縫正面上に円文、 突起より比縫による入底文が走る。

た。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて性格は不明だが、縄文時代中期後葉以降の所産であろう。

6号土坑（第12・13図）

西区の南側に位置する。遺構の西側半分が調査区外である。平面形は円形を呈する。径は約61cm、深さは約32cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は5層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式期や後葉加曾利E式期などの土器が13点出土している。このうち1点、縄文時代中期後葉加曾利E IV式期の遺物を図示した。出土遺構の形状や覆土のあり方から考えて性格は不明だが、縄文時代中期後の所産であろう。

7号土坑（第12・14図）

西区の南側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約93cm、深さは約45cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式期や後葉加曾利E式期などの土器が75点出土している。このうち8点の遺物を図示し得た。1～5は縄文時代中期後葉加曾利E III～IV式、6～8は縄文時代後期前葉称名寺1式期の深鉢である。出土遺物や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、縄文時代中期後葉から後期前葉の円形土壙墓であろう。切り合い関係から見て6号ピットに先行する。

8号土坑（第12図）

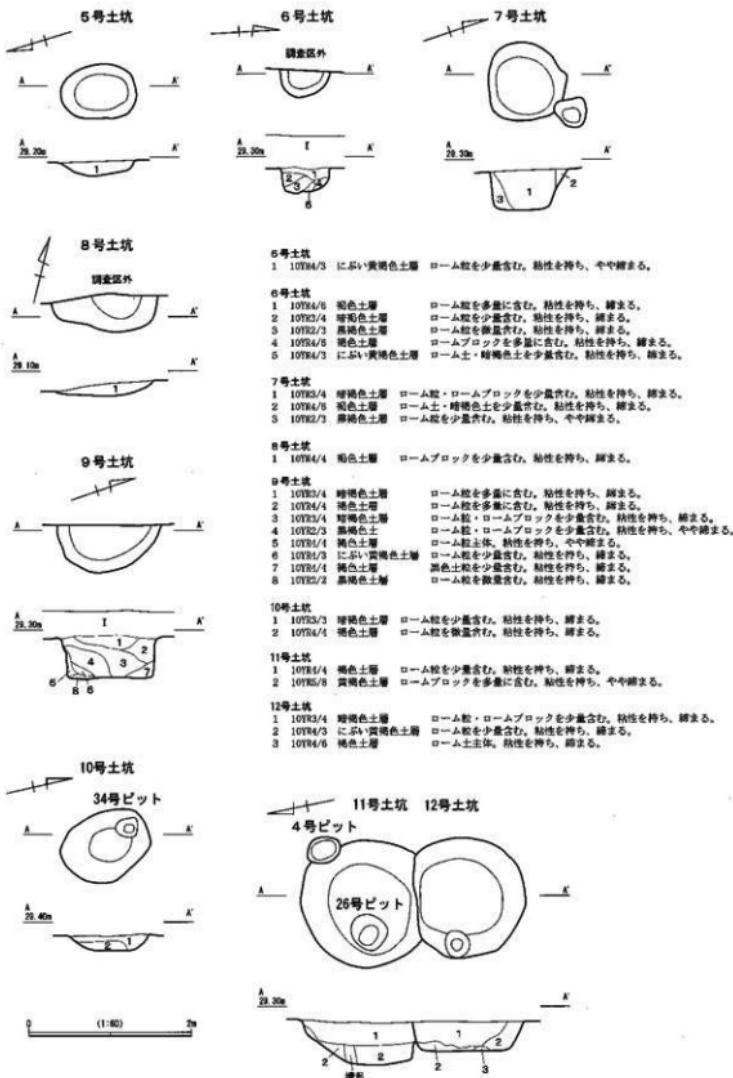
西区の南側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約113cm、短径は現状約47cm、深さは約21cmを測る。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面はやや起伏を持つ。覆土は単一層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが縄文時代の所産であろう。切り合い関係から見て1号溝に先行する。

9号土坑（第12・15図）

西区の南側に位置する。遺構の西側半分が調査区外である。平面形は円形を呈する。径は約126cm、深さは約66cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は8層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期や後期中葉加曾利B式期などの土器が13点出土している。このうち後期中葉加曾利B 2式期の1点を図示した。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、縄文時代後期中葉の円形土壙墓であろう。

10号土坑（第12図）

西区の南側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約110cm、短径は現状約83cm、深さは約32cmを測る。主軸方向はN-18°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。遺物は縄文時代中期などの土器が2点出土している。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが縄文時代中期の所産であろう。



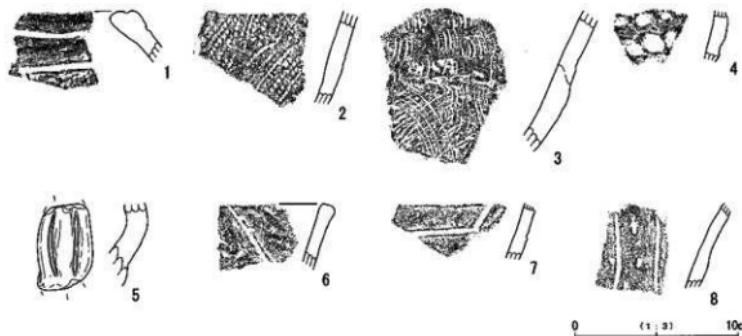
第12圖 5~12號土坑



第13図 6号土坑出土遺物

第5表 6号土坑出土遺物観察表

測定項目	測定値	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果
1 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <25> - 白色粒子・砂粒 敷面 内外層：褐色 丸部外側に織文抹取方向沈層を 有し、内側に施す。内外面ナメ。 加賀利三式期									



第14図 7号土坑出土遺物

第6表 7号土坑出土遺物観察表

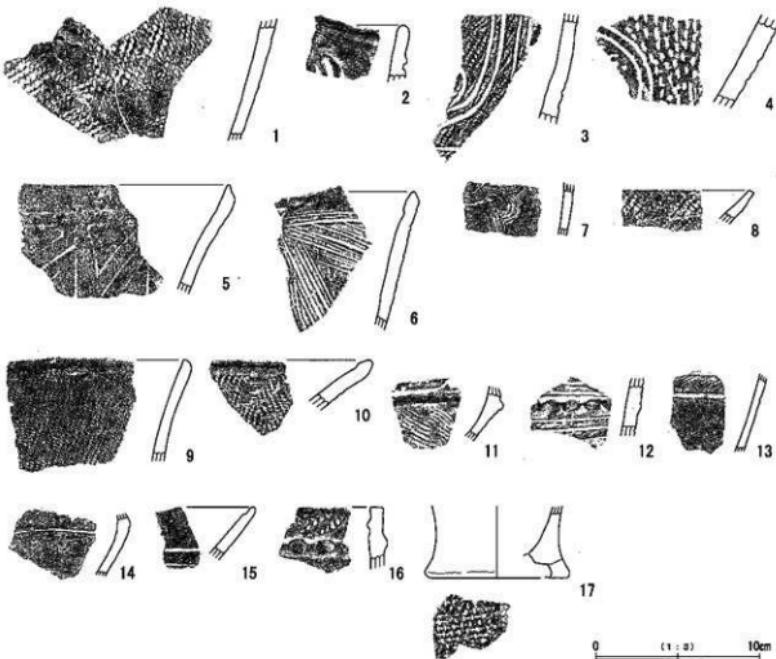
測定項目	測定値	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果
1 壁土 織文土器 滝井 口縁部～ 刷部 細片 - <31> - 白色粒子多量、 内外層：に占比い 色斑点少量 良好 キヤリバー印。口縁部以下に2～5cmの細筋、その間を優等帶とする。下位は良文。内面ナメ。加賀利三式期									
2 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <59> - 白色粒子・白雲 粒片少量 内面：赤褐色 外面：に占比い 色斑点 良好 細部外側にLR織文を施文。内面ナメ。加賀利三式期									
3 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <87> - 白色粒子少量、 黑彩點微量 内面：黄褐色 外面：青灰褐色 良好 細部外側上位には4～5cm単位の仄織文を全周に亘る。下位は4～5cm単位の細筋をする毛文を交差させて施文。内面ナメ。加賀利三式期									
4 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <32> - 白色粒子極量 内外層：に占比い 色斑点 良好 細部外側、板方向の連続押捺文。内面ナメ。加賀利三式期									
5 壁土 織文土器 滝井 把手部 細片 長径 短径 細片 細部外側：白色粒子少量、 内外層：青褐色 黄褐色 良好 細部の横状肥厚。沈層を2条ある。横段に押捺。加賀利三式期									
6 壁土 織文土器 滝井 口縁部～ 刷部 細片 - <40> - 白色粒子少量、 白雲粒片少量 内面：黄褐色 外面：褐色 平隣済法。斜方向に沈層を施文。各名寺1式期									
7 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <35> - 白色粒子少量、 白雲粒片少量 内面：褐灰褐色 外面：に占比い 色斑点 良好 平行する沈層を2条模造。斜方向の沈層を施文。内面ナメ。各名寺1式期									
8 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <52> - 白色粒子、 ナードー板微量、 白雲粒片少量 内外層：明黄褐色 小良 平行する2条の沈層を墨下。 各名寺1式期									



第15図 9号土坑出土遺物

第7表 9号土坑出土遺物観察表

測定項目	測定値	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果	測定方法	測定結果
1 壁土 織文土器 滝井 刷部 細片 - <27> - 白色粒子・砂粒 多量 内面：に占比い 色斑点 良好 施用する沈層を多条に施文。 加賀利2式期									



第16図 11号土坑出土遺物

第8表 11号土坑出土遺物観察表

1	壤土	绳文土器	深鉢	腹部	10	-	<7>	-	白色粒子微量 内外面：暗褐色 良好	LR 繩文を多方向に施す。内面はミガナ。	名古寺1式期
2	壤土	绳文土器	深鉢	口縁部～ 縁部	縁片	-	<1>	-	白・赤色粒子少 量 内外面：褐色 良好	直状縪縹跡。内外面施文。縁部による入 れ縫文と粘り付け。	名古寺1式期
3	壤土	绳文土器	深鉢	縁部	縁片	-	<8>	-	白色粒子・砂粒 少量 内外面：赤褐色 良好	繩文として LR 繩文を施文。弧状とな る平行紋路を多条に施す。	名古寺1式期
4	壤土	绳文土器	深鉢	縁部	縁片	-	<5>	-	白色粒子・砂粒 少 内外面：暗褐色 良好	地文として直状縪縹跡。平行する角形文 を張状に施す。	名古寺1式期
5	壤土	绳文土器	深鉢	口縁部～ 縁部	縁片	-	<6>	-	白色粒子・ チャート粒・白 雲母片少量、 黑曜石多量 内外面：褐色 良好	口縁部内面を上方につまみ出す。沈量で 入出文を施し、LR 繩文を充填。	名古寺1式期
6	壤土	绳文土器	深鉢	口縁部～ 縁部	縁片	-	<8>	-	白色粒子・ チャート粒・石 英岩板 内外面：にぶい 質褐色 良好	底状縪縹跡。口縁部を僅かに肥厚。 縁部外周多条の条線を模及び斜削。	名古寺1式期
7	壤土	绳文土器	深鉢	縁部	縁片	-	<3>	-	白色粒子・ チャート粒微 量 内外面：褐色 良好	4～5条1単位の条線及び入出文。 縁ノ内2式期	
8	壤土	绳文土器	深鉢	口縁部～ 縁部	縁片	-	<2>	-	白色粒子微量、 砂粒微量 内外面：暗褐色 良好	平縪縹跡。LR 繩文を模倣。	加賀利B1式期
9	壤土	绳文土器	深鉢	口縁部～ 縁部	縁片	-	<6>	-	白色粒子・白雲 母片微量 内外面：暗褐色 良好	平縪縹跡。LR 繩文を模倣。	加賀利B2式期
10	壤土	绳文土器	深鉢	口縁部～ 縁部	縁片	-	<3>	-	白色粒子・石英 黑曜石微量 内外面：褐色 良好	平縪縹跡。口縁部内面有段。内面無文。 下位LR 繩文を多方向に施す。	加賀利B2式期
11	壤土	绳文土器	深鉢	縁部	縁片	-	<3>	-	白色粒子微量、 砂粒微量 内外面：明褐色 良好	底量を模倣させ貼り付け。その上位に通 縫利向文。下位LR 繩文を施す。	加賀利B2式期

12	覆土	縄文土器	深鉢	腹部	縦片	-	<35>	-	白色粒子少量、白雲母片微量	内面：にいわ 外色：褐色	単柱を伴う楕円形を横走させ貼り付け、 上下に位置。LR 縄文を施文化、側面 は地色を施す。	加曾利 B 2 式期
13	覆土	縄文土器	深鉢	腹部	縦片	-	<47>	-	白色粒子微量	内面：褐色	直一条の沈縫を横走させ上下に位置。上位 は LR 縄文、下位は地色。	加曾利 B 2 式期
14	覆土	縄文土器	深鉢	腹部	縦片	-	<33>	-	白色粒子少量	内面：褐色	直 L 及び縦縫文を上位に施す。沈縫を横走させ 位置する。下位は地色。	加曾利 B 2 式期
15	覆土	縄文土器	浅鉢	口縫部～ 腹部	縦片	-	<26>	-	白色粒子微量	内面：褐色	口縫部が直線的上位に位置する。内面に沈縫 がある。外縫部が直する平行沈縫を施し、その 間に LR 縄文を施す。	加曾利 B 3 式期
16	覆土	縄文土器	深鉢	口縫部～ 腹部	縦片	-	<37>	-	白色粒子微量、石英微量	内面：にいわ 外色：褐色	口縫部が直線的上位に位置する。内面に沈縫 がある。外縫部が直する平行沈縫を施す。	安行 1 式期
17	覆土	縄文土器	深鉢	腹部～底 部	ID	-	<44>	(85)	白色粒子微量	内面：にいわ 外色：褐色	網状・薄板状の広い器壁、網目内外面ナデ。 底部外側削除代換。	後期



第17図 12号土坑出土遺物

第9表 12号土坑出土遺物観察表

1	覆土	縄文土器	深鉢	口縫部～ 腹部	縦片	<44>	-	白色粒子少量、 白雲母片微量	内面：褐色 外色：灰黃褐色	直立的に立ち上がる沈縫。器部外面に横 走して斜する沈縫を施す。内外面ナデ。		瓶之内 2 式期
										直立的に立ち上がる沈縫。器部外面に横 走して斜する沈縫を施す。内外面ナデ。	直立的に立ち上がる沈縫。器部外面に横 走して斜する沈縫を施す。内外面ナデ。	
2	覆土	縄文土器	深鉢	腹部	縦片	<44>	-	白色粒子・石英 粒多量、砂粒少 量、白雲母片微 量	内面：褐色 外面：にいわ 褐色	網部外側斜走する沈縫を施すおよび側 面する沈縫を施す。内外面ナデ。	直立的に立ち上がる沈縫を施す。内外面ナデ。	瓶之内 2 式期
3	覆土	縄文土器	深鉢	腹部	縦片	<33>	-	白色粒子・石英 粒多量	内面：灰黃褐色	直 L R 縄文を施す。直走する沈縫を施す。	直 L R 縄文を施す。直走する沈縫を施す。	瓶之内 2 式期
4	覆土	縄文土器	深鉢	腹部～底 部	ID	<40>	(125)	白色粒子多量、 砂粒、白雲母片 少量	内面：褐色	無文。網部内面及び底部内外面ナデ。網 部外側斜方向の弱いケメリ。	無文。網部内面及び底部内外面ナデ。網 部外側斜方向の弱いケメリ。	

11号土坑（第12・16図）

西区の南側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約148cm、深さは約37cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期中葉阿玉台式期から後期中葉加曾利B式期にかけての土器や土製円盤などが265点出土している。このうち17点の遺物を図示し得た。1～4は縄文時代後期前葉の称名寺式期の深鉢・鉢、5～7は同じく前葉の堀ノ内式期の深鉢、8～15は後期中葉加曾利B式期の深鉢や浅鉢、16は後期後葉安行1式期の深鉢、17は後期の底部である。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、縄文時代後期中葉の円形土壙墓であろう。切り合ひ関係から見て12号土坑に先行して、25号ピットに後続する。

12号土坑（第12・17図）

西区の南側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約156cm、深さは約44cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代後期中葉堀ノ内式期などの土器が67点出土している。このうち4点の遺物が図示し得た。1～3は縄文時代後期中葉堀ノ内式期の深鉢である。4は時期不明の底部である。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、縄文時代後期中葉の円形土壙墓であろう。切り合ひ関係から見て4号ピットに先行して、11号土坑や26号ピットに後続する。

13号土坑（第18・19図）

西区の南側に位置する。平面形は不整隅丸方形を呈する。長径は約123cm、短径は最大約81cm、深さは約21cmを測る。主軸方向はN-14°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代後期後葉安行期などの土器が6点出土している。このうち縄文時代後期後葉の安行1式期の1点を図示した。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが縄文時代の所産であろう。

14号土坑（第18図）

西区の南側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約54cm、深さは約21cmを測る。断面形は不整形を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが縄文時代の所産であろう。

15号土坑（第18図）

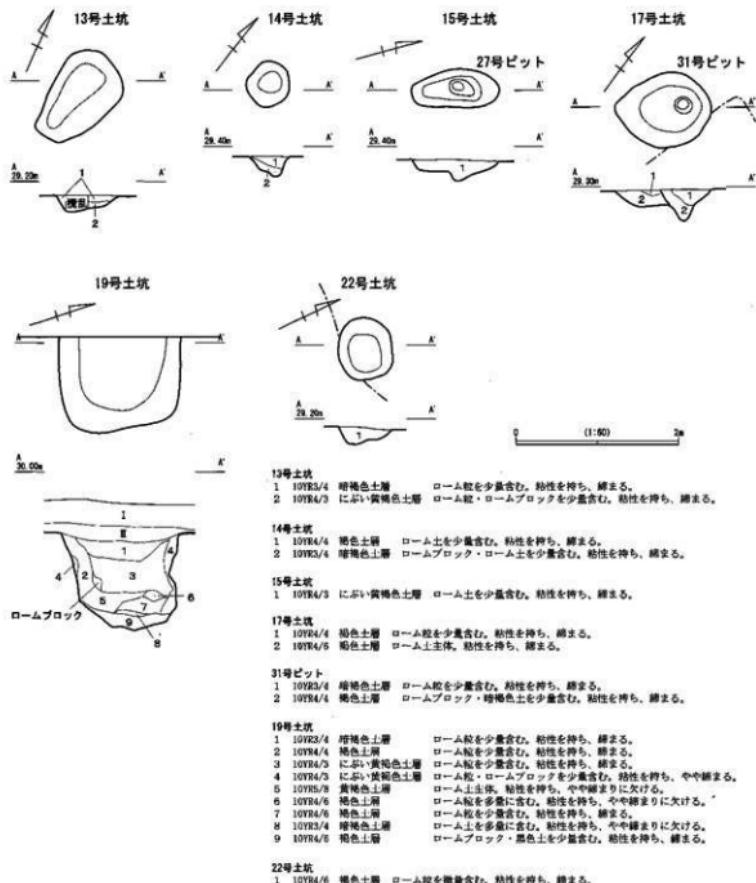
西区の中央部に位置する。平面形は長椭円形を呈する。長径は約107cm、短径は約47cm、深さは約19cmを測る。主軸方向はN-14°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面はやや起伏を持つ。覆土は単一層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが縄文時代の所産であろう。切り合い関係から見て27号ピットに後続する。

17号土坑（第18図）

西区の中央部に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約109cm、短径は約92cm、深さは約20cmを測る。主軸方向はN-57°-Eを示す。断面形は有段の不整形を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが縄文時代の所産であろう。切り合い関係から見て31号ピットに先行する。

19号土坑（第18・20図）

西区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約157cm、短径は現状約113cm、深さは約98cmを測る。断面形は不整形を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面はやや起伏を持つ。覆土は9層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は中層より上位を中心に縄文時代中期後葉加曾利E式期や後期前葉称名寺式期などの土器が24点出土している。このうち4点の遺物を図示した。1は縄文時代中期後葉加曾利E式期の深鉢、2・3は縄文時代後期前葉称名寺2式期の深鉢、4は時期不明である。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、縄文時代中期後葉から後期前葉にかけての袋状土坑であろう。壁の崩落により平面形が隅丸方形となったと考えられる。



第18図 13~15・17・19・22号土坑、31号ビット



第19図 13号土坑出土遺物

第10表 13号土坑出土遺物観察表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
1	夏土	純文土器	深井	腹部	頸部	肩部	-	<16	-	砂粒・石英粒少 量、白雲母多量	膠質：に多い黃 褐色 外殼：に多い黃 褐色	良好	鉛走して交差する沈澱を施す。	安行1式期																																																																																					



第20図 19号土坑出土遺物

第11表 19号土坑出土遺物観察表

1	覆土	周文土器	深鉢	頭部	標片	-	<45>	-	白、赤色粒子少 量、石英多量。		内外面：明黄褐 色	良：頭部外側7条1単位の泥縫を施行させ 好下。内面ナデ。	加賀利式規 格名古2式規
									白色粒子少量	内外面：褐色			
2	覆土	周文土器	深鉢	頭部	標片	-	<62>	-	白色粒子少量	内外面：褐色	良：頭部外側2条1単位の泥縫を施行せ 好施文。内外面ナデ。	名古寺2式規	
3	覆土	周文土器	深鉢	頭部	標片	-	<45>	-	白色粒子少量	内外面：浅黄褐 色	不：頭部外側ナデ後2条1単位の泥縫を施 用。河原的に施文。	名古寺2式規	
4	覆土	周文土器	深鉢	口縁部～ 頭部	標片	-	<31>	-	白色粒子・石英 粒・チャート粒 少量	内面：にぶい褐 色 外面：黒褐色	無文。口縁部が大きく内凹する器形。口 縁部肥厚。頭部外側ヘラ状工具で横方向 ナデ。内面ナデ。	規格無	

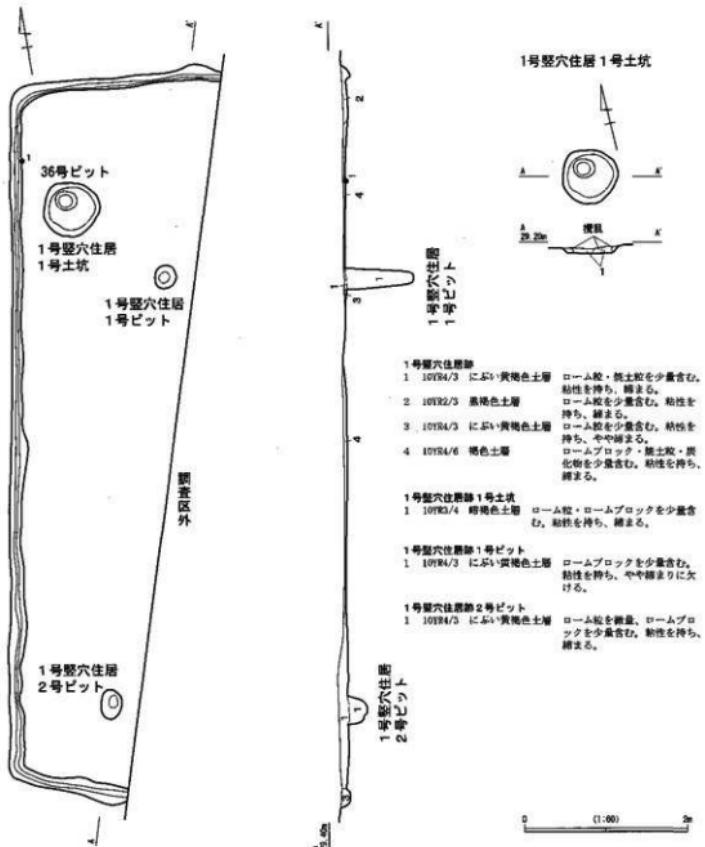
22号土坑（第18図）

西区の中央部に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約77cm、短径は約65cm、深さは約19cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は單一層で、人为的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが繩文時代の所産であろう。

第2節 古墳時代

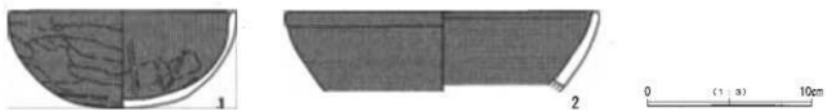
古墳時代の遺構は堅穴住居跡が3軒と土坑が2基検出されている。西区の北側東側から中央部東側に並んで位置している。どの住居跡も調査区外となる部分があり、完掘状況は確認できなかった。遺物は土師器の壺や壺を中心に出土しているが、極少数須恵器の壺蓋や壺が出土している。

1号堅穴住居跡（第21・22図）



第21図 1号堅穴住居跡

西区のはば中央部に位置する。東側の2/3が調査区外である。本住居跡の上面を大きく耕作により削平されているうえ、トレッチャ痕が床面を壊して南北に走っているため遺構の残存は非常に悪かった。平面



第22図 1号竖穴住居跡出土遺物

第12表 1号竖穴住居跡出土遺物観察表

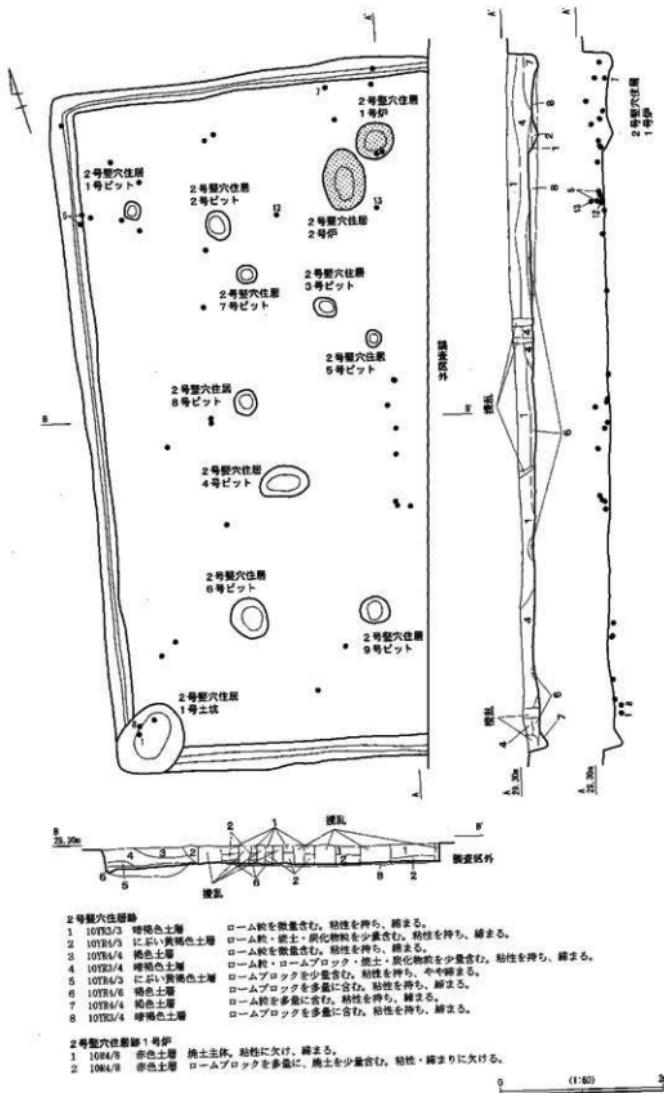
番号	性質	形状	大きさ	材質	表面状態	内部構造	特徴	測定値		説明	
								口径	深さ		
1	P1	土器部	平	口縁部一 底部	70 (185)	60	—	白色粒子少 白蜜母片多量	内外面：赤褐色 良好	丸底、口縁部最も高く直立立ち上がる。口 縁部内面にコナナ、体筋外側に横力筋。 ラケズリ後ナナ、内面一部ノラナナナナナ。 底部は多方向へラケズリ。体筋内面放 射状のミザキ。	唇全周に赤 褐色 5世紀後葉～6 世紀前葉
2	SPM2	土器部	平	口縁部一 底部	20 (18.8)	<49>	—	白色粒子・白蜜 母少量	内面：赤色 外面：明赤褐色 良好	口縁部僅かに内傾。口縁部内外面コナナ デ。体筋内面放丁勞ナナナ。	内面全周赤色。 6世紀末～7世 紀前葉

形は南北方向に約 891 cm、東西方向に現存約 260 cm の方形を呈する。主軸方向は N - 10° - E を示す。壁はほぼ垂直に掘り込まれていて、残存部的最大壁高は約 13 cm を測る。床面はローム土直上に全面の貼り床を造られ、厚さ約 1 cm、Ⅲ～Ⅳ層土中に形成されており、全体的に平坦でやや軟弱である。覆土は 4 層に分けられ、人為的な堆積状況を呈する。また、覆土には焼土や炭化物粒が少量検出されている。壁面に沿って周溝が検出された。平均幅 20 cm、深さ 7 cm を測り、確認された範囲において全周する。本住居跡から 2 基のピットおよび土坑が 1 基検出された。位置や規模からこの 2 基のピットが主柱穴と考えられる。口径 25 ～ 29 cm、深さ約 23 ～ 75 cm を測る。土坑は位置などから貯蔵穴とは考えられないが、径約 68 cm の円形で、深さは約 10 cm を測る。1 基の土坑と 2 基のピット以外に炉痕などの住居跡に付帯する施設は検出されていない。掘り方は確認できなかった。遺物は覆土中やピットや土坑などから縄文時代中期中葉阿玉台式期から後期前半安行式期の深鉢、土師器の壺、甕などを中心に 456 点出土しているが、大半は流れ込みの縄文土器である。竪穴住居跡に伴う遺物も細片が大多数であった。したがって遺構に伴う遺物として図示し得たのは 2 点である。2 点とも赤色を伴う土師器の壺である。1 には内面に放射状の暗文が確認できる。

伴出土器や覆土のあり方などから判断して 5 世紀後葉から 6 世紀前葉の所産であった可能性が高い。切り合ひ関係から見ると 36 号ピットに後続する。また、覆土から確認された焼土や炭化物などから、材は出土していないが焼失住居や焼土や灰などの廃棄行為で埋められた可能性を指摘できる。

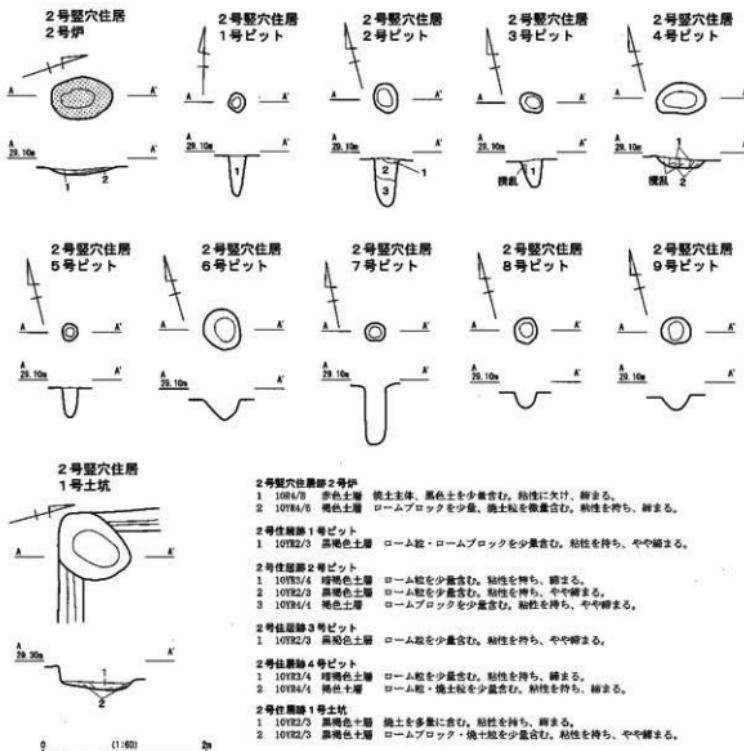
2号竪穴住居跡（第23～25図）

西区のはば中央部に位置する。東側の半分が調査区外である。本住居跡でも 1号竪穴住居跡と同様にトレーンチャーチが床面を壊して南北に走っているため遺構の残存は悪かった。平面形は南北方向に約 850 cm、東西方向に現存約 451 cm の方形を呈する。主軸方向は N - 12° - E を示す。壁はほぼ垂直に掘り込まれていて、残存部的最大壁高は約 29 cm を測る。床面はほぼ全面の貼り床で厚さ約 1 cm、Ⅲ～Ⅳ層土中に形成されており、僅かに南側へ傾斜しているが全体的に平坦で、よく硬化している。覆土は 8 層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。また、覆土や床面には焼土や炭化物粒が少量検出されている。壁面に沿って周溝が検出された。平均幅 24 cm、深さ 6 cm を測り、確認された範囲において全周する。本住居跡から炉痕が 2 基、9 基のピットおよび土坑が 1 基検出された。炉痕は地床炉で、住居跡中央部北壁寄りに並列して 2 基検出されている。1 号炉は平面形が円形で径約 48 cm、深さ約 23 cm、2 号炉は平面形が楕円形で長径約 75 cm、短径約 51 cm、深さ約 19 cm を測る。どちらの炉痕も底面は良く被熱している。土坑は位置から貯蔵穴と考えられ、



第23図 2号竪穴住居跡 (1)

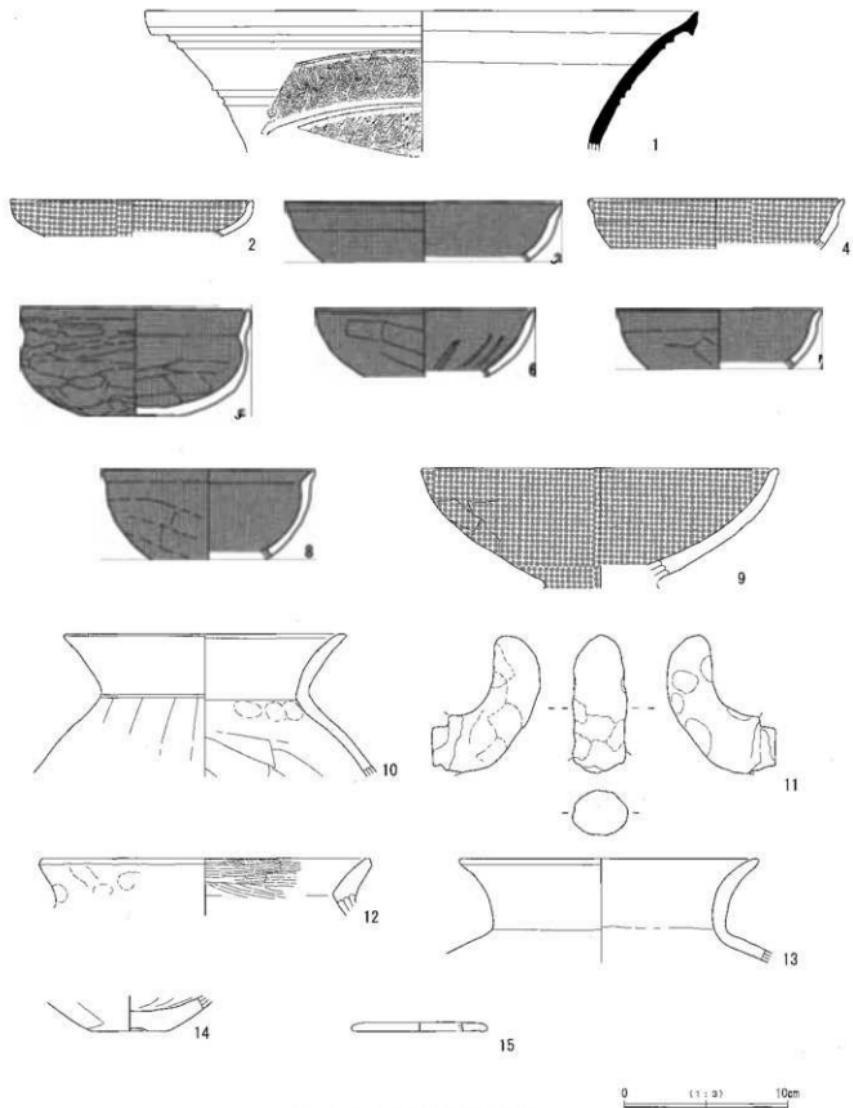
長径約96cm、短径約75cmの楕円形で、深さは約20cmを測る。ビットは平面形が円形ないし椭円形で、口径25~41cm、深さ約16~70cmを測る。位置や規模から2号および6号ビットが主柱穴と考えられる。こ



第24図 2号竪穴住居跡 (2)

これら以外に住居跡に付帯する施設は検出されていない。掘り方は床下全面に及んでいて、床面からの深さは2cmから11cmを測りやや起伏を持つ。遺物は覆土中やピットや土坑などから縄文時代中期中葉阿玉台式期から後期前半安行式期の深鉢や台付鉢、異型台付土器、磨石、石皿、須恵器や土師器の壊、壺、鉢などを中心に1246点出土している。多くが流れ込みである縄文土器であるが、遺構に伴う遺物として15点図示した。1は土坑から出土の須恵器壺である。2～7は土師器の壊である。2を除き器高が深いため碗とするべきかもしれない。8は土師器の碗である。9は土師器の高壺壺部である。2～9はすべて赤彩されている。10～15は土師器の壺、瓶、壺である。

伴出土器や覆土のあり方などから判断して5世紀後葉～6世紀前葉の所産であった可能性が高い。また、覆土や床面に確認された焼土や炭化物などから、材は出土していないが焼失住居や焼土や灰などの廃棄行為で埋められた可能性を指摘できる。



第25図 2号竪穴住居跡出土遺物

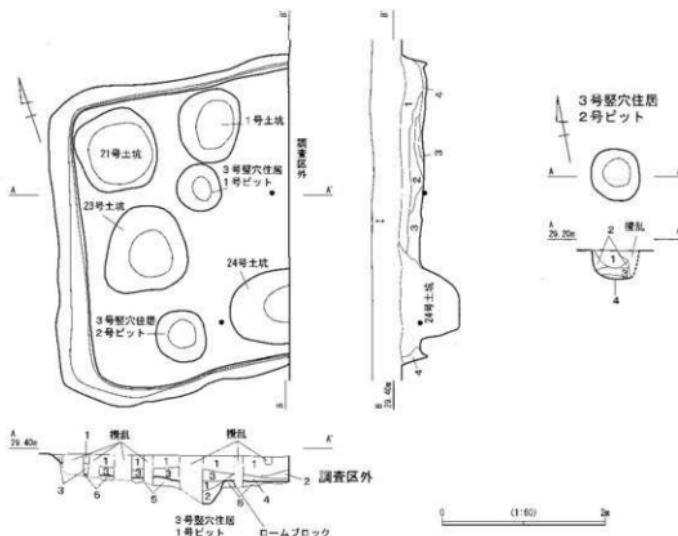
0 (1:3) 10cm

第13表 2号竪穴住居跡出土観察表

1	SK 01	須恵器	壺	山縁部	10	(340)	<±7>	-	白色粒子少量 内外面: 灰色	口縁部は丸く、端部上部にのみ突き出される。底面は、2~3枚の瓦状圓形三角形の底底好んで施し下に区画する。底面内は7~8枚1基の底底を形成させた。	口縁部は丸く、端部上部にのみ突き出される。底面は、2~3枚の瓦状圓形三角形の底底好んで施し下に区画する。底面内は7~8枚1基の底底を形成させた。	
										表面全面に赤彩。	6世紀中期	
2	北側下層	土器器	坪	口縁部~ 底部	相片	(145)	<±2>	-	白色粒子・石英 砂・砂粒少量 内外面: 赤褐色 好	口縁部が立らかがる。体部断面みを待 め方向ナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀中期
3	北側下層	土器器	坪	口縁部~ 底部	相片	(165)	<±6>	-	白色粒子少量・ 砂粒多量・石英 砂微量	口縁部が立らかがる。体部断面みを待 め方向ナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀中期
4	南側下層	土器器	坪	口縁部~ 底部	相片	(155)	<±1>	-	白色粒子・石英 砂・チアモ・砂 白雲母片少量	口縁部断面に外反。体部断面みを待つ。 口縁部外側ヨコナダ。体部外側ヨコナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀末~6世 紀前期
5	P 29· 31	土器器	坪	口縁部~ 底部	95	136	66	55	白色粒子少量 内外面: 赤褐色 好	手平。底面内凹し、舟底を成す。口縁部 も内凹する。口縁部内側ヨコナダ。体 部外側上部前方にハラタツリ。下部多方 向ヘラタツリ。内面多方向ヘラナダ後ナ ダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀末
6	東側下層	土器器	坪	口縁部~ 底部	10	(134)	<±2>	-	白色粒子・白雲 母片少量 内外面: 明小褐 色	口縁部窓かく、体部断面みを待つ。口縁 部外側ヨコナダ。体部外側ヨコナダ。内 面に放物状の変化。	表面全面に赤 彩。	6世紀末~6世 紀前期
7	P 35	土器器	坪	山縁部~ 底部	相片	(123)	<±7>	-	白色粒子・白雲 母片多量	口縁部窓直し。体部断面上部で僅に 舟底らみと神つ。口縁部内側ヨコナダ。 体部外側上部後方のみハラタツリ。下部多方 向ヘラタツリ。内面多方向ヘラナダ後ナ ダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀末~6世 紀前期
8	SK 01·P 2	土器器	壺	山縁部~ 底部	20	(130)	<±5>	-	白色粒子・白雲 母片少量	口縁部窓かく。外反。体部断面みを待つ。 口縁部外側ヨコナダ。体部外側多方向 ヘラタツリ後ナダ。内面丁寧なナダ。軽 微との組合軽柔り付。	表面全面に赤 彩。	6世紀末
9	SP02	土器器	高坪 环形	口縁部~ 底部	20	(215)	<±7>	-	白色粒子・白雲 母片・砂粒 微量	口縁部内側ヨコナダ。体部外側多方向 ヘラタツリ後ナダ。内面丁寧なナダ。軽 微との組合軽柔り付。	表面全面に赤 彩。	6世紀末~6世 紀前期
10	SP02	土器器	壺	口縁部~ 底部	10	(170)	<±8>	-	白色粒子・砂粒 少量・白雲母片 微量	口縁部窓く「L」字状つく。口縁部内 外側ヨコナダ。調査内側横方向ヘラナダ 後ナダ。外側軽いナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀末
11	覆七	土器器	瓶	把手部	10	長さ 57 幅 34	高さ 85	-	白色粒子・砂粒 少量・白雲母片 微量	口縁部窓く「L」字状つく。口縁部内 外側ヨコナダ。調査内側横方向ヘラナダ 後ナダ。外側軽いナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀末
12	P 11	土器器	壺	口縁部	相片	(260)	<±4>	-	白色粒子・石英 砂・チアモ・砂 白雲母片微量	口縁部外側横頭頭、ヨコナダ。内側板方 向のハサ目。	表面全面に赤 彩。	6世紀中期
13	P 5	土器器	壺	口縁部~ 底部	10	(182)	<±4>	-	白色粒子微量 白雲母片微量	口縁部「L」字状に開く部分。内面ナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀中期
14	南側下層	土器器	壺	口縁部~ 底部	10	-	<±15> (45)	-	白色粒子・砂粒 微量・白雲母片 微量	調査内側丁寧なナダ。底面外層ナダ。内 面多方向ヘラナダ後ナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀中期
15	南側下層	土器器	壺	山縁部	相片	(84)	<±6>	-	白色粒子・砂粒 微量・白雲母片 微量	口縁部は僅かに盛り寄せ丸味を帯びる。全 面内面ナダ。	表面全面に赤 彩。	6世紀中期

3号竪穴住居跡（第27・28図）

西区の北側に位置する。東側の1/3が調査区外である。本住居跡の北東側が抜根痕による擾乱で壁の一部が破壊されている。平面形は南北方向に約374cm、東西方向に現存約282cmの方形を呈する。主軸方向はN-14°-Eを示す。壁は緩やかに掘り込まれており、残存部の最大壁高は約18cmを測る。床面は床の貼り床で厚さ約1cm、IV層土中に形成されており、全体的に平坦で、よく硬化している。覆土は4層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。壁面に沿って周溝が検出された。平均幅23cm、深さ4cmを測り、確認された範囲において全周する。本住居跡から主柱穴と考えられるビットが2基検出された。口径約56cm、深さ約25~33cmを測る。この2基のビット以外に押痕や貯藏穴などの住居跡に付帯する施設は検出されていない。掘り方は住居跡周縁部のみで、床面からの深さは2cmから11cmを測り起伏を持つ。遺物は覆土中やビットから繩文時代後期中葉加曾利B式期や後期後半安行1式期、土師器の壺や甕、壺などが116点出土している。多くが流れ込みである繩文土器であるうえ、擾乱などの影響で遺構に伴う遺物としてのみ2点示し得た。1・2共に土師器の壺である。1は全面、2は口縁部の一部に赤彩されている。2は奈良・平安時代の遺物の可能性があるが、ここで示すこととする。伴出土器や覆土のあり方などから判断して5世紀中葉~後葉の所産であった可能性が高い。切り合い関係から見ると21・23・24号土坑に先行して、1号土坑に後続する。



3号竪穴住居跡

- 107R3/4 暗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 2 107R3/4 暗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 3 107R4/4 黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 4 107R4/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒を多量に含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 5 107R4/5 黄色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性を持ち、やや縮まる。

3号竪穴住居跡 1号ビット

- 1 107R3/3 暗褐色土層 ローム粒を多量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 2 107R4/6 黄色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、縮まる。

3号竪穴住居跡 2号ビット

- 1 107R3/4 暗褐色土層 ローム粒、ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 2 107R4/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 3 107R5/8 黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 4 107R4/6 黄色土層 ローム粒主体。粘性を持ち、縮まる。

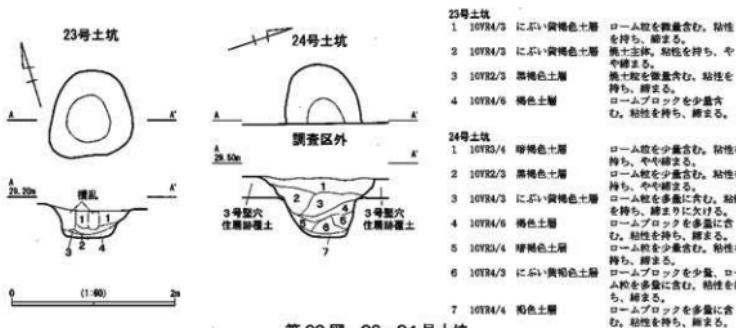
第26図 3号竪穴住居跡



第27図 3号竪穴住居跡出土遺物

第14表 3号竪穴住居跡出土遺物観察表

試験番号	土質	土解剖	环	口縁部— 体部	厚さ	（mm）	表面状況	表面	内部	内表面	外表面	全体的特徴	備考
								表面	内部	内表面	外表面		
1	褐土	土解剖	环	口縁部— 体部	20	(15.5)	<44>	—	白色粒子少量、 白色粒子微量	内表面：赤褐色、 良好	外表面：白褐色、 良好	丸底。口縁部は高く盛り立てて、体部は膨らみを持つ。口縁部内外面ヨコナギ。体部外表面方向ヨコガキ類へラケズリ模様。内部多方向のヘラケズリ模様。内面剥離状態。	表面全面に赤褐色で、内面全面にヨコナギ。
2	褐土	土解剖	环	口縁部— 体部	細片	(14.8)	<29>	—	白色粒子少量、 白色粒子微量	内表面：にぶい 黄色	外表面：赤褐色、 良好	口縁部やや肥厚。口縁部内外面ヨコナギ。口縁部外表面ヨコナギ。	口縁部外表面に赤褐色で、内面全面にヨコナギ。



第28図 23・24号土坑

23号土坑 (Pit 23)

西区の北側に位置する。平面形は不整円形を呈する。径は約100~116cm、深さは約33cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は4層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の切り合い関係や形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが古墳時代以降の所産であろう。切り合い関係から見て3号竪穴住居跡に後続する。

24号土坑 (Pit 24)

西区の北側に位置する。遺構の東側半分が調査区外である。平面形は椭円形を呈する。長径は現状約73cm、短径は約92cm、深さは約46cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は7層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の切り合い関係や形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが古墳時代以降の所産であろう。切り合い関係から見て3号竪穴住居跡に後続する。

第3節 中世以降

中世以降の遺構は溝1条、柵列1条、土坑8基検出されている。主に西区中央部から北側に集中して分布している。遺物は土師質土器の小皿や陶器などを中心に出土している。

1号溝（第29図）

西区の南側に位置して、東方向から西方向に向かって走る。確認部分の全長は約5.0m、上面幅は約100~152cm、底面の幅は約35~52cm、深さは約25~39cmを測る。主軸の方向はN-70°-Wを示す。底面の標高は約28.7mを測り、概ね平坦である。断面形は箱状を呈する。覆土は2層に分けられ、人為的な堆積状況を示す。遺物は縄文時代中期から後期の土器や土師器の壺、土師質土器の内耳鍋、常滑産の甕、磁器染付皿、施釉灯明皿など398点出土しているが、この遺構に伴うと思われる遺物はすべて細片のため、図示し得なかった。出土遺物や遺構の形状、覆土のあり方、調査区西壁に沿って走っていた現道と直交する分布状況などから判断して近世期の土地区画溝であった可能性が高い。切り合い関係から見て、8号土坑、35号ピットに後続する。

1号柵列（第30図）

西区の北側に位置する。ピットがほぼ等間隔に位置するが、ピット列が北側に伸びる可能性もある。また、ここでは柵列としたが、本遺構の東側に展開する掘立柱建物跡の可能性もあるが、今回の報告では現状の遺構分布に従い、柵列と報告する。現状4基のピットがピット間平均208cmでN-19°-Eに直線上に分布する。各ピットの平面形は円形ないし隅丸方形で、平均径は35cm、深さは平均28cmを測る。断面の柱痕や底部に柱の痕跡や覆土の根石などは確認されなかった。遺物は出土していない。覆土の状況から中世以降の所産であろうが、調査区西壁に沿って走っていた現道と軸方向が接続していることから、特に近世から近代期が考えられる。切り合い関係から見ると1号柵列1号ピットは28号土坑に、1号柵列2号ピットは26号土坑に先行する。

16号土坑（第31図）

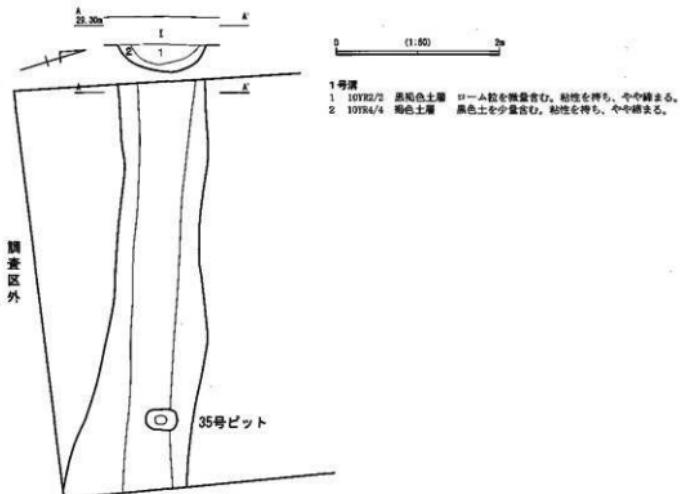
西区の中央部に位置する。遺構の西側半分が調査区外である。平面形は円形を呈する。径は約151cm、深さは約20cmを測る。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、自然な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て18号ピットに後続する。

18号土坑（第31図）

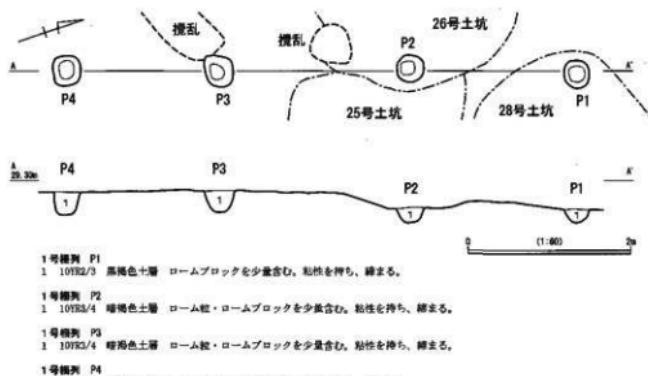
西区の北側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約91cm、深さは約36cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代後期中葉加曾利B式期などの土器が5点出土しているが、すべて細片のため図示し得なかった。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。

20号土坑（第31図）

西区の中央部に位置する。遺構の西側2/3が調査区外である。平面形は梢円形を呈する。長

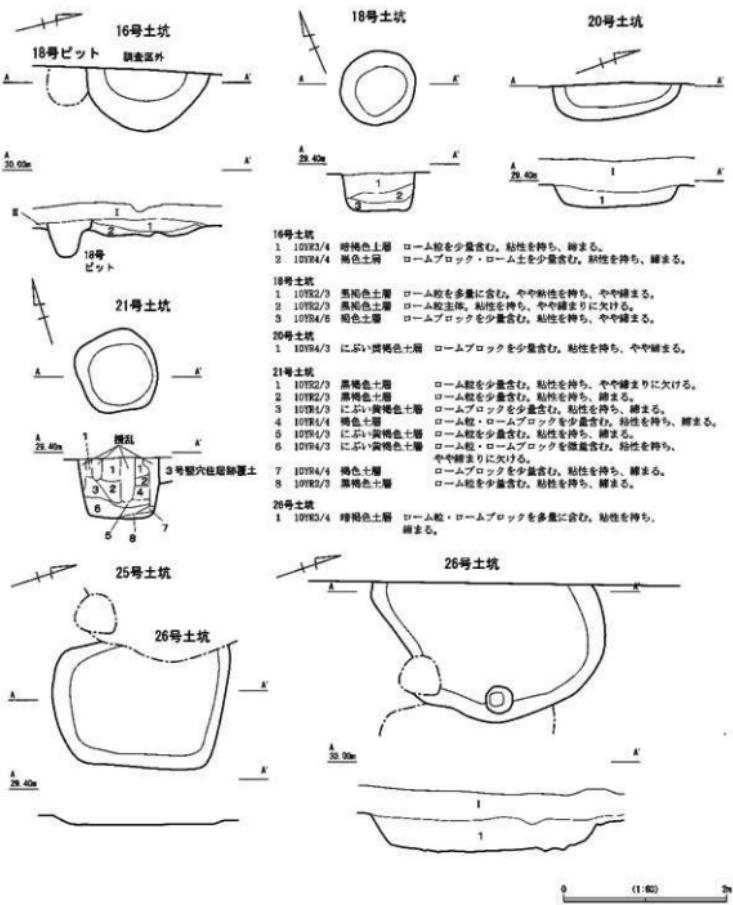


第29図 1号溝



第30図 1号櫛列

径は約144cm、短径は現状約44cm、深さは約7cmを測る。主軸方向はN-12°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期などの土器が2点出土しているが、すべて細片のため図示し得なかった。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、中世以降の25~28号土坑などと同様な抜根痕の可能性を持つ土坑であろう。



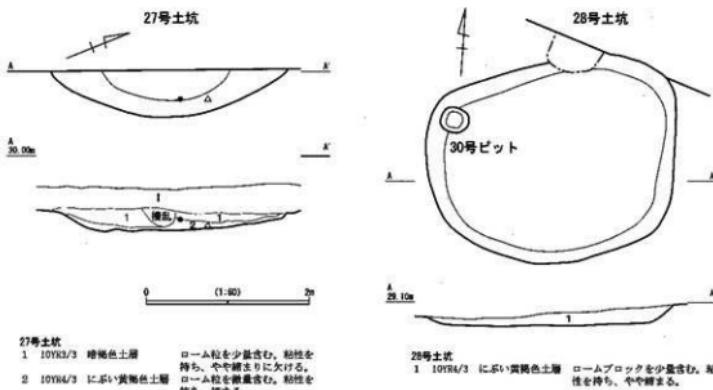
第31図 16・18・20・21・25・26号土坑

21号土坑（第31図）

西区の北側に位置する。平面形は不整円形を呈する。径は約104cm、深さは約41cmを測る。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は8層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期や後期などの土器や土器類の壊れ物が11点出土している。出土遺物や遺構の形状や覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。

25号土坑（第31図）

西区の北側に位置する。平面形は不整円形を呈する。長径は約211cm、短径は約151cm、深さは約18cm



第32図 27・28号土坑



第33図 27号土坑出土遺物

第15表 27号土坑出土遺物観察表

土質	角材	窓	壁	山根感	横片	-	<1>	-	断面形			底面	内面	外面	表面	底面	内面	外面	表面	底面	内面	外面	表面		
									黑色	灰色	白色														
1 黒土	角材	窓	壁	山根感	横片	-	<1>	-	黑色	灰色	白色	内面	外面	表面	底面	内面	外面	表面	底面	内面	外面	表面	底面	内面	外面

を測る。主軸方向はN - 22° - Eを示す。断面形は箱状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。遺物は出土していない。中世以降の20・26～28号土坑などと同様な抜根痕の可能性を持つ土坑であろう。切り合い関係から見て26号土坑に後続する。

26号土坑（第31図）

西区の北側に位置する。遺構の南壁の一部が擾乱により破壊されている。平面形は不整圓丸方形を呈する。長径は現状約175cm、短径は約223cm、深さは約20cmを測る。主軸方向はN - 72° - Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期の土器など6点出土している。中世以降の20・27・28・30号土坑などと同様な抜根痕の可能性を持つ土坑であろう。切り合い関係から見て25号土坑に先行して、1号横列2号ピットに後続する。

27号土坑（第32・33図）

西区の北側に位置する。遺構の西側2/3が調査区外である。平面形は椭円形を呈する。長径は現状約214cm、短径は現状約57cm、深さは約9cmを測る。主軸方向はN - 21° - Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代後期中葉加曾利B式期や後期後葉安行式期の土器、黒曜石の剥片、土師器の坏や壺、陶

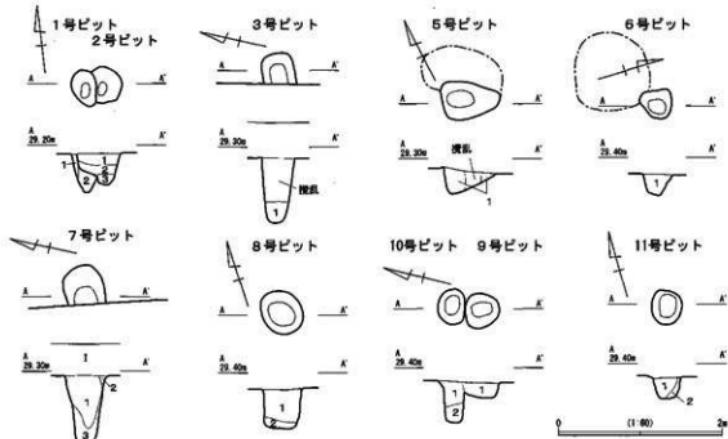
器の壺など19点出土している。このうちこの遺構に伴うものとして陶器の壺を1点図示した。中世以降の20・25～27号土坑などと同様な抜根痕の可能性を持つ土坑であろう。

28号土坑（第32図）

西区の北側に位置する。遺構の北壁の一部が搅乱により破壊されている。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約304cm、短径は約245cm、深さは約28～31cmを測る。主軸方向はN-82°-Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期や後期中葉加曾利B式期の土器など14点出土しているが、この遺構に伴うと思われる遺物は出土していない。中世以降の20・25～27号土坑などと同様な抜根痕の可能性を持つ土坑であろう。切り合い関係から見て1号柵列1号ピットに後続する。

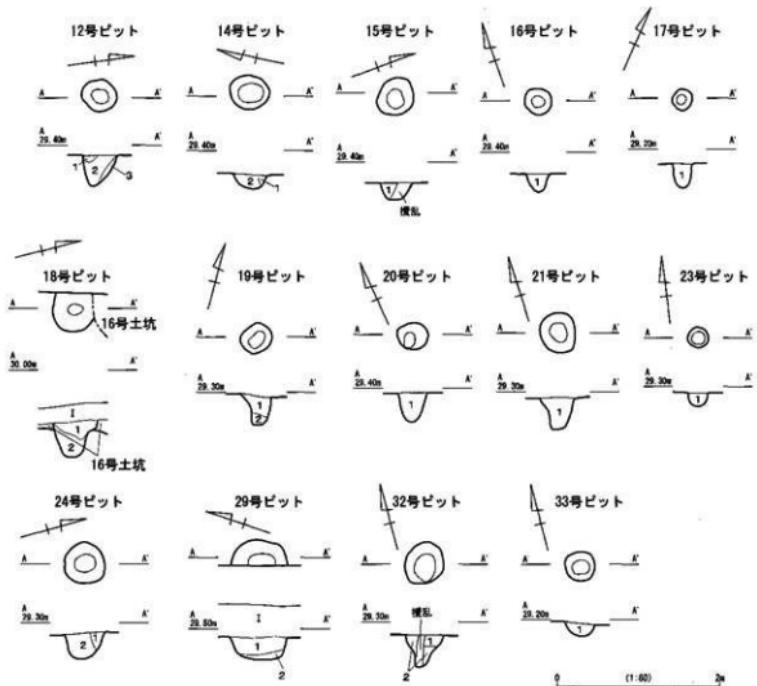
第4節 ピット（第34～36図）

西区で検出されたピットは35基を数える。ピットは調査区の中央部から南側に分布を密にしている。大半は深さ40cm以下の浅いピットであるが、3・7号ピットのみ90cm弱の深さを持つ。また、この2つのピットのみ底部に柱のあたりとみられる硬化部分が確認された。時代は基本的には縄文時代の覆土を持つピットである。ここでは個別に言及していくかずには、平面図および断面図とピット一覧表でその要素を示していく。また、ピットから縄文時代中期葉阿玉台期から土師器まで66点の遺物が出土している。このうち10点の遺物を図示した。1・2は2号ピット出土の縄文時代中期葉阿玉台II式期の深鉢である。3は5号ピット出土の縄文時代中期後葉加曾利E式期の深鉢、4は7号ピット出土の縄文時代中期後葉加曾利E III式期の深鉢、5・6は8号ピット出土の縄文時代中期後葉加曾利E式及び後期後葉安行1式期の深鉢、7は10号ピット出土の縄文時代後期前葉称名寺1式期の深鉢、8は13号ピット出土の縄文時代後期中葉堀ノ内2式期の深鉢、9は15号ピット出土の縄文時代中期後葉加曾利E式期の深鉢、10は時期不明の深鉢底部である。



- 1号ピット**
1 10784/6 黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性を持ち、やや縮まりに欠ける。
2 10784/4 黄褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 2号ピット**
1 10784/6 黄褐色土層 ローム粒を微量含む。やや粘性を持ち、縮まる。
2 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
3 10784/4 黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 3号ピット**
1 10783/4 細褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 5号ピット**
1 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 6号ピット**
1 10784/4 黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 7号ピット**
1 10784/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 8号ピット**
1 10784/4 黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
2 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 9号ピット**
1 10783/3 單褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
2 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
- 10号ピット**
1 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、縮まる。
2 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
- 11号ピット**
1 10783/4 にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、やや縮まる。
2 10783/4 單褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、やや縮まる。

第34図 1～3・5～11号ピット

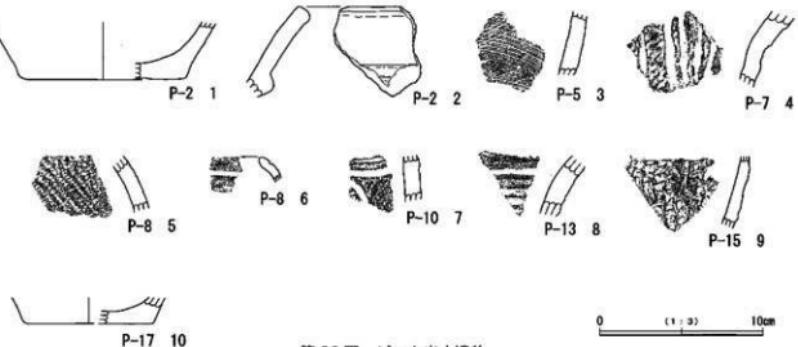


- 12号ピット**
1 10YR4/4 棕褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
2 10YR4/4 棕褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
3 10YR4/4 棕褐色土層 ローム土を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 14号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
2 10YR3/4 増粘土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、締まる。
- 15号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 16号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
2 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を多量に含む。粘性を持ち、締まる。
- 17号ピット**
1 10YR3/4 増粘土層 ローム粒・ローム土を少量含む。粘性を持ち、締まる。
2 10YR4/4 棕色土層 ローム粒・ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 18号ピット**
1 10YR4/4 棕色土坑 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 19号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 20号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 21号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 22号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 23号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 24号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 29号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、締まる。
- 32号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。
- 33号ピット**
1 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、締まる。

第35図 12・14~21・23・24・29・32・33号ピット

第16表 ピット一覧表

ピット番号	位置	形態	深度	土坑番号	土坑形態	土坑深度	先行するピット番号	後続するピット番号	土器	時代	備考
1号ピット	南側	楕円形	46	30	逆円錐状	291	28	2号ピットに先行する	なし	縄文時代	
2号ピット	南側	円形	44	-	逆円錐状	291	33	1号ピットに後続する	縄文土器2点	縄文時代	
3号ピット	南側	方形	<39>	40	筒状	291	83	-	なし	中古以降	
4号ピット	南側	楕円形	42	32	筒状	291	25	12号土坑に後続する	縄文土器2点	中古以降	
5号ピット	南側	不整楕円形	71	47	連合形状	292	24	-	縄文土器2点	縄文時代	
6号ピット	南側	不整円形	39	-	筒状	292	20	7号土坑に後続する	なし	中古以降	
7号ピット	南側	馬頭方形	<49>	49	筒状	293	85	-	土器群1点、縄文土器5点	中古以降	
8号ピット	南側	円形	50	-	筒状	292	33	-	縄文土器20点	縄文時代	
9号ピット	南側	円形	42	-	筒状	292	20	10号ピットに先行する	縄文土器5点	縄文時代	
10号ピット	南側	楕円形	43	33	筒状	292	39	9号ピットに後続する	縄文土器3点	縄文時代	
11号ピット	南側	楕円形	42	37	筒状	293	38	-	縄文土器1点	縄文時代	
12号ピット	南側	円形	40	-	筒状	293	26	-	なし	縄文時代	
13号ピット	南側	馬頭方形	30	22	筒状	289	10	3号土坑に先行する	縄文土器5点	縄文時代	
14号ピット	南側	楕円形	49	43	筒状	291	17	-	縄文土器2点	縄文時代	
15号ピット	南側	円形	45	-	筒状	291	20	-	縄文土器4点	縄文時代	
16号ピット	南側	円形	33	-	筒状	291	16	-	なし	縄文時代	
17号ピット	南側	円形	24	-	筒状	291	36	-	縄文土器3点	縄文時代	
18号ピット	中央部	楕円形	<47>	51	連合形状	293	25	16号土坑に後続する	縄文土器3点	縄文時代	
19号ピット	中央部	円形	39	-	筒状	292	21	-	縄文土器1点	縄文時代	
20号ピット	中央部	楕円形	37	33	逆円錐状	292	20	-	なし	縄文時代	
21号ピット	中央部	楕円形	49	33	筒状	292	39	-	なし	縄文時代	
22号ピット	中央部	円形	36	-	筒状	292	26	-	縄文土器1点、土器3点	縄文時代	
23号ピット	北舞	円形	25	-	筒状	292	22	-	縄文土器1点	縄文時代	
24号ピット	南側	円形	50	-	筒状	292	21	-	なし	縄文時代	
25号ピット	南側	円形	35	-	筒状	287	9	11号土坑に先行する	なし	縄文時代	
26号ピット	南側	円形	45	-	筒状	287	41	12号土坑に先行する	なし	縄文時代	
27号ピット	中央部	不整楕円形	32	20	筒状	291	21	15号土坑に先行する	なし	縄文時代	
28号ピット	中央部	円形	48	-	筒状	291	6	-	なし	縄文時代	
29号ピット	北舞	円形	58	-	筒状	292	13	-	なし	中古以降	
30号ピット	中央部	円形	25	-	筒状	291	20	1号壁穴住居跡に先行する	なし	縄文時代	
31号ピット	中央部	円形	22	-	筒状	289	30	17号土坑に先行する	なし	縄文時代	
32号ピット	北舞	円形	47	-	筒状	291	25	-	なし	縄文時代	
33号ピット	中央部	円形	36	-	筒状	292	20	-	縄文土器1点	縄文時代	
34号ピット	南側	不整円形	25	-	筒状	290	18	10号土坑に先行する	なし	縄文時代	
35号ピット	南側	楕円形	38	26	筒状	287	15	1号壁に先行する	なし	縄文時代	



第36図 ピット出土遺物

第17表 ピット出土遺物観察表

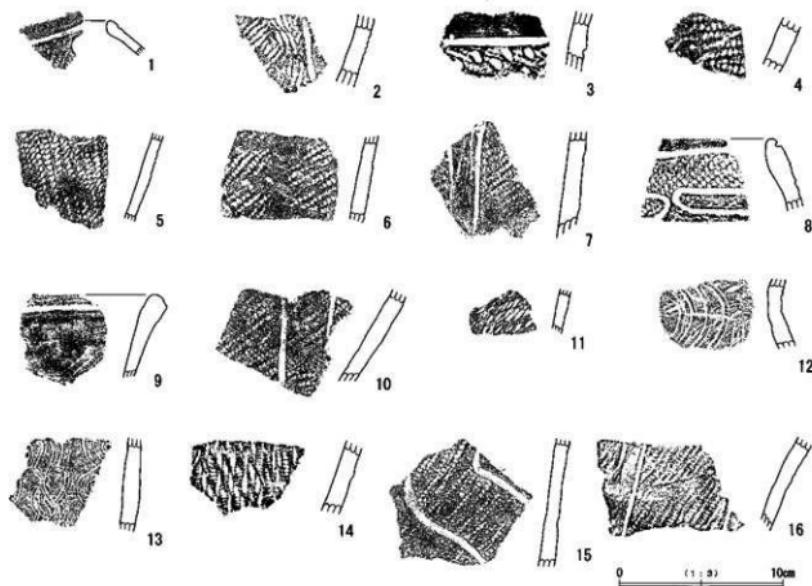
1号ピット	縞文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<34>	(85)	形較、全縫合多 量	内面：にぶい黒 色 外面：灰褐色	良好	阿玉台II式鉢、 2と同一個体		
											内面：にぶい黒 色	外 面	
2号ピット	縞文土器	深鉢	胴部～底 部	細片	-	<56>	-	形較、全縫合多 量	内面：にぶい黒 色 外面：灰褐色	良好	口縁部長く僅かに外反。下位に横走する 縫合を複数付ける。	阿玉台II式鉢。 1と同一個体	
3号ピット	縞文土器	深鉢	縁部	細片	-	<34>	-	白、赤色粒子微 量	内面：明黄褐色 外面：青褐色	良好	縫合を複数及び斜向。	加賀利E式鉢	
4号ピット	縞文土器	深鉢	胴部	細片	-	<42>	-	白色粒子・砂粒 微量	内面：明黄褐色 外面：青褐色	良好	LR、縄文を施文後、沈縫を多条に垂下さ せる。	加賀利E式鉢	
5号ピット	縞文土器	深鉢	縁部	細片	-	<35>	-	白色粒子・砂粒 微量	内面：にぶい黒 色 外面：にぶい黒 色	良好	縫文としてLR 縄文を施文。	加賀利E式鉢	
6号ピット	縞文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<18>	-	白色粒子・砂粒 微量	内面：黒褐色 外面：黒褐色	良好	手縫接合。口縁部直下に一筋の沈縫。	安行I式鉢	
7号ピット	縞文土器	深鉢	胴部	細片	-	<25>	-	白色粒子・砂粒 微量	内面：にぶい黒 色 外面：黒褐色	良好	縫文として縞文を施文後、沈縫の入縞文 を踏む。	新名寺I式鉢	
8号ピット	縞文土器	深鉢	胴部	細片	-	<33>	-	白、黒色粒子少 量	内面：黄褐色 外面：黄褐色	良好	進度する沈縫を多条に施す。	福ノ内2式鉢	
9号ピット	縞文土器	深鉢	胴部	細片	-	<44>	-	白色粒子・砂粒 微量	内面：にぶい黒 色 外面：明赤褐色	良好	胸部外縫熱糸文。内面ナデ。	加賀利E式鉢	
10号ピット	縞文土器	深鉢	底部	細片	-	<16>	(72)	白色粒子少 量、 赤色粒子・砂粒 微量	内面：墨褐色 外面：青褐色	良好	全面ナデ。		

第5節 遺構外出土遺物（第37～43図）

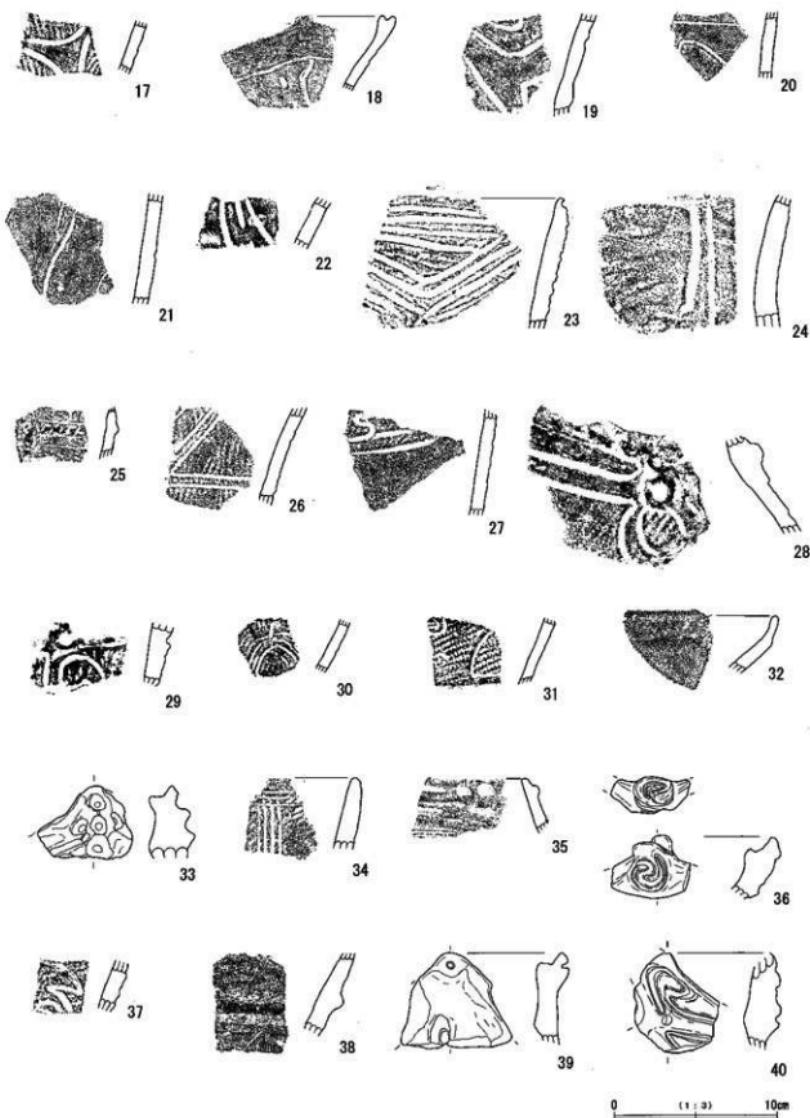
ここでは造構に伴わない遺物や、表土出土の遺物をまとめて言及していく。主体となるものは表土出土である。大半が細片のため時期が判断できる遺物は少なかった。内訳は、縄文時代中期中葉阿玉台期から中世の土師質土器の内耳鍋、近代瓦などである。このうち138点図示することが出来た。1～14は縄文時代中期後葉加曾利E式期の土器である。加曾利E式はⅢ期から出土している。15～22は縄文時代後期前葉称名寺式期の土器である。23～40は縄文時代後期中葉から中葉堀ノ内式期の土器である。32は鉢と思われる、39は把手部、33・40は突起部である。41～93は縄文時代後期中葉加曾利B式期の土器である。41・54・80・81は浅鉢と思われる。52・53・78・79は浅鉢である。82は壺型土器と思われる。94～119は縄文時代後期後葉後期安行式期である。114・119は異型台付土器の底部及び胴部である。120～125は縄文時代後期の土器底部、125は後期の脚付皿、126は後期の注口土器の注口部である。127は加曾利B式期の土器を利用した土製円盤である。128～131は縄文時代の石器である。石皿や凹石、磨石、黒曜石製の剥片である。

古墳時代前期の土器も僅かに出土していて、132・133の土師器壺である。4世紀代であろう。また、1～3号竪穴住居跡と概ね重なる時代の遺物は、表土から134の須恵器の蓋坏が、1号溝から135の土師器の内面黒色化した坏、136の21号土坑から土師器の壺がそれぞれ出土している。

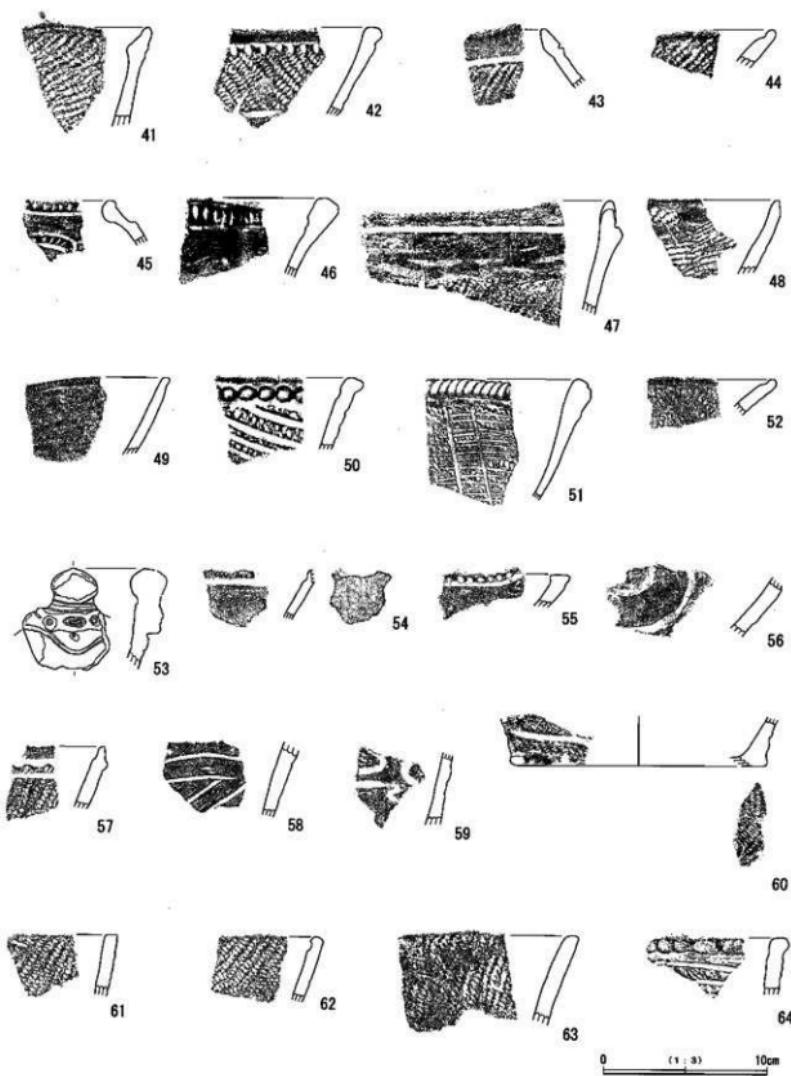
中世以降では、遺物はあるものの大半は細片で、137・138の土師質土器の内耳鍋を図示し得たにとどまる。どちらも近代の1号溝出土である。



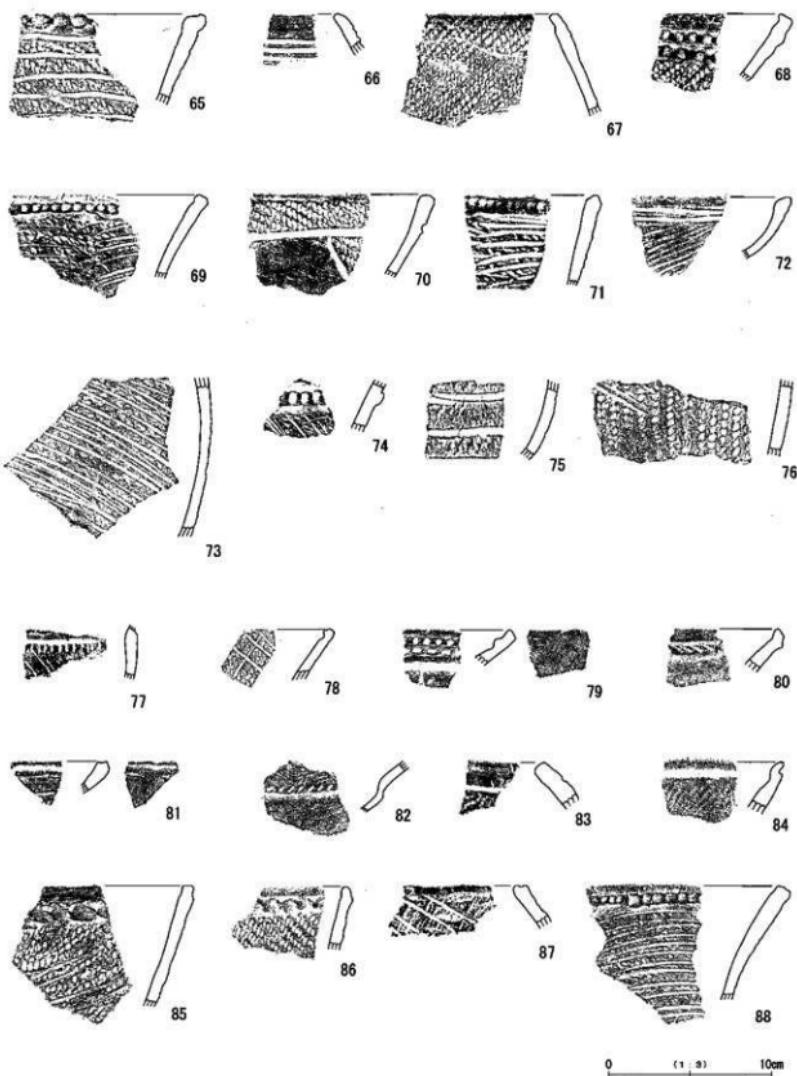
第37図 遺構外出土遺物（1）



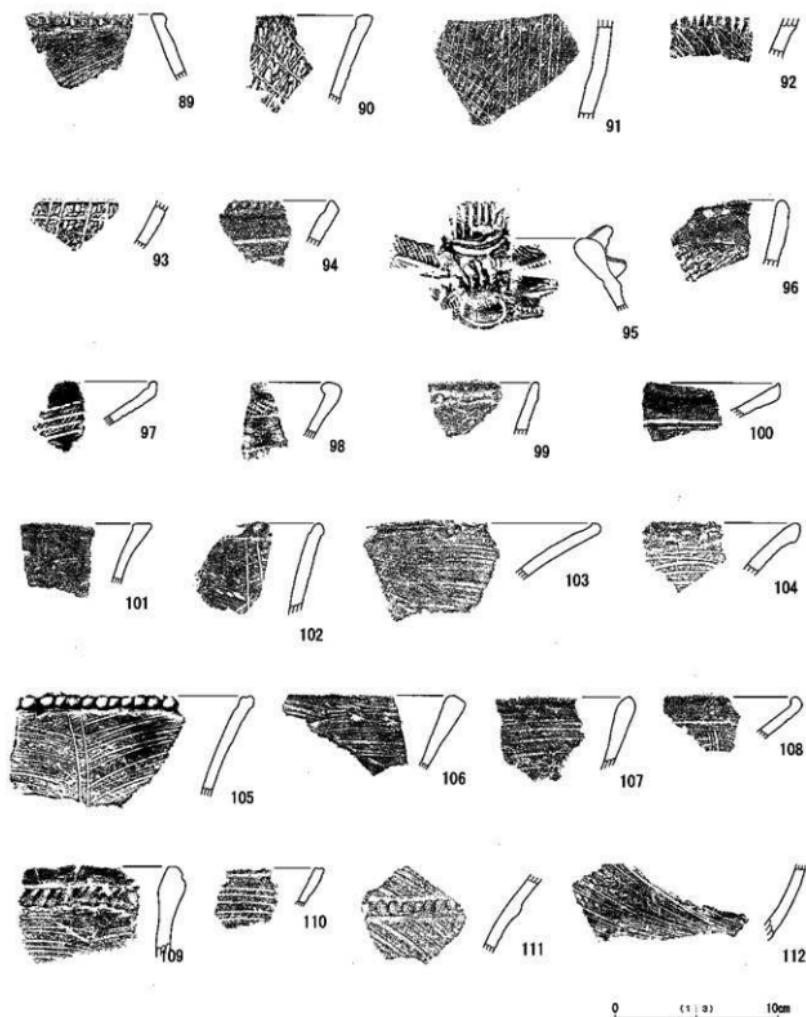
第38図 遺構外出土遺物（2）



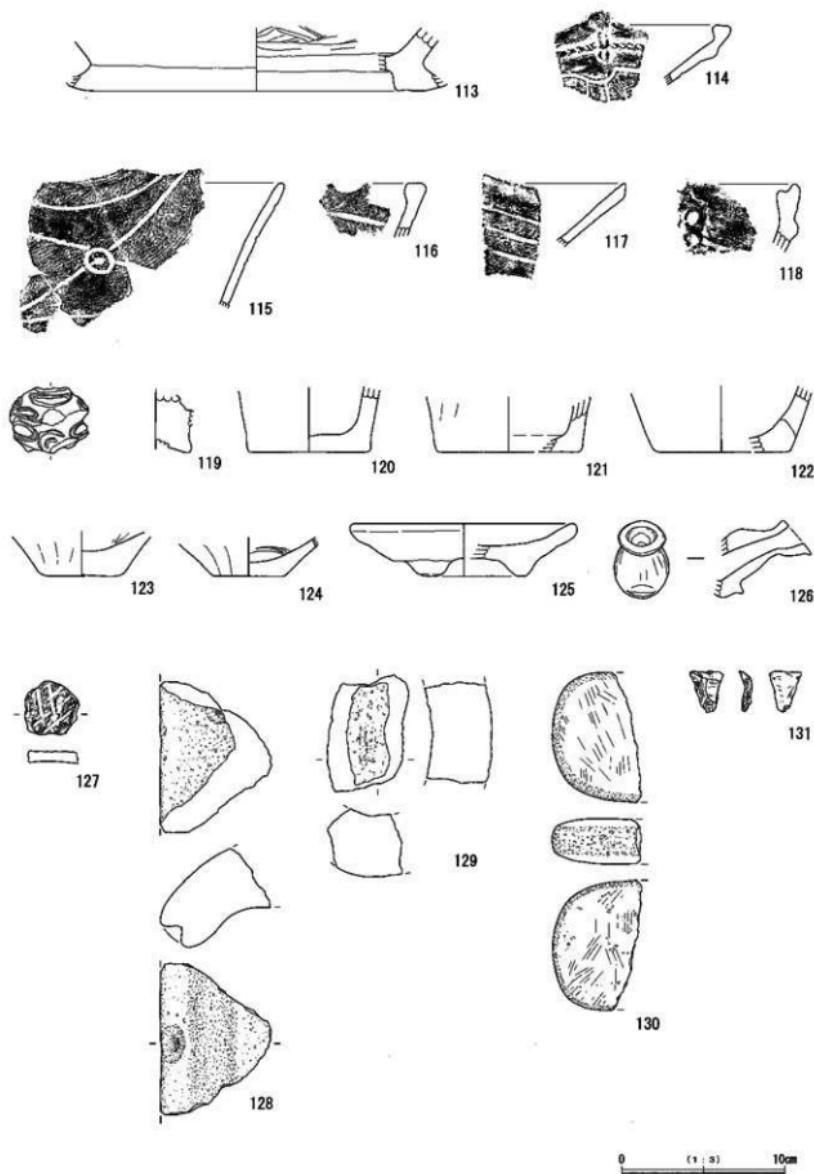
第39図 造構外出土遺物（3）



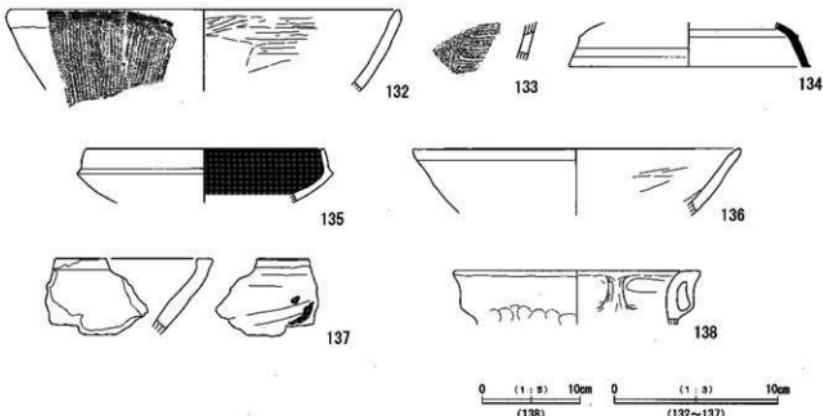
第40図 遺構外出土遺物（4）



第41図 遺構外出土遺物（5）



第42図 遺構外出土遺物（6）



第43図 遺構外出土遺物（7）

第18表 遺構外出土遺物観察表

件名	出土地点	形態	寸法	表面状況	内部構造	特徴	測定値	
							長	幅
1 1号堅穴 住居跡	縄文土器 深鉢	山根部一 断面	断片	-	<25>	白色粒子・砂粒・ 白雲母少量	内外面：褐色	直状縦流跡。口縫部底面に沈線を一条。 その下位にRL 縄文を施す。
2 SD01	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<45>	白色粒子・石英 砂多量、白雲母 少量	内外面：明黄褐 色	外表面多方向にRL 縄文を施す後、沈線を 施す。
3 表土	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<38>	白・赤色粒子・ 砂粒少量	内外面：に赤い 褐色	直線状に模走させ、その下位にRL 縄 文を施す後、亞状の斜文を施す。
4 表土	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<32>	白色粒子・砂粒 少量	内外面：褐色	RL 縄文。
5 SK28	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<54>	白・赤色粒子・砂 粒少量	内外面：明黄褐 色	調査部外周 RL 縄文を施す。内側テア。
6 SD02	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<52>	白色粒子少量、 砂粒多量	内外面：に赤い 褐色	地文として RL 縄文を施す。
7 SD02	縄文土器 深鉢	断面	10	-	<64>	白色粒子少量、 砂粒多量	内外面：赤褐色 外表面：黄褐色	白色粒子として RL 縄文を施す後、平行する 沈線を垂れさせ。その内側を崩り崩す。
8 表土	縄文土器 深鉢	口縫部一 断面	10	-	<44>	白色粒子少量	内外面：に赤い 褐色	口縫部外周 RL 縄文として RL 縄文を施す後、 沈線による横筋の 内側を崩り崩す。
9 表土	縄文土器 深鉢	口縫部一 断面	断片	-	<51>	白色粒子・ チャート粒・石 英粒多量	内外面：明黄褐 色	口縫部底面に1条の沈線。
10 表土	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<55>	白色粒子少量	内外面：に赤い 褐色	RL 縄文を地文として施文後、複数する 平行沈線を垂らす。
11 1号堅穴 住居跡	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<22>	白色粒子微量	内外面：黄褐色	墨書きを斜め。
12 SM02	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<42>	白色粒子・砂粒 多量	内外面：褐色	地文として複数な横筋を施す。7~9条 1単位の垂直を施行させ重す。
13 SD01	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<57>	白色粒子少量、 砂粒多量、白雲 母微量	内外面：褐色	6~7条1単位の垂直を施行させ重す。
14 表土	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<43>	白色粒子・砂粒 少量	内外面に赤い 褐色	外表面に赤い文を模走。
15 1号堅穴 住居跡	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<79>	白色粒子少量、 砂粒多量	内外面：黑褐色	地文として RL 縄文を施す。施行する後 墨書きを重す。
16 表土	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<58>	白色粒子・ チャート粒少 量、石英粒多量	内外面：赤褐色 外表面：黒褐色	RL 縄文を施す後、沈線を施すの内側 を剥り落す。
17 表土	縄文土器 深鉢	断面	断片	-	<33>	白色粒子少量	内外面：黒褐色 外表面：に赤い 褐色	沈線による入筋文で区画し、その内部に RL 縄文を施す。
18 1号堅穴 住居跡	縄文土器 深鉢	口縫部一 断面	断片	-	<66>	白色粒子・白雲 母微量	直状縦流跡。波頂部に円文。口縫部下位 に沈線を横走。そこから施行する沈線を 剥り落す。	名古寺1式期

19	1号堅穴 住居跡	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<51>	-	白色粒子・砂粒 少量	内外面：暗青褐色 内外面：にふい 砂粒少量	良 好	北壁による入縁文を施し、北壁内に斜突 好文を施す。	新名寺2式期
20	S02	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<41>	-	白色粒子微量、 砂粒少量	内外面：にふい 白色粒子微量、 砂粒少量	良 好	南北文としてLR. 縄文文を施文後、北壁へ入 縁文を施し、その北壁面を彫り所す。	新名寺2式期
21	1号堅穴 住居跡	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<52>	-	少量、白雲母微量 少量、白雲母微量	内外面：暗青褐色 内外面：暗青褐色	不良	平行する北壁を僅かに平行させ斜切記。	新名寺2式期
22	表土	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<32>	-	白色粒子少量、 砂粒微量	内外面：穠色 内外面：穠色	良 好	2条の北壁を造りさせ、その間に低い北 壁を施す。	新名寺2式期
23	S02	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	10	-	<50>	-	白色粒子多量、 石英粒・石英粉 少量	内外面：明黄褐色 内外面：明黄褐色	良 好	山形部南面下に1条の北牆、網部外縁にLR. 南北文を施文4～5基単位の平行北壁を 横及び垂直に施す。	新ノ内1式期
24	S02	縄文土器	深鉢	網部	10	-	<51>	-	白色粒子・石英 粒多量、白雲母 少量	内外面：にふい 白色粒子	良 好	内外面粗織なダボを施し、2条の平行北 壁を設す。	新ノ内1式期
25	S02	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<34>	-	白色粒子少量、 砂粒多量	内外面：明黄褐色 内外面：穠色	良 好	内外面外縁に只縁文を施文後及び竪方 向の沈線と横線を施す。墻頂上に飾る。	新ノ内1式期
26	S02	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<60>	-	白色粒子・石英 少量	内外面：穠色 内外面：穠色	良 好	粗織底面、地文としてLR. 縄文文を施文後、 平行する北牆で三角窓に区画す。	新ノ内1式期
27	1号堅穴 住居跡	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<61>	-	白色粒子多量、 チャート粒少量	内外面：にふい 白色粒子	不良	地文としてLR. 縄文文を施文後、平行する 北壁や平行する北壁を施す。下段に。	新ノ内1式期
28	表土	縄文土器	深鉢	網部	10	-	<53>	-	白色粒子・白 雲母多量、 チャート粒少量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良 好	山形部文後、大型の下に側面に側面を 持つ貼り付け文。それを中心に沈線で入 縁文を施す。入縁文面を磨出す。	新ノ内1式期
29	表土	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<33>	-	白色粒子・砂粒 少量	内外面：暗青褐色 内外面：にふい 白色粒子	良 好	外縁に剪文。地文としてLR. 縄文文を施 文後、横及び垂直する北牆を施す。	新ノ内1式期
30	表土	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<33>	-	白色粒子・石英 粒少量、白雲母 微量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良 好	内外面：にふい 白色粒子	新ノ内1式期
31	表土	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<43>	-	白色粒子少量	内外面：暗青褐色 内外面：にふい 白色粒子	良 好	地文としてLR. 縄文文を施文後、北壁に上 心する北壁を施す。	新ノ内1式期
32	S02	縄文土器	縦卦	口縁部～ 網部	細片	-	<38>	-	白色粒子・白 雲母少量、 砂粒微量	内外面：にふい 白色粒子	良 好	内外面外縁に只縁文を施す。外縁上に 側面を成す。	新ノ内1式期
33	表土	縄文土器	深鉢	先起部	細片	-	<45>	-	白・赤色粒子 少量	内外面：にふい 白色粒子	不良	上面に1ヶ所、正面に5ヶ所の円文。	新ノ内1式期
34	1号堅穴 住居跡	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<45>	-	白色粒子微量、 砂粒少量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	不良	平行する3条の沈線を横走。平行する4 条の沈線を垂下。	新ノ内2式期
35	S02	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<31>	-	白色粒子・砂 粒少量	内外面：にふい 白色粒子	良 好	口縫部直立。右下に沈線を一筋、2ヶ所 1条位の例文を残す。下位に凹部。	新ノ内2式期
36	S02	縄文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<39>	-	白色粒子多量、 白雲母微量	内外面：にふい 白色粒子	良	底状地盤面の底面直接。底面の上面及び その下位に施された溝書き文。	新ノ内2式期
37	S02	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<32>	-	白色粒子微量、 石英粉微量、 砂粒多量	内外面：明黄褐色 内外面：穠色	良	断面内側面複数。當初の沈線を施す。内面 ナガ。	新ノ内2式期
38	表土	縄文土器	深鉢	網部	細片	-	<51>	-	白・赤色粒子微量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良好	無刻削帶を横走。	新ノ内2式期
39	表土	縄文土器	深鉢	把手部	10	-	<53>	-	白色粒子少量、 白雲母微量	内外面：明黄褐色 内外面：穠色	良	会心ナガ。側面及び上面に円文や横縞文 を施す。	新ノ内2式期
40	表土	縄文土器	深鉢	先起部	10	-	<53>	-	多量、チャート 粒少量	内外面：暗青褐色 内外面：にふい 白色粒子	良	成状地盤の突起部分。沈窓による人組 好文及び円文を施す。	新ノ内2式期
41	S02	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<61>	-	白色粒子多量	内外面：暗青褐色 内外面：穠色	良	底状地盤面。口縫部内面を作り出す。外縁 好文状地盤文。LR. 縄文文を全文施す。	加曾利B1式期
42	S02	縄文土器	深鉢	口縁部	10	-	<54>	-	白色粒子少量	内外面：暗青褐色 内外面：穠色	良	平縫地盤。口縫部玉ねぎ状に肥厚。外縁高 好文を施す。下位に斜向文、LR. 縄文文。下位に 沈窓を1条位。	加曾利B1式期
43	S02	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<36>	-	白色粒子多量、 白雲母少量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良	底状地盤。底窓等無文。下位沈窓を1条 位を施す。L.R. 縄文文を施す。	加曾利B1式期
44	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<24>	-	白色粒子少量	内外面：にふい 白色粒子	良	底状地盤。口縫部肥厚させ、外縁 好文のキザミを施す。網部外縁文。	加曾利B1式期
45	表土	縄文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<37>	-	白色粒子少量、 白雲母微量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良	底状地盤。口縫部肥厚させ、外縁 好文のキザミを施す。その下にキザミを伴う底窓を 施す。地文無文。	加曾利B1式期
46	表土	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<41>	-	白・赤色粒子 少量、砂粒微量	内外面：明黄褐色 内外面：穠色	良	底状地盤。口縫部肥厚させ、外縁 好文のキザミを施す。網部外縁文。	加曾利B1式期
47	表土	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	20	-	<72>	-	白色粒子少量、 白雲母微量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良	底状地盤。口縫部外縁下に沈窓 好文を施す。その下にキザミを施す。網部 好文R.L. 縄文文を施す。	加曾利B1式期
48	表土	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<45>	-	白色粒子少量、 白雲母微量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良	底状地盤。R.L. 縄文文を多方向に施す地文。 網部好文R.L. 縄文文を施す。	加曾利B1式期
49	表土	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<47>	-	白色粒子少量、 白雲母微量	内外面：穠色 内外面：にふい 白色粒子	良	平縫地盤。口縫部肥厚し、内側に1 条位の沈窓を施す。沈窓を伴う底窓を施す。下 位に多条の斜窓を施す。	加曾利B1式期
50	表土	縄文土器	深鉢	口縁部～ 網部	細片	-	<44>	-	白色粒子少量	内外面：明黄褐色 内外面：穠色	良	平縫地盤。口縫部肥厚し、内側に1 条位の沈窓を施す。沈窓を伴う底窓を施す。下 位に多条の斜窓を施す。	加曾利B1式期

51	表土	縦文土器	深鉢	口縁部～ 側部	10	-	<7.6>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：褐色 外面：褐褐色	直線性表面。口縫部外斜方押彫压を 伴う粒文。側部外斜方压。横文を施す後、 好んでする条縞及び2条の平行する沈縞を 施す。	加賀利B1式期
52	1号墳穴 住居跡	縦文土器	浅鉢	口縫部	断片	-	<1.9>	-	白・黒色粒子微 量	内面：明褐色 外面：褐色	口縫部内面に1条の沈縞。外縫 RL 横文 好んで2条の沈縞を施す。側面内面に 横文及び沈縞を施す。外面無文。	加賀利B2式期
53	表土	縦文土器	浅鉢	突起部	断片	-	<6.2>	-	白色粒子少量、 白帯母子微量	内面：明褐色 外面：褐色	手縫及横縫。底部の突起部に粒文を施す。その 下位に2条の沈縞を施す。側面内面に 横文及び沈縞を施す。外面無文。	加賀利B2式期
54	SD12	縦文土器	浅鉢	側部	断片	-	<3.3>	-	白色粒子・砂粒 少量、白帯母子 微量	内面：灰褐色 外面：灰褐色	内面に横方向の縞を1条ずつ。その上位 に縞を施す。内面無文。	加賀利B2式期
55	SD12	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<2.0>	-	白色粒子少量	内面：褐褐色 外面：褐色	直線性表面後。口縫部平底。側部外斜 方压と横文。沈縞1条を模様。RL 横文を施す。	加賀利B2式期
56	表土	縦文土器	深鉢	側部	断片	-	<3.6>	-	白色粒子多量、 白帯母子少量	内面：黑褐色 外面：褐色	側部外斜方压による円筒化による内面著しく 底部の沈縞。側部外斜方压。横文を施す。	加賀利B2式期
57	表土	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<3.7>	-	白色粒子少量	内面：明褐色 外面：褐色	手縫横縫。口縫部は包丁底立。内面に1 条の沈縞。側部外斜方压を伴う横文 を施す。下位に RL 横文を施す。	加賀利B2式期
58	表土	縦文土器	深鉢	側部	断片	-	<4.6>	-	白色粒子少量、 褐色	内面：にい・黄 褐色 外面：褐褐色	平行する横縞で三角形に区画。その区 画内面を RL 横文を施す。	加賀利B2式期
59	SD01	縦文土器	深鉢	側部	断片	-	<4.6>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：灰褐色 外面：褐色	底面で直角強縛文。内面に交叉し横文。 下位に三連三叉。	加賀利B2式期
60	表土	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<3.1>	(15.2)	白・赤色粒子少 量	内面：にい・黄 褐色 外面：褐褐色	口縫部と側部の坂を外縫に突出させ。口 縫部側及び側部外縫に LR 横文を施す。 側部内面に横縫を模様。	加賀利B2式期
61	SD12	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<2.8>	-	白・赤色粒子微 量	内面：灰褐色 外面：褐褐色	平底深鉢。口縫部平底にしてナメ。側部 外縫 LR 横文を施す。内面無文。	加賀利B2式期
62	SD02	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<4.0>	-	白・赤色粒子少 量	内面：褐色	直線性表面。口縫部内面に1条の沈縞。外 縫 LR 横文を施す。	加賀利B2式期
63	表土	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<2.5>	-	白色粒子少量、 白帯母子微量	内面：灰褐色 外面：褐色	平底深鉢。口縫部は大きく開く。外面に 横縫を施す。横縫を文。	加賀利B2式期
64	SD12	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<3.4>	-	白色粒子少量	内面：暗褐色 外面：褐灰色	平底深鉢。口縫部底面に厚さゼロの内面。 口縫部外縫に横縫文。側部に斜縫文を施 す。後、横走る2条の沈縞。内面ナメ。	加賀利B2式期
65	SD12	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	10	<3.5>	-	白色粒子・白 帶母子少量	内面：にい・黄 褐色 外面：褐褐色	平底深鉢。口縫部外縫に横縫を伴う 横縫文を施す。側部外縫は RL 横文を施 す。後、沈縞を文に施す。	加賀利B2式期
66	SK27	縦文土器	深鉢	LJ縫部～ 側部	断片	-	<2.5>	-	白色粒子微量	内面：黑褐色 外面：にい・黄 褐色	直線性表面。LJ縫部底面に散在の沈縞を 模様。	加賀利B2式期
67	表土	縦文土器	深鉢	LJ縫部～ 側部	断片	10	<4.7>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：明褐色 外面：褐色	直線性表面。LJ縫部内面に沈縞を1 好。外縫は全面に横縫文を貼り付け。下位に RL 横文を施す。	加賀利B2式期
68	表土	縦文土器	深鉢	口縫部	断片	-	<4.2>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：にい・黄 褐色 外面：褐色	平底深鉢。口縫部大口に横縫を 模様。	加賀利B2式期
69	表土	縦文土器	深鉢	LJ縫部～ 側部	断片	10	<3.1>	-	白色粒子少量	内面：明褐色 外面：褐色	口縫部側面削。口縫部内面に1条の沈 縞。外縫に横縫を伴う横縫文を貼り付ける。 下位に LR 横文を施す後横走する糸縞を 施す。	加賀利B2式期
70	表土	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	10	<3.0>	-	白色粒子少量	内面：にい・黄 褐色	平底深鉢削。口縫部底面に厚さゼロの内面。 横縫文を施す。横縫を文。	加賀利B2式期
71	表土	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<3.5>	-	白色粒子少量	内面：明褐色 外面：にい・黄 褐色	平縫を伴う経縫横縫を貼り付け模様。 下位多量の斜縫文。内面ナメ。	加賀利B2式期
72	表土	縦文土器	深鉢	LJ縫部～ 側部	断片	-	<4.0>	-	白色粒子・砂粒 チャート粒少量	内面：にい・黄 褐色	口縫部底面に厚さゼロの内面。外縫2 条の沈縞を模様。その下位に糸縞を施す。 横縫文を施す。	加賀利B2式期
73	SD01	縦文土器	深鉢	口縫部	断片	10	<3.7>	-	白色粒子少量	内面：にい・黄 褐色	横部内面 L R 横文を文後横走糸縞を文。 横縫文を施す。	加賀利B2式期
74	表土	縦文土器	深鉢	口縫部	断片	-	<3.3>	-	白・赤色粒子少 量	内面：にい・黄 褐色	平縫を伴う経縫横縫を貼り付け模様。 下位多量の斜縫文。内面ナメ。	加賀利B2式期
75	SD01	縦文土器	深鉢	口縫部	断片	-	<4.7>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：明褐色 外面：褐色	横部底面地文として組織的な L R 横文を施 す。糸縞の平行する沈縞を模様。	加賀利B2式期
76	SD12	縦文土器	深鉢	側部	断片	-	<5.0>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：にい・黄 褐色 外面：褐色	粗粒な L R 横文を施す後、糸縞の斜縫文。 糸縞の平行する沈縞を模様。	加賀利B2式期
77	表土	縦文土器	深鉢	側部	断片	-	<3.2>	-	白色粒子・ チャート粒少 量	内面：褐褐色 外面：褐色	1条の沈縞を模様し。その下位に糸縞の 好キザイ、斜縫文を施す。	加賀利B2式期
78	SD01	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<3.0>	-	白色粒子・白 帶母子少量	内面：褐褐色 外面：褐色	口縫部内面直に1条の沈縞。外縫 LR 横文を施す。横縫文を施す。	加賀利B3式期
79	1号墳穴 住居跡	縦文土器	深鉢	LJ縫部	断片	-	<2.3>	-	白色粒子微量	内面：にい・黄 褐色	直縫を伴う糸縞を模様。内面丁寧なナメ。 糸縞の平行する沈縞を模様。	加賀利B3式期
80	SD12	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<2.8>	-	白色粒子少量 チャート粒・白 帶母子微量	内面：褐色	LJ縫部内面直に糸縞を模様する。口縫部 直縫直下に組織文を施す。下位ナメ。内面 ナメ。	加賀利B3式期
81	SD02	縦文土器	深鉢	口縫部～ 側部	断片	-	<2.1>	-	白色粒子少量	内面：にい・黄 褐色	口縫部を V 字状に盛ませる。口縫部外縫 を横取り。内面下位に糸縞を模様。外縫 ナメ。	加賀利B3式期

82	SII02	純文土器	窓型上器	口縁部～脚部	細片	-	<33>	-	白色粒子少量、 白基底片微量	内外面：橙色 E7	口縁部大きく外反する。口縁部と脚部の 間に凹みを施す。脚部外面に「人」字状の 斜溝。	加賀利B3式期 後	
83	夷土	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	-	<23>	-	白色粒子少量、 砂粒少量	内外面：橙色	灰被膜深済。口縁部底面に斜溝を打つ。灰 被膜を施す。その下位にLR純文を施す。	加賀利B3式期 後	
84	SII02	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	-	<33>	-	白色粒子多量	内面：灰褐色 E7 外表面：灰褐色	平底深溝。口縁部と内側に凹み込む。口 縁部外表面直下に1条の斜溝。下位に純 文を施す。	加賀利B3式期 後	
85	SII02	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	10	-	<7A>	-	白色粒子少量	内外面：明褐色 E7	平底被膜深済。口縁部底面下に押正を作 る純文を施す。脚部にLR純文を施す。	加賀利B3式期 後
86	SII02	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	-	<33>	-	白・赤色粒子・ 砂粒少量	内外面：にぶい 黄褐色	平底被膜深済。口縁部底面に内傾させ、 内側に1条の斜溝。外表面直下に押正を作 る純文を施す。脚部にLR純文を施す。	加賀利B3式期 後	
87	SDD01	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	-	<26>	-	白色粒子多量	内外面：橙色	平底被膜深済。口縁部が大きく内傾させ、 良好 内側に1条の斜溝。外表面直下に押正を作 る純文を施す。脚部にLR純文を施す。	加賀利B3式期 後	
88	夷土	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	10	-	<63>	-	白色粒子・砂粒 少量、白基母片 微量	内外面：橙色 E7	平底被膜深済。口縁部外周を追跡して押 正、内面に凹みをもつ。脚部LR純文を 施す。脚部を削る。	加賀利B3式期 後
89	SK28	純文土器	深鉢	口縁部～脚部	細片	-	<4D>	-	白色粒子・石英 少量	内外面：明褐色 E7	平底被膜深済。口縁部底面は外に翫む。 脚部外表面に内傾せず。	加賀利B3式期 後	
90	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<54>	-	白色粒子少量、 砂粒少量	内外面：黄褐色 E7	平底被膜深済。口縁部底面は外に翫む。 脚部外表面に内傾せず。外表面「良同」文を施 す。之後、交叉する斜方向の斜溝を施す。	加賀利B3式期 後	
91	SII02	純文土器	深鉢	脚部	細片	-	<60>	-	白色粒子・砂粒 少量	内外面：明褐色 E7	地文としてLR純文を施文。交叉する 斜溝を施す。	加賀利B3式期 後	
92	夷土	純文土器	深鉢	脚部	細片	-	<25>	-	白・赤色粒子量 少量	小面：にぶい 黃褐色 E7 外表面：明褐色	腰底のキズを模倣。下位斜斜溝。	加賀利B3式期 後	
93	夷土	純文土器	深鉢	脚部	細片	-	<38>	-	白色粒子少量	内外面：にぶい 黄褐色	LR純文を施文後、斜めにする斜溝と交差 させる。	加賀利B3式期 後	
94	1号堅穴 住居跡	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<29>	-	白色粒子少量、 石英少量	内外面：橙色 E7	平底被膜深済。口縁部底面から上方へ尖端 させ、キズ。外側平行する斜溝を模倣。安行1式期 その間にLR純文を施す。	安行1式期	
95	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	10	-	<45>	-	白色粒子少量、 砂粒少量	内外面：海綿和 色	地文被膜深済。口縁部外周五及びその 内側に斜溝の起點。後部にLR純文。有 好の陰溝文、文文を施す。口縁部は折り 返し。	安行1式期
96	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<4D>	-	白色粒子・砂粒 少量	内外面：にぶい 黃褐色 E7	地文被膜深済。口縁部無文。下位LR純文 を斜定。	安行1式期	
97	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<2D>	-	白色粒子少量	内面：青褐褐色 E7 外表面：藍褐色	地文被膜深済。口縁部が大きく広がり、上 方へ持ち上げる。外表面LR純文を施文後、 斜めに内傾する。	安行1式期	
98	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<35>	-	白・赤色粒子・ 砂粒少量	内外面：明褐色 E7	口縁部足部上に上方へ突き上げる。外表面 被膜底面にLR純文を施す。下位斜斜溝 を模倣。	安行1式期	
99	I号堅穴 住居跡	純文土器	深鉢	口縁部～ 脚部	細片	-	<3D>	-	白色粒子・砂粒 少量	内外面：橙色 E7	地文被膜深済。口縁部内側に1条の斜 溝。外表面直下に押正を作り最縁文を貼り 付ける。	安行1式期	
100	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<21>	-	白色粒子少量	内外面：暗褐色 E7	地文被膜深済。口縁部外表面に口縁部 を斜めにする。	安行1式期	
101	夷土	純文土器	深鉢	口縁部～ 脚部	細片	-	<36>	-	白色粒子・砂粒 少量、白基母片 微量	内外面：にぶい 黃褐色 E7	地文の平縁深済。口縁部底面が口縫部 を斜めにする。	安行1式期	
102	夷土	純文土器	深鉢	口縁部	細片	-	<57>	-	白色粒子少量、 砂粒少量	内面：暗赤褐色 E7 外表面：深赤褐色	平縁被膜深済。口縁部底面が内傾する。 内面に1条の斜溝。斜めに内傾する。	安行1式期	
103	夷土	純文土器	深鉢	口縁部～ 脚部	細片	-	<35>	-	白・赤色粒子・ 砂粒少量	内外面：橙色	平縁被膜深済。口縁部底面に斜溝を作 る。外表面直下に斜方向の斜溝。	安行1式期	
104	夷土	純文土器	深鉢	口縫部～ 脚部	細片	-	<32>	-	白色粒子少量	内外面：明褐色 E7	不規則被膜深済。口縁部肥厚。下位斜斜 溝を模倣。	安行1式期	
105	夷土	純文土器	深鉢	口縫部～ 脚部	細片	10	-	<62>	-	白色粒子少量	内外面：褐色	平縁被膜深済。口縁部内側に沈澱をもつ 臭を香す。	安行1式期
106	夷土	純文土器	深鉢	口縫部～ 脚部	細片	-	<45>	-	白色粒子・白基 母片微量	内外面：にぶい 黃褐色	平縁被膜深済。口縁部は肥厚され、外表面 に修正する余地を施す。	安行1式期	
107	夷土	純文土器	深鉢	口縫部～ 脚部	細片	-	<44>	-	白・黑・赤色 粒子・白基母片 微量	内外面：橙色 E7	平縁被膜深済。口縁部肥厚。外表面直下に 斜方向の斜溝。	安行1式期	
108	夷土	純文土器	深鉢	口縫部	細片	-	<27>	-	白色粒子多量、 砂粒少量	内外面：明褐色 E7	平縁被膜深済。口縁部外表面直下に押正 を作り最縁文を貼り付け。	安行1式期	
109	夷土	純文土器	深鉢	口縫部～ 脚部	細片	-	<55>	-	白色粒子多量、 チャート少量	内外面：黑褐色 E7	平縁被膜深済。口縁部外表面直下に押正 を作り最縁文を貼り付け。下位に横溝する 余地を施す。	安行1式期	

110	表土	周文十唇	深井	口縁部	縦片	-	<23>	-	白色粒子少量、白雲母片微量	内面：にぶい黃褐色 外縁：にほい黃褐色	直線深鉗。口縁部は大きめの内凹する器形。口部は僅かに膨らむ。外縁微削する多量の比較を施す。	安行1式期
111	表土	周文土器	深井	調部	縦片	-	<49>	-	白色粒子・砂粒多量	内面：にほい褐色 外縁：褐色	粗面深鉗。内面を伴う紙糊文を貼り付けで上下に区画。区画内の斜線。	安行1式期
112	表土	周文土器	深井	調部	10	-	<45>	-	白色粒子少量	内面：にほい黃褐色	粗面深鉗。斜線を施す。	安行1式期
113	SD02	周文十唇	異型台付 調部～底 土器	縦片	-	<39>	(265)	白色粒子・砂粒少量	内面：浅黄褐色	直線下部外縁に突出させて両台面に造り下し。内面を内向外方向にガマで整修する。	安行1式期	
114	表土	周文土器	深井	口縁部	縦片	-	<35>	-	白色粒子少量、白雲母微量	内面：黒褐色	直線深鉗。底面部に内窓孔。上下に割れ突きされた貼り付け文から押鉗を伴う紙糊文を複数箇所に施す。下辺は比較によく入組む。	安行2式期
115	表土	周文十唇	深井	口縫部～ 調部	20	-	<29>	-	白色粒子・金雲母片少量	内面：暗褐色	直線深鉗。底面部にLR構文を施す。底面部外縁にRL構文を施す。武部好で入組みや円文を施し、その内部を彫削する。	安行2式期
116	SD01	周文十唇	深井	口縫部～ 調部	縦片	-	<42>	-	白色粒子・石英 粒少量	内面：黃褐色 外縁：明黃褐色	直線深鉗。U字状の突起。上面は平坦、好で下間に一束の内窓孔。LR構文を施す。	安行2式期
117	表土	周文十唇	深井	口縫部	縦片	-	<40>	-	白色粒子・砂粒少量	内面：にほい 褐色	直線深鉗。口縫部内外面を彫り取る。その後内窓孔の斜線を施す。	安行2式期
118	表土	周文十唇	深井	口縫部	縦片	-	<41>	-	白・黒色粒子少 量、赤色粒子微量	内面：黃色	直線深鉗。底面部に内窓孔。外縁上下を剥离した貼り付け文。地文無文。	安行2式期
119	SD02	周文土器	異型台付 十唇	調部	縦片	-	<40>	-	白色粒子微量	内面：褐褐色	直線深鉗。外縁に格円及び渦巻き文を施す。	安行2式期
120	SD02	周文土器	深井	調部～底 部	10	-	<40>	(73)	白色粒子・砂粒 少量	内面：にほい 褐色	直線深鉗。頭部はやや底立気味。全周をナ。	後期
121	SD02	周文土器	深井	調部～底 部	縦片	-	<33>	(87)	白色粒子微量、 石英粒・白雲母 片少量	内面：灰青褐色 外縁：明黃褐色	調部内外縫及び底部外縫ナ。	後期
122	SD01	周文土器	深井	調部～底 部	縦片	-	<41>	(50)	白色粒子微量、 砂粒少量	内面：褐色 外縁：明褐褐色	調部外縫ミガキ。内面及び底部ナ。	後期
123	表土	周文土器	深井	調部～底 部	10	-	<27>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：暗褐色 外縁：灰褐色	調部外縫方向強いケズリ。底部内外縫	後期
124	表土	周文土器	深井	調部～底 部	10	-	<43>	43	白・赤色粒子少 量	内面：暗褐色 外縁：褐色	内面ナ。	後期
125	表土	周文土器	脚付皿	口縫部～ 底部	20	(135)	33	(59)	白色粒子・ チャーハー粒・石 英粒多量	内面：にほい 黃褐色	直線脚に貼り付ける。	後期
126	SD02	周文土器	口付土器	口付	10	長さ <59>	厚さ 28	33	白色粒子・砂粒 微量	内面：浅黄褐色	先端部平坦で外側に広がる。中央部が らみをだす。後付け形に小変形。全周ナ。	後期
127	SD01	十唇土器	十唇	充形	径 32	-	厚 07	40	白色粒子少量	内面：にほい 黃褐色	湖面を裏地に打ち欠いている。多条の舟 網状を交差。	加曾利日式
128	SD02	石器	石器・四 石	-	長さ <68>	厚さ <6>	幅 <33>	-	-	-	石器の裏面を内むして再利用。	安山岩。204 g
129	表土	石器	石器	-	長さ <50>	厚さ 41	幅 <27>	-	-	-	器底大さく瘤む。高麗平滑に盛り出す。	安山岩。187 g
130	SD02	石器	磨石	-	長さ <55>	厚さ 28	幅 <80>	-	-	-	全面使用。	安山岩。283 g
131	SK27	-	調片	-	長さ 25	厚さ 05	幅 20	-	-	-	上部からの抜き打痕。	黑曜石。33 g
132	SD02	十唇器	臺	口縫部	10	(24.6)	<30>	-	白色粒子少量、 石英粒、チャーハー 粒微量、白雲 母片少量	内面：明褐 色	口縫部大きく外側。口縫部上端外縫ヨコ ナ。外縫底方向ハケナ。内縫方向ハ ケナ状となるハナゲナ。	4世纪代
133	SD02	十唇器	臺	脚部	縦片	-	<23>	-	白色粒子少量	内面：褐色 外縫：黑褐色	直線深鉗で絞行文及び波継を施す。	4世纪代
134	表土	瓦器	瓦井井付 器	瓦井井付 器	10	(14.6)	<27>	-	白色粒子少量、 石英粒微量	内面：灰褐色	直線とその間に明瞭な横 縫を持つ。口縫部内外縫ヨコナ。体部内 外縫丁字ナ。	6世纪後葉～7 世纪初葉
135	SD01	土器	坏	口縫部～ 体部	30	(14.5)	<33>	-	白色粒子少量、 白雲 母片多量	内面：暗褐色	口縫部直立して、体部との間に明瞭な横 縫を持つ。口縫部内外縫ヨコナ。体部内 外縫丁字ナ。	6世纪後葉
136	SK21	土器	臺	口縫部	20	(19.6)	<40>	-	白色粒子・白雲 母片多量、石英 粒微量	内面：褐色	直線部が大きめ。立ち上がりは直線的。 内縫と外縫がヨコナ。内縫内外縫 ヨコナ。	高麗化。
137	SD01	十唇質 器	内耳溝	口縫部～ 調部	縦片	-	<4.8>	-	白色粒子・白雲 母片多量、石英 粒少量	内面：褐色 外縫：黑褐色	口縫部直立して、体部との間に明瞭な横 縫を持つ。内縫と外縫がヨコナ。内耳溝 内縫にスス付着。	外周の一部にス ス付着。
138	SD01	十唇質 器	内耳溝	口縫部～ 調部	10	(25.0)	<55>	-	白色粒子・白雲 母片多量、沙 粒少量	内面：褐色 外縫：黑褐色	口縫部直立。口縫部内外縫ヨコナ。内耳溝 内縫にスス付着。	外周全周にス ス多量に付着。

第5章 下坂田中台遺跡東区

東区の調査は平成24年11月28日～12月27日まで行われた。検出された遺構は土坑22基、井戸2基、性格不明遺構1基、ピット85基を数える。検出された遺構は全て中世以降の所産である。以下から遺構・遺物の概観をしていくが、ピットは配列など規則性が確認できなかったため別に節を立てて言及している。

第1節 中世以降

1号井戸（第44図）

東区の南側に位置する。平面形は円形を呈する。径は約121cm、深さは約143cm以上を測る。断面形は箱状を呈し、壁は垂直に掘り込まれている。覆土は4層以上に分けられ、人為的な堆積状況を呈する。遺物は縄文土器が1点出土しているが細片のため図示し得なかった。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて中世以降の所産であろう。切り合い関係から20号土坑・43号ピットに先行して、2号井戸、1号性格不明遺構に後続する。

2号井戸（第45～47図）

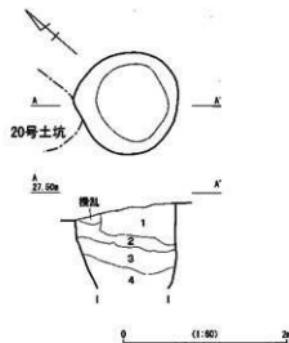
東区の南側に位置する。東側の半分が調査区外である。平面形は円形を呈する。径は約242cm、深さは約140cm以上を測る。断面形は漏斗状を呈し、壁は上方が拡がり、角度を変え下位が垂直に掘り込まれている。覆土は8層以上に分けられ、漏斗状の部分は自然埋没、竪坑部分は人為的な堆積状況を呈する。遺物は縄文時代後期の土器、土師質土器の内耳鍋や小皿、常滑産の壺、陶器の鉢など84点出土している。なかでも土師質土器の内耳鍋が覆土の上層に集中して出土している。このうち12点を図示し得た。1は土師質土器の小皿である。2～12は土師質土器の内耳鍋である。切り合い関係や遺構の形状、出土遺物、覆土のあり方から考えて15世紀～16世紀以降に埋没した井戸であろう。1号井戸に先行して、切り合い関係から1号性格不明遺構に後続する。

1号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。遺構の西側半部が調査区外である。平面形は梢円形を呈する。長径は現状約76cm、短径は約76cm、深さは約21cmを測る。主軸方向はN-65°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は單一層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代後期中葉加曾利B式期の土器、土師質土器の内耳鍋や小皿、常滑産の壺など11点出土しているが、すべて細片のため図示し得なかった。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

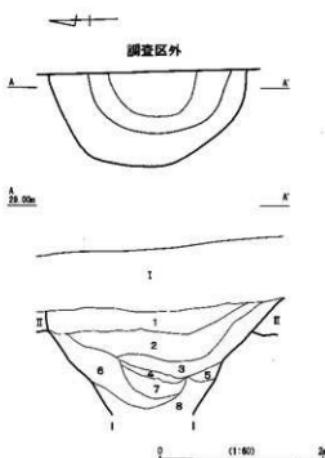
2号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は現状約173cm、短径は約107cm、深さは約9cmを測る。主軸方向はN-4°-Wを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は單一層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。



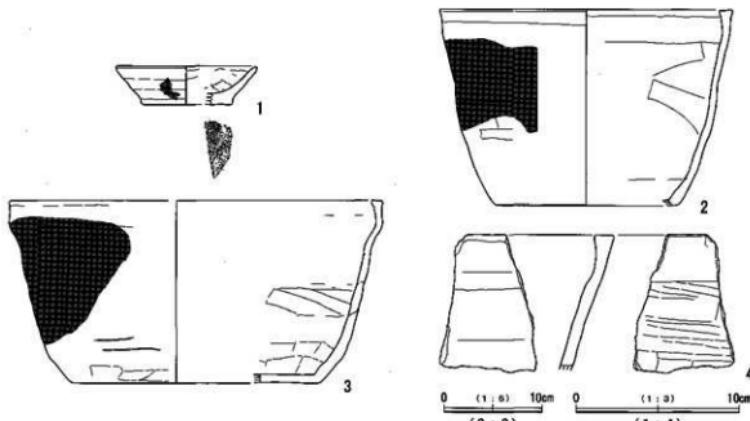
- 1号井戸
- 10YR5/8 明黄色土層 ロームブロックを多量に含む。粘性を持ち、やや硬度より欠ける。
 - 10YR3/4 塗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、やや硬度ある。
 - 10YR4/4 棕色土層 粘土粒を少量、ロームブロックを多量に含む。粘性を持ち、やや硬度より欠ける。
 - 10YR3/4 塗褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、純まる。

第44図 1号井戸

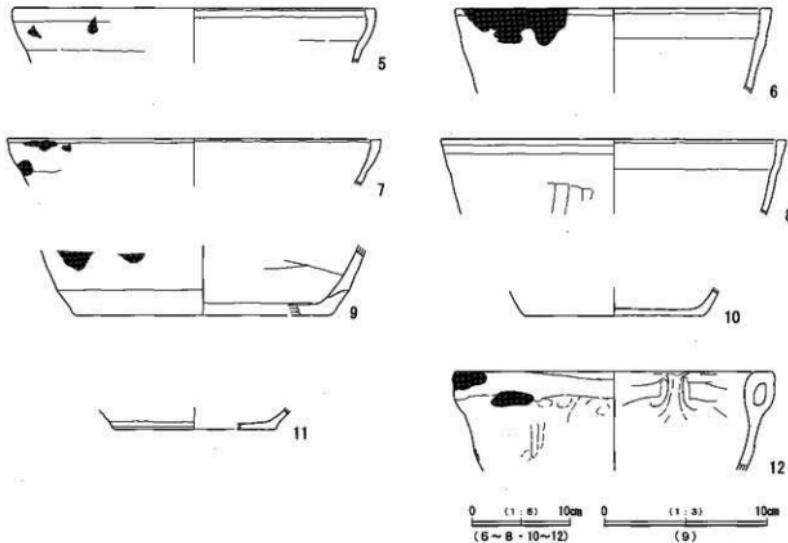


- 2号井戸
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、今や少さる。
 - 10YR3/4 塗褐色土層 ローム粒を少量含む。粘性を持ち、純まる。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 ローム粒を微量含む。粘性を持ち、純まる。
 - 10YR4/4 棕色土層 ローム粒を主とする。粘性を持ち、研磨よりに欠ける。
 - 10YR3/4 塗褐色土層 ローム粒を少含む。粘性を持ち、純まる。
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、純まる。
 - 10YR4/4 棕色土層 粘性を持ち、純まる。
 - 10YR4/6 棕色土層 ロームブロックを少量含む。粘性を持ち、純まる。

第45図 2号井戸



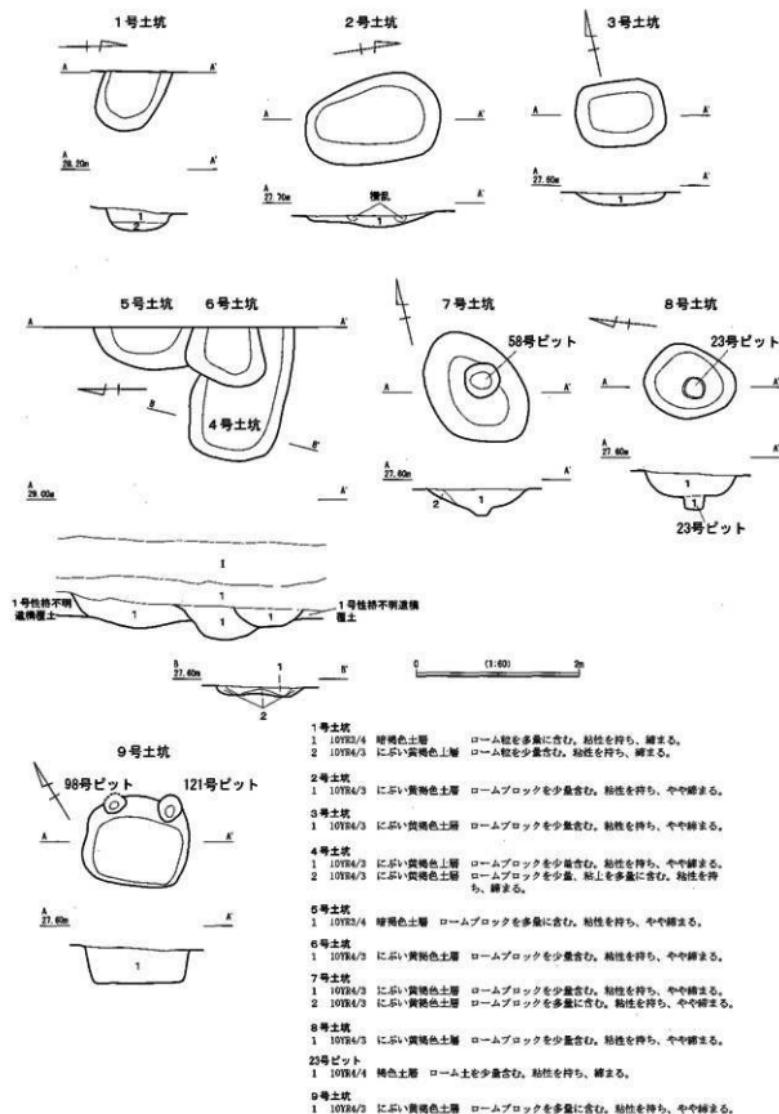
第46図 2号井戸出土遺物 (1)



第47図 2号井戸出土遺物（2）

第19表 2号井戸出土遺物観察表

番号	種類	形態	寸法	特徴	内面		外側		外觀
					長	幅	長	幅	
1	土器質土器	小皿	口縁部～底部	40 (85) <23> (55)	白・米色粒子、 表面微量	内外面：褐色 及灰褐色	良好	ロクロ形容で底部尖端、口縁部外側異 ヨコナ。体部内側有凹痕ナデ後内ヒビ ナガ。	外觀に黑色付着 物。
2	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	30 (300) 201 (186)	白色粒子、白 色片少量	内面：黄褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底、内側に痛み出。口縁部内 外皆ヨコナ。網筋内面強いナダ。内面 スス及び黑色付 着物。	16世紀後半
3	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	40 (424) 185 (202)	白色粒子、白 色片少量	内面：黄褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底、内側に痛み出。口縁部内 外皆ヨコナ。網筋内面強いナダ。内面 スス及び黑色付 着物。	網筋外側企念に スス及び黑色付 着物。
4	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	10 - <83> -	白色粒子、砂粒、 白雲母片少量	内面：黄褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底。口縁部内外面ヨコナ。網 筋内側横内に黒斑したナラナナ付ナ グ付。	網筋外側企念に スス及び黑色付 着物。
5	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	10 (367) <56> -	白色粒子、帶状、 白雲母片少量	内面：黄褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底。口縁部内外面ヨコナ。網 筋内側ヘタナダ後ナダ。外觀強いナ グ。	網筋外側企念に スス及び黑色付 着物。
6	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	10 (322) <87> -	白色粒子・白 雲母片少量、 チャート微痕	内面：褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底。口縁部内外面ヨコナ。網 筋内側外強いナダ。	網筋外側企念に スス及び黑色付 着物。
7	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	(380) <49> -	白色粒子、帶狀、 白雲母片少量	内面：黄褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底にして進み。口縁部内外面ヨ コナ。	網筋外側企念に スス及び黑色付 着物。
8	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	(350) <76> -	白色粒子少々、 白雲母片微量	内面：黄褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底。口縁部内外面ヨコナ。網 筋内側ヘタナダ後ナダ。外觀強いナ グ付ナダ。	外觀上面に多量 にスス付着。
9	土器質土器	内耳皿	網筋～底部	10 - <43> (155)	白色粒子・白 雲母片、帶状少 量	内面：に付ナ 外面：赤褐色	良好	網筋外側企念ス ス付着。	網筋外側企念ス ス付着。
10	土器質土器	内耳皿	網筋～底部	20 (182) <28> -	白色粒子・砂粒、 白雲母片少量	内面：赤褐色 外面：褐褐色	良好	網筋外側企念及 底部内外面強いナダ。	網筋外側企念に スス付着。
11	土器質土器	内耳皿	網筋～底部	10 - <12> (164)	白色粒子、砂粒、 白雲母片少量	内面：褐色 外面：暗褐色	良好	網筋外側企念及 底部内外面強いナダ。	網筋外側の一部 に黑色付着物。
12	土器質土器	内耳皿	口縁部～底部	30 (325) <102> -	白色粒子・砂粒 白雲母片微量	内面：褐色 外面：褐褐色	良好	口縁部平底。口縁部内外面ヨコナ。網 筋外側企念、底内向のヘタナダ後ナ ダ。内面横並び斜方向のヘタナダナ ダ。口縁部底より接続して2草葉の内 丸輪り付け。	網筋外側企念に スス及び黑色付 着物。



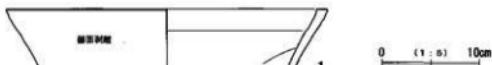
第48図 1~9号土坑



第49図 8号土坑出土遺物

第20表 8号土坑出土遺物観察表

1	覆土 土師質土 器	小豆 赤鉄	口縁部～ 中段	10 (10.4)	<16>	-	白・黒色粒子微 量	内外面：青褐色 有	ロクロ底形。口縁部内外面ヨコナガ。体 身内面ナガ。
---	-----------------	----------	------------	--------------	------	---	--------------	--------------	------------------------------



第50図 9号土坑出土遺物

第21表 9号土坑出土遺物観察表

1	覆土 土師質土 器	内不調 削部	口縁部～ 中段	細片 (32.6)	<3.3>	-	白色粒子、尋枚 白雲母片少量	内外面：明褐色 色	口縁部平底。口縁部内外面ヨコナガ。内 面内面ノーナナゲ後ナガ。外面脛面の剥落 が顯著で變色不明。
---	-----------------	-----------	------------	--------------	-------	---	-------------------	--------------	--

3号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約109cm、短径は約80cm、深さは約14cmを測る。主軸方向はN-82°-Wを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

4号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。遺構の東側の一部は調査区外である。平面形は隅丸方形を呈する。長径は現状約167cm、短径は約114cm、深さは約10cmを測る。主軸方向はN-77°-Wを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構、6号土坑に後続する。

5号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。遺構の東側半分は調査区外でその部分は調査できなかった。平面形は梢円形を呈する。長径は現状約116cm、短径は現状約51cm、深さは約10cmを測る。主軸方向はN-12°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面はやや起伏を持つ。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て6号土坑に先行して、1号性格不明遺構に後続する。

6号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。遺構の東側1/3は調査区外である。平面形は不整円形を呈する。長径は約100cm、

短径は現状約70cm、深さは約41cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は覆土中層より縄文時代中期の土器が1点出土して、繩片のため図示し得なかった。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て4号土坑に先行して、1号性格不明遺構・5号土坑に後続する。

7号土坑（第48図）

東区の北側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約155cm、短径は約111cm、深さは約22cmを測る。主軸方向はN-27°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行し、21号ピットに後続する。

8号土坑（第48・49図）

東区の北側に位置する。平面形は不整梢円形を呈する。長径は約112cm、短径は約91cm、深さは約24cmを測る。主軸方向はN-9°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は図示した土師質土器の小皿が1点出土している。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが15世紀～16世紀代の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行し、23号ピットに後続する。

9号土坑（第48・50図）

東区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約126cm、短径は約113cm、深さは約46cmを測る。主軸方向はN-50°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は覆土の中層から図示した土師質土器の内耳鉢が1点出土している。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構、84号ピットに先行して、61号ピットに後続する。

10号土坑（第51・52図）

東区の中央部に位置する。平面形は円形を呈する。径は約119cm、深さは約40cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は縄文時代中期後葉加曾利E式期の土器や土師質土器の内耳鉢などが5点出土している。このうち土師質土器の内耳鉢を1点図示し得た。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

11号土坑（第51図）

東区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約83cm、短径は約63cm、深さは約27cmを測る。主軸方向はN-77°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底

面は概ね平坦である。覆土は單一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

12号土坑（第51図）

東区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約92cm、短径は約65cm、深さは約14cmを測る。主軸方向はN-81°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は單一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

13号土坑（第51図）

東区の中央部に位置する。平面形は不整梢円形を呈する。長径は約70cm、短径は約50cm、深さは約21cmを測る。主軸方向はN-1°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は單一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行して、36、37号ピットに後続する。

14号土坑（第51図）

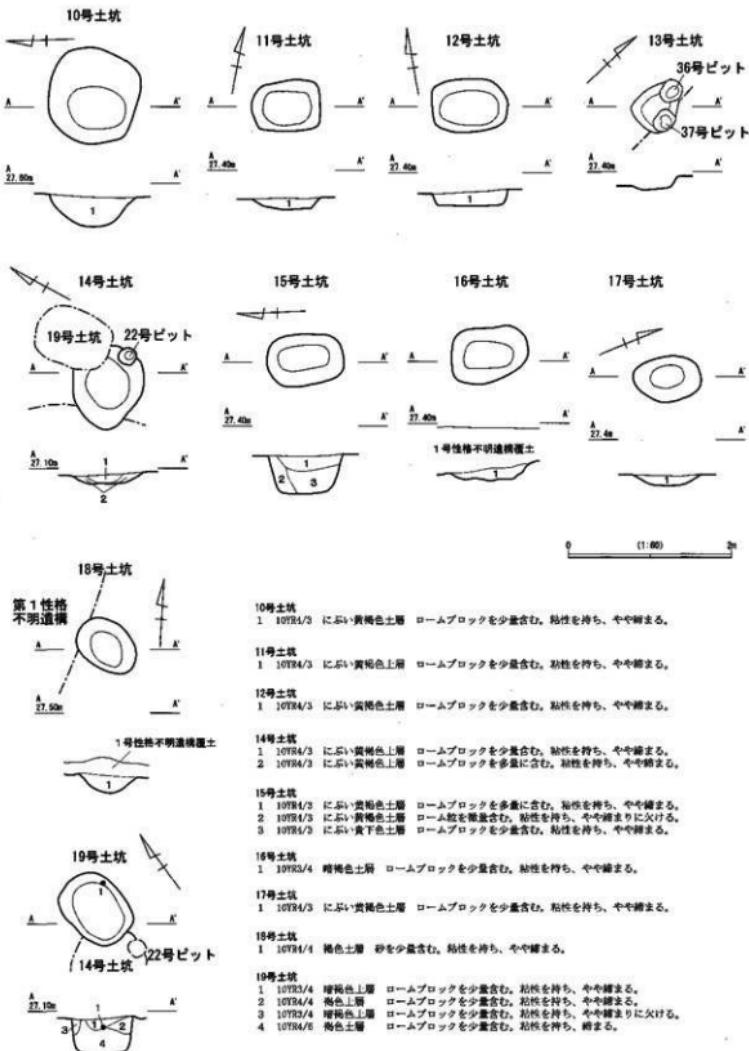
東区の中央部に位置する。平面形は不整円形を呈する。径は約93cm、深さは約25cmを測る。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行して、19号土坑、22号ピットに後続する。

15号土坑（第51図）

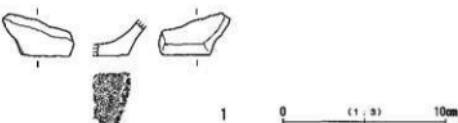
東区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約94cm、短径は約63cm、深さは約55cmを測る。主軸方向はN-7°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁は急角度に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は3層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

16号土坑（第51図）

東区の南側に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約93cm、短径は約69cm、深さは約40cmを測る。主軸方向はN-82°-Eを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は2層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。



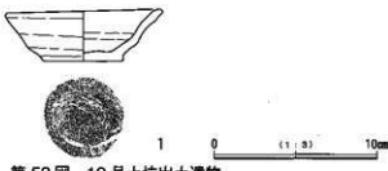
第51図 10～19号土坑



第52図 10号土坑出土遺物

第22表 10号土坑出土遺物観察表

1	覆土	上部質土 器	小皿	口縁部～ 底部	底形	95	32	43	白色・ 白色粒子僅 量	内外面：様色 好	10号土坑出土遺物観察表	
											内面	外側
1	覆土	上部質土 器	小皿	口縁部～ 底部	底形	95	32	43	白色・ 白色粒子僅 量	内外面：様色 好	クロコ底形。底部僅かに突出して外部外 部中央部で右斜、口縁部外縁ヨコナダ。 器内外面を切削ナダ。底部内面ハラナダ ナダ。外表面右斜角系切り挫し後ナダ。 16世紀中期	10cm



第53図 19号土坑出土遺物

第23表 19号土坑出土遺物観察表

1	覆土	上部質土 器	内面 底部	底形	95	32	43	<2>	-	白色粒子・石英 粒・チャート粒・ 白雲母片少量	19号土坑出土遺物観察表	
											内面	外側
1	覆土	上部質土 器	内面 底部	底形	-	-	-	<2>	-	白色粒子・石英 粒・チャート粒・ 白雲母片少量	黄褐色 良好	企頭ナダ。

17号土坑（第51図）

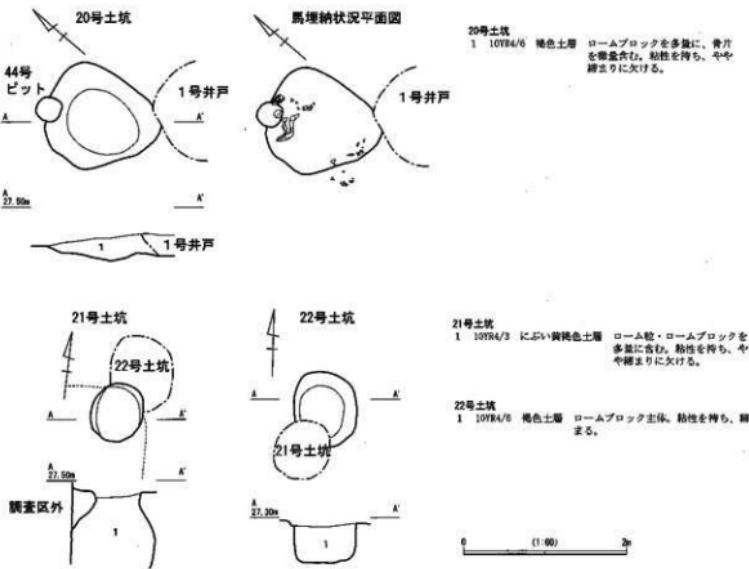
東区の南側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約82cm、短径は約57cm、深さは約18cmを測る。主軸方向はN - 22° - Eを示す。断面形は皿状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

18号土坑（第51図）

東区の南側に位置する。平面形は梢円形を呈する。長径は約79cm、短径は約58cm、深さは約17cmを測る。主軸方向はN - 65° - Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行する。

19号土坑（第51・53図）

東区の中央部に位置する。平面形は隅丸方形を呈する。長径は約94cm、短径は約70cm、深さは約59cm



第54図 20～22号土坑

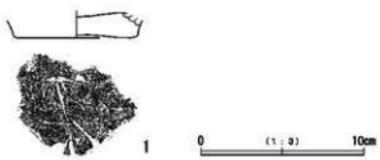
を測る。主軸方向はN-9°-Wを示す。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は4層に分けられ、人為的な埋没状況を呈する。遺物は覆土中層から図示した土器質土器の小皿が1点出土している。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方から考えて、15世紀から16世紀の土壤墓であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構、14号土坑に先行する。

20号土坑（第54図）

東区の南側に位置する。平面形は不整規円形を呈する。長径は約143cm、短径は約129cm、深さは約37cmを測る。主軸方向はN-35°-Wを示す。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに掘り込まれている。底面はやや起伏を持つ。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は覆土上層から中層に土器質土器の内耳鍋や碟が5点出土しているが、遺物は細片のため図示し得なかった。また、中層から下層に頭を北西方向に向けた獸骨が検出されているが、ほぼ骨の表面のみ残る状況で専らからの判断となるが馬と考えられる。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方から考えて、15世紀から16世紀の馬埋納土壙であろう。1次調査において、この遺構の南西側から同様の遺構（1区11号土坑）が検出されている。切り合い関係から見て1号性格不明遺構、43、44号ピットに先行して、1号井戸に後続する。

21号土坑（第54・55図）

東区の南側に位置する。この遺構は深く、他の遺構などの関係から壁面など崩落の危険があるため、底面まで掘削できなかった。平面形は円形を呈する。径は約70cm、深さは約79cm以上を測る。断面形は不定形



第55図 21号土坑出土遺物

第24表 21号土坑出土遺物観察表

1	覆土	灰器	甕	底部	細片	-	<16> (7枚)	白色粒子・白磁 母片多量、砂粒 少量		内外面：赤褐色 少量	不規則内部ナデ。外縁多方向のヘラケズリ 底ナデ。	
								白色粒子	白磁			

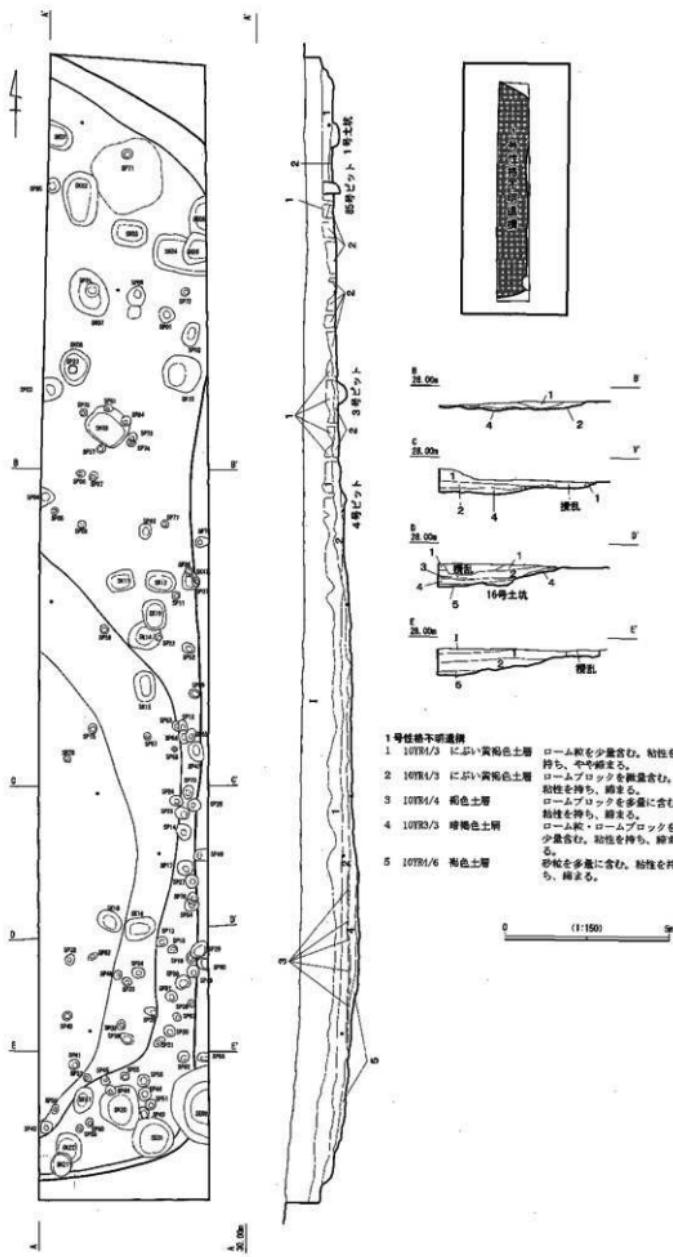
を呈し、壁はまず垂直に掘り込まれて、確認面から約30cmほどで東や南方向に大きく掘りこまれている。底面は不明である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は覆土上層から中層に土師質土器の内耳鍋や常滑産の甕が3点出土している。このうち常滑産の甕を1点示し得た。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方から考えて、中世以降の地下式壙の開口部分であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構、22号土坑に先行する。

22号土坑（第54図）

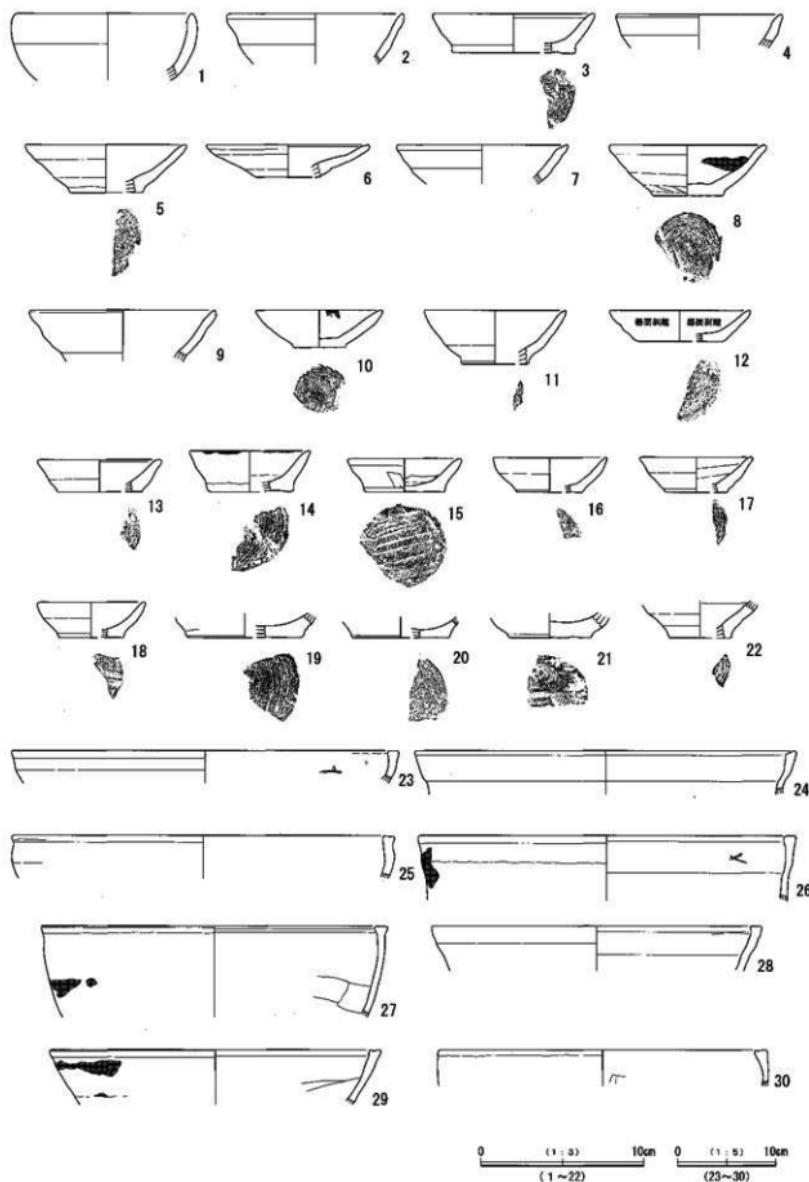
東区の南側に位置する。平面形は楕円形を呈する。長径は現状約90cm、短径は約77cm、深さは約62cmを測る。主軸方向はN-5°-Eを示す。断面形は箱状を呈し、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。底面は概ね平坦である。覆土は単一層で、人為的な埋没状況を呈する。遺物は出土していない。切り合い関係や遺構の形状、覆土のあり方から考えて、性格は不明だが中世以降の所産であろう。切り合い関係から見て1号性格不明遺構に先行して、21号土坑に後続する。

1号性格不明遺構（第56～58図）

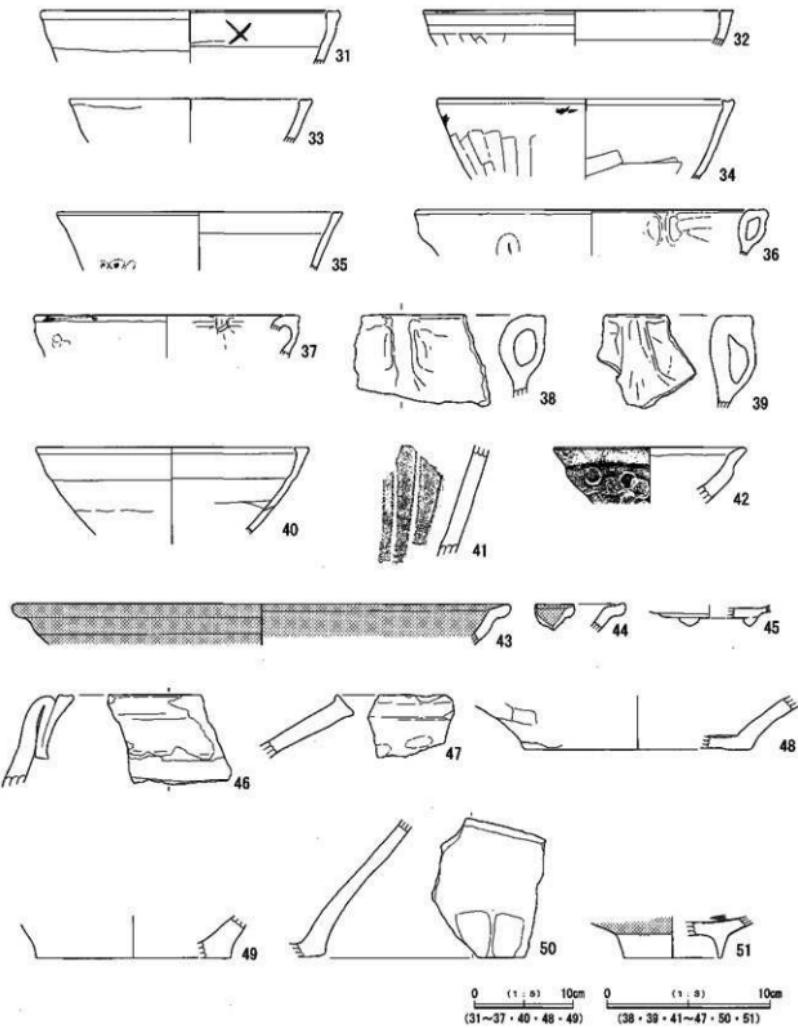
東区の大半に分布している。北と南側において西方向に曲がる。確認部分の全長は約35.1m、上面の最大幅は約5.2m以上、底面の幅は約3.0m以上、深さは最深部で確認面から約90cmを測る。底面の標高は約26.54～26.68mを測り、概ね平坦である。断面形は緩やかな階段状を呈する。覆土は5層に分けられ、人為的な平面埋没状況を示す。遺物は绳文時代中期から後期の土器、磨石、須恵器壺、土師器高台付壺、土師質土器の内耳鍋や小皿、白磁の碗、古瀬戸の折口深皿や鉢、擂鉢など351点出土している。このうち51点の遺物を図示することが出来た。1は丸底で手びねりの土師質土器の小皿である。2～22は平底でロクロ成形による土師質土器の小皿である。口径約6.5～10cmほどで、器高が約3.8～4.2cm程の一群と6～7cm程の一群に分かれる。23～39は土師質土器の内耳鍋である。器高が確認できなかったが、10cm近い器高をもつものもあり、概ね中世に収まるであろう。23・26・31には口縁部及び胴部内面にヘラ書き記号がある。23～39の内耳鍋と同一個体のものもあるかもしれないが、接合しなかつたため、別個体として報告する。40は土師質土器の鉢、41は擂鉢、42は香炉である。43・44は古瀬戸の折口深皿である。45は脚付皿である。46～50は常滑産の甕であろう。51は白磁の碗で高台が付く。切り合い関係や出土遺物、遺構の形状、覆土のあり方などから判断して15世紀から16世紀頃の盛土状遺構の可能性が高いが、調査区の制約から詳細は不明である。東区で検出されたほぼ全ての遺構に後続する。



第56図 1号性格不明遺構



第57図 1号性格不明遺構出土遺物(1)



第58図 1号性格不明遺構出土遺物（2）

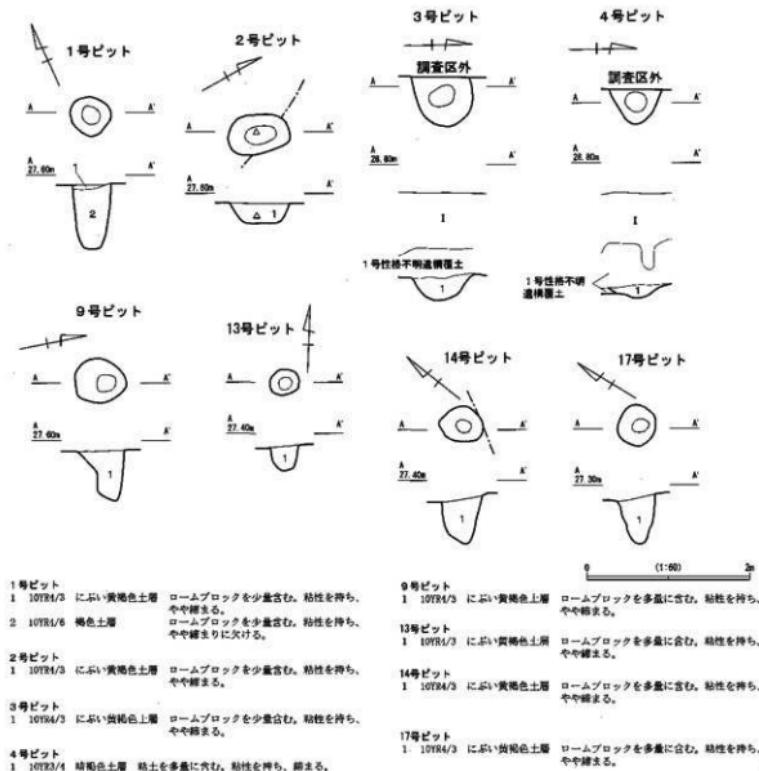
第25表 1号性格不明造構出土遺物観察表

番号	遺物名	性質	形態	大きさ	材質	表面状況	内部構造	特徴	出土地点		参考文献
									地層	層位	
1	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	30	(10.2)	<41>	-	白色粒子少、赤色粒子・石系 起毛質	内外面：滑色	丸形、手びねり。口縁部内外面ヨコナギ。 赤色内面削痕付。	
2	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	20	(10.2)	<31>	-	白・赤色粒子混 起毛質	内外面：滑色	口ロコ底形。口縁部内外面ヨコナギ。全体 好	
3	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	30	(10.0)	24	(7.4)	白色粒子少量	内外面：滑色	口ロコ底形。口縁部内外面ヨコナギ。全体 好	
4	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	10	(10.0)	<20>	-	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	
5	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	30	(9.8)	29	(4.3)	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	15世紀後葉
6	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	20	(9.8)	20	(3.8)	白色粒子微量	内外面：明黄色 好	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	16世紀中葉
7	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	30	(9.8)	<27>	-	白色粒子少、 黑色粒子微量	内外面：よい 滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	
8	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	60	(9.3)	31	(4.2)	白色粒子微量	内外面：浅黄色 好	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	16世紀中葉
9	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	20	(8.8)	<38>	-	白色粒子少量、 赤色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	16世紀中葉
10	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	70	(8.6)	23	33	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。滑かに表面が突出。全体好	
11	土師質土器	小瓶	口縁部～全体	40	(8.6)	33	(4.0)	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	16世紀中葉
12	土師質土器	小瓶	全体～底部	30	(8.5)	19	(5.1)	白色粒子微量、 赤色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体外東半中央部に僅に凹 窪み付。口縁部内外面ヨコナギ。	
13	土師質土器	小瓶	口縁部～底部	30	(7.5)	20	(5.2)	白色粒子少、 白色粒子微量	内外面：周滑色 好	口ロコ底形。全体外東半中央部に僅に凹 窪み付。口縁部内外面ヨコナギ。	全面スス付着。 16世紀後葉
14	土師質土器	小瓶	口縁部～底部	40	(7.2)	25	(5.0)	白色粒子少量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	16世紀前葉
15	土師質土器	小瓶	口縁部～底部	80	(6.8)	<27>	(4.8)	白・赤色粒子少 量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	15世紀中葉
16	土師質土器	小瓶	口縁部～底部	20	(6.8)	<27>	(4.0)	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。底部側方に突起。口縁部内外面ヨ コナギ。	
17	土師質土器	小瓶	口縁部～底部	30	(6.8)	22	(3.7)	白・赤色粒子少 量	内外面：明黄色 好	口ロコ底形。全体外東半中央部に僅に凹 窪み付。底部尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	16世紀中葉
18	土師質土器	小瓶	口縁部～底部	20	(6.5)	22	(4.0)	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	15世紀中葉
19	土師質土器	小瓶	全体～底部	30	-	<15>	(7.0)	白・黑色粒子微量	内外面：浅黄色 好	口ロコ底形。全体外東半中央部に僅に凹 窪み付。底部尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	
20	土師質土器	小瓶	全体～底部	20	-	<13>	(5.8)	白・赤色粒子・ 白色粒子少量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	
21	土師質土器	小瓶	全体～底部	20	-	<15>	(5.0)	白・赤色粒子少 量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	
22	土師質土器	小瓶	全体～底部	30	-	<23>	(3.8)	白色粒子微量	内外面：滑色	口ロコ底形。全体尖出。口縁部内外面ヨコナギ。 全体好	
23	土師質土器	片耳瓶	口縁部～瓶部	細片	(39.5)	<33>	-	白色粒子・白素 起毛質	内面：明黄色 外面：黑褐色	口部脇平底で外側に撫み出される。瓶部内 外面回転ナギ後ナギ。	外面全面にスス付着。
24	土師質土器	片耳瓶	口縁部～瓶部	細片	(38.8)	<46>	-	白色粒子・石系 起毛質	内面：滑色 外面：黑褐色	口部脇平底。蓋下内外面回転ナギ後ナ ギ。	背面全面にスス付着。
25	土師質土器	片耳瓶	口縁部～瓶部	細片	(38.6)	<42>	-	白色粒子・ チャート粒・白 素起毛質	内面：滑色 外面：黑褐色	口部脇平底で外側に撫み出される。瓶部 好の内外面回転ナギ。	外面全面にスス 及び黒色付着。
26	土師質土器	内耳瓶	口縁部～瓶部	10	(38.5)	<58>	-	白色粒子	内面：滑色 外面：白素起毛質	口部脇平底。口縁部内外面ヨコナギ。瓶部 好の内外面回転ナギ。	外面全面にスス 及び黒色付着。
27	土師質土器	内耳瓶	口縁部～瓶部	粗片	(38.0)	<92>	-	白色粒子・少 量、白素起毛質 多量	内面：明赤褐色 外面：暗褐色	口部脇平底。内外に撫み出。内外面ヨ コナギ。瓶部内外面ナギ。	瓶部外壁少量の 黒色付着。
28	土師質土器	内耳瓶	口縁部～瓶部	粗片	(33.6)	<47>	-	白色粒子少量、 白色粒子微量、 白素起毛質	内面：滑色 外面：黑褐色	口部脇平底にて撫み出。外側に僅に凹 窪み出。瓶部内外面ヨコナギ。瓶部内 外面ナギ。	全面全面にスス 付着。
29	土師質土器	内耳瓶	口縁部～瓶部	粗片	(33.5)	<54>	-	白色粒子少量、 白素起毛質	内面：明黄褐色 外面：滑色	口部脇平底にて撫み出。外側に僅に凹 窪み出。口縁部内外面ヨコナギ。瓶部内 外面ナギ。	瓶部外壁少量の 黒色付着。

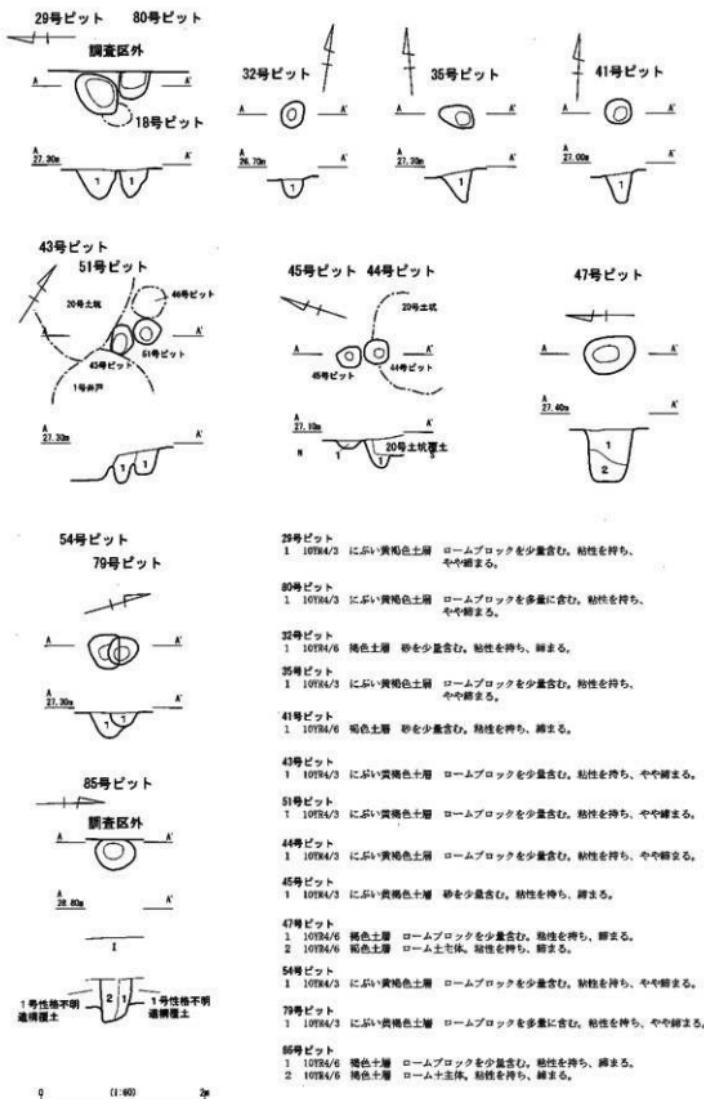
30	覆土	土部質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	断片	(33.4)	<3.6>	-	白色粒子・石英 粒・白雲母少 量、チャート粒 微量	内面：灰褐色 外面：にぶい 褐色	口唇部平坦にして内外に摘み出される。口縁 部が僅かに内側に傾く。	
31	覆土	土部質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	10	(22.2)	<5.1>	-	白色粒子・ 紅色少、白雲母 微量	内外面：赤褐色 好	口唇部平坦にして僅かに内側に傾く。	断片内面に横直 線「x」のヘラ 書き。
32	覆土	土部質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	10	(31.6)	<3.7>	-	白色粒子・ チャート粒少 量、白雲母多 量	内外面：にぶい 褐色	口唇部平坦で外側へ極めて僅かに内側へ角度を 変える。	
33	覆土	土部質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	断片	(31.2)	<4.5>	-	白色粒子・ チャート粒少 量、白雲母片多 量	内外面：にぶい 黃褐色	口唇部平坦で外側に摘み出される。胴部 の内外面黒ナガ。	
34	覆土	上鉢質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	20	(30.9)	<5.2>	-	白色粒子・白雲 母片多量	内面：青褐色 外面：黑褐色	口唇部平坦にして僅み。口縁部内面ヨコ ナガ、側面部内面方向へラナデ後ナダ。	断片外表面にス ヌス及び黑色付 着物。
35	覆土	上鉢質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	断片	(29.6)	<5.9>	-	白・赤色粒子少 量、石英粒微量	内面：褐色 外面：灰褐色	口唇部平坦。口縁部内面ヨコナガ、胴 部内面黒ヨコナガ後ナダ。	断片全面にスス 付着物。
36	覆土	上鉢質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	10	(36.6)	<4.8>	-	白・赤色粒子・ 白雲母片微量	内面：にぶい褐 色 外面：黑褐色	口唇部平坦。口縁部内面ヨコナガ、胴 部内面黒ヨコナガ。内面側方内側へラナ グ後ナダ。内耳貼り付け。	断片全面にスス 付着物。
37	覆土	上鉢質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	10	(27.6)	<4.6>	-	白色粒子少量、 白雲母片多量	内面：褐色 外面：黑褐色	口唇部平坦。口縁部内面ヨコナガ、側 面部内面黒ヨコナガ後ナダ。	断片全面にスス 付着物及び一部に黑色 付着物。
38	覆土	土部質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	10	-	<5.9>	-	白・黑色粒子少 量、白雲母片少 量	内面：にぶい褐 色 外面：黑褐色	口唇部平坦。口縁部内面ヨコナガ、側 面部内面黒ヨコナガ後ナダ。	断片全面にスス 付着物。
39	覆土	土部質土 等	内耳鍋	口縁部～ 胴部	断片	-	<5.6>	-	白・白雲母片少 量、白雲母片微 量	内面：灰褐色 外面：黑褐色	口唇部平坦、断面角度を変える。外張 ナガ。内面ヨコナガ後ナダ。内耳貼り付 け。	断片全面にスス 付着物及び一部に黑色 付着物。
40	覆土	土部質土 等	鉢	口縁部～ 胴部	10	(27.7)	<9.0>	-	白色粒子・砂金 白雲母片少量	内面：暗褐色 外面：明赤褐色	口唇部平坦にして内外に摘み出される。口縫 部内面ヨコナガ、側面部内面黒ヨコナガ後 ナダ内面黒方向へラナデ。	
41	覆土	上鉢質土 等	擂钵	擂钵	断片	-	<6.6>	-	白色粒子・白雲 母片多量、春枝 少量	内面：灰褐色 外面：褐色	口唇部内面幅1cm程の断面傾斜方向に隆 起。	
42	覆土	土部質土 等	香炉	口縁部～ 胴部	10	(11.5)	<3.4>	-	白・黑色粒子少 量	内面：褐色 外面：にぶい黃 褐色	口縫部外反、体部との境に稜を持つ。口 縫部内面ヨコナガ、側面部内面黒ヨコナガ 後ナダ。	口縫部内面二次 成(使用時)ナ ダ。
43	覆土	陶器	皿	口縁部	断片	(30.2)	<2.8>	-	黑色粒子微量	内外面：オリエ ット質	口唇部平坦。口縫部大きめ外に出る。	内面陶器模 型
44	覆土	陶器	輪行皿	口縁部	断片	-	<1.7>	-	白色粒子微量	内外面：オリエ ット質	口縫部。口縫部を外側に折り返す。内 面凹凸。	内面窓
45	覆土	陶器	輪行皿	底板	断片	-	<1.3>	(5.0)	白色粒子微量	内外面：灰白色	口縫部内面黒ヨコナガ。外縫部後へラナ グ後ナダ。螺旋状の脚が折り付け。	
46	覆土	塔器	甕	山縁部	断片	-	<6.0>	-	白色粒子多量 ・白色粒子微量 ・黄褐色少量	内外面：褐色	口縫部が返して斜め上方に摘み出され る。内面黒ヨコナガ。	素滑後
47	覆土	塔器	甕	口縁部	断片	-	<4.0>	-	白色粒子・石英 粒・チャート粒 少量	内外面：褐色	口縫部を平坦。内外張ナダ。	素滑後
48	覆土	塔器	甕	胴部～基 部	断片	-	<5.5>	(23.0)	白色粒子多量 ・白色粒子微量 ・黄褐色少量	内面：灰褐色半 分 外面：明赤褐色	口縫部内面から底部内面ナダ。底部内面へ ラナデヨコナガ。引き張れ方に残る。底部 後ナダ。内面に自然彫。	素滑後
49	P.3	塔器	甕	胴部～基 部	断片	-	<4.3>	(19.6)	白色粒子多量、 小砾少量	内面：暗赤褐色 外面：黑褐色	小や底部突出。体部外側へラナグ。内面 ナダ。底部外側ヨコナガ。	素滑後
50	覆土	塔器	甕	胴部～基 部	断片	-	<5.4>	-	白色粒子・石英 粒・砂粒多量	内面：灰褐色 外面：にぶい黃 褐色	口縫部外側ナダ。外縫部下端ユビオサエ。 内面ヨコナガ。	素滑後
51	覆土	白磁	瓶	角部～基 部	20	-	<2.5>	(6.0)	-	内外面：灰白色	足高台。内面に文様不明の微刻文。内 面部は無地。	中國産

第2節 ピット（第59～61図）

東区で検出されたピットは85基を数える。ピットは調査区全体に満遍なく分布している。大半は深さ40cm以下の浅いピットであるが、9基ほど90cm弱の深さを持つ。ここでは個別に言及していかず、平面図および断面図とピット一覧表でその要素を示していく。このうち、2号ピットから根石と利用したと思われる上面が平坦の礫が出土している。東区における他のピットからは同様の礫は出土していないため調査区外に広がっている建物跡と考えられる。ピットから繩文土器の細片や土師質土器の内耳鍋など5点の遺物が出土している。このうち3点の遺物を図示した。1から3はそれぞれ3・46・55号ピットから出土した土師質土器の内耳鍋である。



第59図 1～4・9・13・14・17号ピット

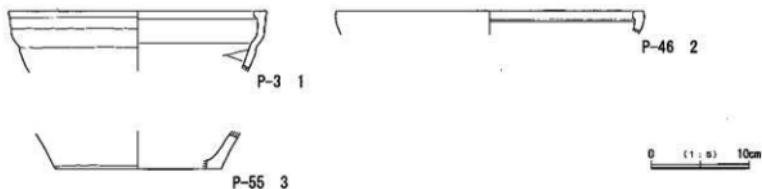


第60図 29・32・35・41・43～45・47・51・54・79・80・85号ピット

第26表 ピット一覽表

部位	性別	年齢	性状	部位	性別	年齢	性状	部位	性別	年齢	性状	部位	性別	年齢	性状
1号ビット	北側	円形	49	-	達合形状	275	39	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
2号ビット	北側	椭円形	75	49	複数状	275	11	1号性状不明達構に先行する	横1点	中世以降					
3号ビット	北側	椭円形	<63>	70	瓣状	274	33	1号性状不明達構に先行する	土師質器内耳鏡1点	中世以降					
4号ビット	中央部	椭円形	<43>	64	瓣状	273	29	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
5号ビット	中央部	円形	21	-	瓣状	273	14	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
6号ビット	中央部	椭円形	25	20	瓣状	273	21	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
7号ビット	中央部	椭円形	29	25	瓣状	273	19	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
8号ビット	中央部	円形	24	-	瓣状	273	26	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
9号ビット	北側	椭円形	63	54	瓣状	275	47	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
10号ビット	中央部	椭円形	49	37	瓣状	273	39	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
11号ビット	中央部	円形	25	-	瓣状	273	29	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
12号ビット	中央部	椭円形	<31>	27	瓣状	272	80	64号ビットに先行し、63号ビットに接続する	なし	中世以降					
13号ビット	南側	円形	35	-	瓣状	273	38	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
14号ビット	中央部	円形	49	-	瓣状	272	48	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
15号ビット	中央部	円形	29	-	瓣状	269	6	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
16号ビット	南側	椭円形	30	26	瓣状	273	21	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
17号ビット	中央部	円形	47	-	瓣状	272	46	1号性状不明達構に先行する	なし	中世以降					
18号ビット	南側	椭円形	35	28	瓣状	272	6	29号ビットに先行する	なし	中世以降					
19号ビット	南側	円形	37	-	瓣状	272	17	-	なし	中世以降					
20号ビット	南側	円形	45	-	瓣状	273	42	-	なし	中世以降					
21号ビット	北側	円形	42	-	瓣状	273	40	7号土坑に先行する	なし	中世以降					
22号ビット	中央部	円形	20	-	瓣状	272	41	14号土坑に先行する	なし	中世以降					
23号ビット	北側	円形	27	-	瓣状	273	20	8号土坑に先行する	なし	中世以降					
24号ビット	中央部	椭円形	40	30	瓣状	272	89	-	なし	中世以降					
25号ビット	中央部	椭円形	42	38	瓣状	272	77	-	なし	中世以降					
26号ビット	中央部	円形	42	-	瓣状	272	86	-	なし	中世以降					
27号ビット	中央部	円形	40	-	瓣状	272	30	-	なし	中世以降					
28号ビット	南側	円形	21	-	瓣状	273	7	-	なし	中世以降					
29号ビット	南側	椭円形	53	33	達合形状	273	34	18号ビットに接続する	なし	中世以降					
30号ビット	南側	円形	36	-	瓣状	273	13	-	なし	中世以降					
31号ビット	南側	椭円形	39	23	達合形状	273	12	-	なし	中世以降					
32号ビット	南側	椭円形	33	29	瓣状	265	13	-	土師質器内耳鏡1点	中世以降					
33号ビット	南側	椭円形	30	25	瓣状	271	34	-	土師質器内耳鏡1点	中世以降					
34号ビット	南側	椭円形	40	34	瓣状	272	43	-	なし	中世以降					
35号ビット	南側	不整椭円形	41	41	瓣状	273	21	-	なし	中世以降					
36号ビット	中央部	椭円形	29	29	瓣状	274	34	13号土坑に先行する	なし	中世以降					
37号ビット	中央部	椭円形	28	28	瓣状	274	31	13号土坑に先行する	なし	中世以降					
38号ビット	南側	不整椭円形	47	34	達合形状	271	17	-	なし	中世以降					
39号ビット	南側	椭円形	31	25	瓣状	271	38	-	なし	中世以降					
40号ビット	南側	円形	32	-	瓣状	269	18	-	なし	中世以降					
41号ビット	南側	円形	31	-	瓣状	269	27	-	なし	中世以降					
42号ビット	南側	椭円形	<41>	37	瓣状	272	30	-	なし	中世以降					
43号ビット	南側	椭円形	<35>	<31>	瓣状	272	72	1号井戸・20号土坑に後続する	なし	中世以降					

番号	部	形	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸	寸
44号ピット	南側	円形	29	-	筒状	27.0	24	20号ピットに先行する、45号ピットに後続する	なし	中世以降	
45号ピット	南側	長楕円形	50	25	連合形状	27.0	15	44号ピットに先行する	なし	中世以降	
46号ピット	南側	隅丸方形	40	40	連合形状	27.2	53	-	土器質土器内耳鏡1点	中世以降	
47号ピット	中央部	楕円形	62	45	筒状	27.2	37	-	なし	中世以降	
48号ピット	南露	円形	30	-	筒状	27.1	34	-	なし	中世以降	
49号ピット	中央部	隅丸方形	<44>	37	連合形状	27.2	20	-	なし	中世以降	
50号ピット	南側	楕円形	29	20	連合形状	27.0	25	-	なし	中世以降	
51号ピット	南側	隅丸方形	30	30	連合形状	27.2	38	-	なし	中世以降	
52号ピット	中央部	楕円形	41	30	筒状	27.2	19	-	なし	中世以降	
53号ピット	南側	円形	21	-	筒状	27.0	29	-	なし	中世以降	
54号ピット	中央部	円形	41	-	筒状	27.2	30	79号ピットに先行する	なし	中世以降	
55号ピット	南側	隅丸方形	25	25	筒状	27.0	24	-	純文土器1点	中世以降	
56号ピット	南側	隅丸方形	35	35	連合形状	27.2	47	-	なし	中世以降	
57号ピット	北側	円形	29	-	筒状	27.3	5	-	なし	中世以降	
58号ピット	中央部	円形	36	-	筒状	27.1	30	-	なし	中世以降	
59号ピット	南側	楕円形	25	20	筒状	27.2	31	-	なし	中世以降	
60号ピット	南側	楕円形	27	22	筒状	27.2	32	-	なし	中世以降	
61号ピット	北側	円形	28	-	筒状	27.4	46	9号土坑に先行する	なし	中世以降	斜方向に黒ら れる
62号ピット	南側	円形	35	-	筒状	27.3	17	-	なし	中世以降	
63号ピット	中央部	楕円形	<30>	30	筒状	27.2	54	12号ピットに先行する	なし	中世以降	
64号ピット	中央部	楕円形	41	<21>	筒状	27.2	78	65号ピットに先行し、12号ピットに後続する	なし	中世以降	
65号ピット	中央部	楕円形	40	30	筒状	27.2	75	64号ピットに後続する	なし	中世以降	
66号ピット	中央部	円形	17	-	筒状	27.1	18	-	なし	中世以降	
67号ピット	中央部	円形	23	-	筒状	27.1	16	-	なし	中世以降	
68号ピット	南側	隅丸方形	<35>	26	連合形状	27.3	6	-	なし	中世以降	
69号ピット	中央部	楕円形	33	26	筒状	27.2	11	-	なし	中世以降	
70号ピット	中央部	楕円形	42	30	筒状	27.2	97	-	なし	中世以降	
71号ピット	北側	円形	31	-	筒状	27.4	15	-	なし	中世以降	
72号ピット	北側	円形	25	-	筒状	27.5	24	-	なし	中世以降	
73号ピット	北側	円形	23	-	筒状	27.3	15	74号ピットに先行する	なし	中世以降	
74号ピット	北側	楕円形	27	17	筒状	27.3	20	73号ピットに後続する	なし	中世以降	
75号ピット	北側	円形	22	-	筒状	27.4	16	-	なし	中世以降	
76号ピット	中央部	楕円形	41	32	筒状	27.5	11	-	なし	中世以降	
77号ピット	中央部	円形	22	-	筒状	27.3	8	-	なし	中世以降	
78号ピット	中央部	楕円形	25	20	筒状	26.9	16	-	なし	中世以降	
79号ピット	中央部	円形	43	-	筒状	27.2	28	54号ピットに後続する	なし	中世以降	
80号ピット	南側	楕円形	<34>	40	連合形状	27.2	17	-	なし	中世以降	
81号ピット	南側	円形	37	-	筒状	27.3	18	-	なし	中世以降	
82号ピット	南側	不整楕円形	34	21	筒状	26.7	22	-	なし	中世以降	
83号ピット	南側	楕円形	29	23	筒状	27.3	13	-	なし	中世以降	
84号ピット	北側	円形	33	-	筒状	27.4	47	9号土坑に先行する	なし	中世以降	
85号ピット	北側	円形	45	-	筒状	27.6	17	1号性格不明遺構に後続する	なし	中世以降	



第61図 ピット出土遺物

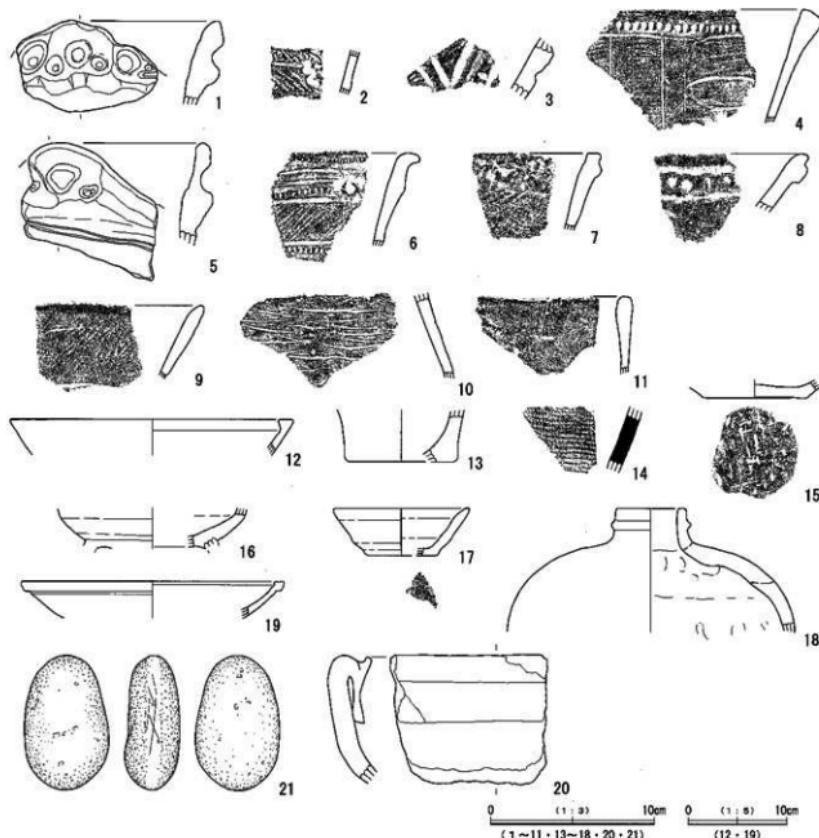
第27表 ピット出土遺物観察表

番号	ピット名	土質	内面	口縁部～脚部	長さ	幅	厚さ	形状	表面状況	内部構造	特徴		
											形態	状況	
1	3号ピット	土質質土 粘土	内面無	口縁部～脚部	10	(26.0)	<6.2>	-	白色 赤色粒子少 量、白雲母片多 く見	内面：赤褐色 外側：褐褐色	良好	口縁部平坦。 口縁部内外面ヨコナギ。 脚部外表面方向ナギ。 内面横方向ヘラナギ スス付瘤。	
2	46号 ピット	上部質土 粘土	内面無	口縁部 脚部	幅片	(31.4)	<2.3>	-	白色粒子・石英 粒少量、白雲母 片多量	内面：黄褐色	良好	口縁部や脚部で内側を面取りして内面に良 品。口縁部内外面ヨコナギ。	
3	55号 ピット	上部質土 粘土	内面無	脚部～脚 部	幅片	-	<3.9>	(16.4)	白色粒子・白雲 母片多量、石英 粒少量	内面：にぶい赤 褐色 外側：灰褐色	良好	脚部内外面及び脚部外表面ナギ。	

第3節 遺構外出土遺物（第62図）

ここでは遺構に伴わない遺物や、表土出土の遺物をまとめて言及していく。主体となるものは表土出土である。大半が細片のため時期が判断できる遺物は少なかった。内訳は、縄文時代後期前葉壠ノ内式期から古瀬戸の瓶子や鉢などである。このうち21点図示することが出来た。1～5は縄文時代後期前葉壠ノ内式期の土器である。6～8は縄文時代後期中葉加曾利B式期の土器である。9～11は縄文時代後期後葉後期安行式期の土器である。12は後期の浅鉢、13は時期不明の土器底部である。また、主体的に出土しなかつたため、項を設けなかつたが14の須恵器鉢および15の土師器坏、16の高台付坏は奈良・平安時代の所産である。

中世以降では表土から17の土師質土器の小皿、18の古瀬戸の瓶子、19の古瀬戸の鉢、20の常滑産の壺が出土している。石器では21の縄文時代磨石が出土している。



第62図 遺構外出土遺物

第28表 遺構外出土遺物觀察表

番号	性別	器種	部	形態	大きさ	材質	表面	内面	特徴	文	参考文献	
1	不明	陶文土器	深鉢	口縁部 縦片	-	<5.2>	-	白色粒子少量、石英多量	内面：明黄褐色 外縁：明赤褐色	直状縦溝跡の尖鋭部分。3箇所の円文の 間に2×3の列の横文を施文。	縦/内1式期	
2	10号土坑	陶文土器	深鉢	頭部 縦片	-	<2.7>	-	白色粒子・白素 砂粒微量	内面：墨褐色	良 外縁：LR純文。横方向に比縫及び文状 の沈線を施す。内面ナチュラル。	縦/内1式期	
3	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	頭部 縦片	-	<3.9>	-	白色粒子少量	内面：にぼい黃 褐色	良 平行比縫や割込みを持つ縦線で幾何学的に 区画する。	縦/内1式期	
4	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部～ 頭部	10	-	<7.0>	-	白色粒子少量	内面：墨褐色	良 平行比縫跡。頭部下辺比縫で区画及び 縦横円文の区画。区画内側走る多筋線。	縦/内2式期
5	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部～ 頭部	10	-	<6.5>	-	白・ 白色粒子少量、 砂粒微量	内面：墨褐色	良 滲透跡。底面底面に円文と斜向に よる把手。口縁部下辺に1条の比縫を有す。	縦/内2式期
6	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部～ 頭部	10	-	<5.7>	-	白色粒子多量、 砂粒少量	内面：にぼい黃 褐色	良 平滑表面。口縁部大きく外反し、ギザミ、 下位平行比縫を複数。斜向に把手を伴う突起を 持ち付け、割込みを持つ能線を複数。下位 横文。	加賀明日B 2式期
7	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部～ 頭部	細片	-	<1.7>	-	白色粒子少量	内面：灰黄褐色	不良 平滑表面。底面の股付文を模走らせ、下 位にLR純文を施文。	加賀明日B 2式期
8	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部 縦片	-	<3.5>	-	白色粒子少量、 砂粒微量	内面：にぼい黃 褐色	不良 平滑表面跡。口縁部下に押花を伴う 横文を複数させ貼り付け。	加賀明日B 2式期	
9	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部	10	-	<4.5>	-	白色粒子少量、 砂粒微量	内面：墨褐色	良 平滑表面。地文 LR純文。下端に模走す る比縫。	安行1式期
10	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	頭部 剥離	-	<5.2>	-	白色粒子少量、 砂粒多量	内面：灰黄褐色	良 模走する曲線を施す。	安行1式期	
11	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	口縁部 縦片	-	<4.7>	-	白・ 白色粒子少量、 砂粒多量	内面：明赤褐色	良 平滑表面。無文。内外面ナチュラル。円孔あり。	安行2式期	
12	1号性格 不明遺 構	陶文土器	浅鉢	口縁部 縦片	(29.0)	<3.7>	-	白色粒子・白素 砂粒少量	内面：明黄褐色	良 口縁部平坦で内に読み出される。剥離部 内面ナチュラル。	剥離	
13	1号性格 不明遺 構	陶文土器	深鉢	底部 縦片	-	<3.2>	(5.4)	白色粒子・砂粒 多量	内面：灰黄褐色	良 壁から底部との接地面が広がる。全面ナ チュラル。		
14	表土	陶器	鉢	頭部 縦片	-	<1.1>	-	白色粒子・砂粒 少量	内面：暗青褐色	頭部内部丁寧なナチュラル。外縁格子模印き目。		
15	2分井 yū	土器	环	底部	30	-	<1.1>	(6.0)	白色粒子少量、 黑色粒子多量、 金屬片微量	内面：灰褐色 外縁：墨褐色	良 底部内部丁寧なナチュラル。外縁格子模印き目。	
16	1号性格 不明遺 構	土器	高台付环	頭部～底 部	10	-	<2.5>	(6.2)	白・黑色粒子少 量、白素砂粒微量	内面：墨褐色 外縁：墨褐色	不良 底部欠損。体部外縁横方向へラグナード。 底部内部丁寧ナチュラル。	
17	表土	土器質土 器	小器	口縁部～ 頭部	40	(8.2)	2.9	(4.3)	白・赤色粒子混 在	内面：青褐色	良 口縫部を複数で穿孔する。断面大さく揺らぎ等 形。断面に文字を施す。内面剥離部 ビスピナス。断面ヘラナード。	口縫部上端の一 部に黒色付着 外縁灰褐色 占率四
18	表土	陶器	瓶	口縁部～ 頭部	10	(4.2)	<7.6>	-	黑色粒子微量	内面：淡青色 外縁：碧玉褐色	良 口縫部大きく刻む様形。口縫部内側に壁 を待ち、裏蓋下溝に段を持つ。外縁の 全面に灰褐色を施す。	16世紀中期
19	表土	陶器	瓶	口縁部～ 頭部	10	(26.8)	<3.7>	-	白色粒子微量	内面：灰 リーブ色	良 口縫部外縁に折り返し、口縫部を半周に して、外縁をつまみあげる。瓶底外縁面 ヨコナード。	常滑燒
20	表土	陶器	瓶	口縁部 細片	-	<7.0>	-	白・ 黑色粒子・ 砂粒少量	内面：赤褐色	良		
21	1号性格 不明遺 構	石器	磨石	-	完形	長さ 83	厚さ 34	幅 52	-	-	- 安全使用。	安山岩。13L2 g

第6章 まとめ

今回の発掘調査では、西区で竪穴住居跡3軒、溝1条、横列1条、屋外炉1基、土坑28基、ピット35基、東区で土坑22基、井戸2基、性格不明遺構1基、ピット85基と面積に比して多くの遺構が確認された。出土遺物も縄文時代中期中葉阿玉台式期から近・現代まで4,683点、重量にして92,901.4gと多種多様の遺物が出土している。西区と東区間は約140mだが、二つの区で様相がまったく違っていたことは今回の発掘調査における一つの成果となる。遺構や遺物の詳細は第4章や5章で確認していただくとして、以下では今回の発掘調査で確認されたことと、2011年における坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚の発掘調査（以下2011年度調査）で確認されたことを含め以下から時代別に土地利用の流れを中心に、特徴的な遺構について述べていく。

坂田地区において人為的な痕跡が確認できるのは縄文時代中期以降からであるが、本発掘調査において当該期の遺構は西区を中心に土坑やピットが集中して検出されている。出土遺物は縄文時代中期中葉の阿玉台期から後期後葉の安行期にわたる遺物が出土しているが、出土遺物の中心は縄文時代後期前葉から中葉にかけてである。遺構の性格が確認できたものとしては、4・9・11・12号土坑が平面形や断面形などから土壙墓、19号土坑が覆土の状況から、貯蔵穴である袋状土坑の上位が崩落したものと考えられる。これら土壙墓や袋状土坑は縄文時代後期前葉から中葉にかけての時期と考えられる。

2011年度調査において、本調査地点南側に位置する貝塚を中心に遺構が分布すると想定されていること、分布状況が西区南側を密にして北に向かい疎になっていくこと、ピットは規則的な配列などは確認できなかったが、分布状況は土坑と同様の傾向を示すことなどから、本調査地点の縄文時代、特に後期前葉から中葉にかけての時期の様相は、貝塚を中心とした集落にあたり、土壙墓や貯蔵穴が分布する縁辺部にあたると考えられる。

その他の時期については、1号屋外炉が縄文時代中期中葉の阿玉台期と考えられること、遺物が中期後葉加曾利E式期の遺物がある程度出土していることなどの他は明確に出来なかった。特に2011年度で出土している縄文時代晩期の土器は出土していないことから、晩期の遺構が本調査地点付近には分布しないまたは密度が薄いと考えられる。

次に本調査地点で人為的な痕跡が確認できるのは4世紀代である。本調査地点からは土師器が2点出土しているのみであるが、2011年度の調査において3・4・6・10号住居跡がこの時期に位置する。したがって古墳時代前期は本調査地点には集落などは及んでいないが、近隣、特に南側に集落が形成されていたことがわかった。5世紀中葉から6世紀前葉までのあいだに相次いで3軒の竪穴住居跡（1～3号）が建てられ、この付近が集落として利用されていたとわかった。2011年度の調査において2・5・8住居跡がこの時期に位置している。本調査地点で検出された1・2号竪穴住居跡は約8.5～9.0mの大型住居跡で、2011年度の調査で検出された住居跡とは様相が異なる。この法量の違いがどのような理由なのか不明であるが注意される。遺物は土師器などを中心にこの竪穴住居跡の時期を出土とした遺物が出土しているが、なかでも表土出土の須恵器壺は6世紀末から7世紀前葉に位置して、本調査地点付近に位置する古墳に伴う遺物の可能性が高い。

奈良・平安時代は東区から須恵器の鉢や土師器の壺など少量出土しているのみである。2011年度の調査においてこの時期の住居跡が東側で検出されていることから、古墳時代前期と同様に、本調査地点付近には集落ではなく南側に集落が形成されていたことがわかった。

その後人為的な痕跡は確認できず、2011年度の調査と同様に15世紀になり東区の土坑群や1号性格不明遺構などが形成されている。

この東区で検出された土坑群は1号性格不明遺構に概ね先行して、2011年度の調査における1区北側において溝が数条確認されているが、これらの溝が区画する内部施設と考えられる。遺構の状況から1号性格不明遺構に先行する遺構は1号性格不明遺構の影響で上面が削平されている。1号性格不明遺構に先行する遺構のうち性格が確認できた土坑は19号・21号土坑の2基で、19号土坑は土師質土器の小皿が1点のみの出土であることや、遺構の平面形、埋没状況から土塙墓であろう。21号土坑は第5章で言及したとおり地下式壇の開口部と考えられ、2011年度の調査における溝区画内の南側（2011年度調査区1区北側）が墓域であったことが指摘できる。また、2011年の調査における1区の11号土坑（以下1区11号）でも検出されているが、馬埋納土坑が本発掘調査でも1基検出されている（東区20号土坑）。1区11号土坑確認の馬と異なり、埋納土坑は概ね円形で、頭部を北西に向かって状況で出土している。検出時は頭骨や大腿骨は確認できたが、1区11号土坑と同様に骨質は非常に脆く、歯以外の部分は表面の部分のみ残存している状況であった。したがって体高など不明な点が多いが白歯の磨耗状況などから1区11号土坑検出の馬と同様で10～12歳程度の雌獸であろう。20号土坑は遺物や切り合い関係から15世紀頃の土坑で、1区11号土坑とも時期的にはあってくる。その後、土層断面から盛土状遺構と考えられる16世紀中葉以降に埋められたと考えられる1号性格不明遺構が位置するが、一度土地を掘り込み、その後地盤に圧を余りかけずに埋められたと切り合い関係や堆積状況などからみて考えられる。この1号性格不明遺構自体の掘り込みはそれ自体の性格が確認できるものは検出・出土していないが、東区の東側に1号性格不明遺構を含め径約30～35mの円形に現在でも確認できる窪地が存在していることや、馬埋納土坑の存在、2011年の調査において牧の存在が指摘されていることなどから、牧に伴う施設で利用後にその部分を埋めたとも考えることが出来る。

その後東区南側に1・2号井戸、北側に土坑が数基掘られる。2号井戸は2011年の調査における1号井戸と同様に上面が開口する漏斗状の形状だが、平場は確認されていない。また、上層から土師質土器の内耳鍋が多量に出土している。切り合い関係から1号性格不明遺構に後続することから16世紀代以降に埋められたと考えられる。また、1号井戸は2号井戸に後続し、素堀の井戸で遺物もほぼ出土していないため明確な時期は判断できないが、近世に極めて近い時期を想定している。これら遺構の掘削は軟弱な地盤である1号性格不明遺構の位置を可能な限り避けて掘られている痕跡が観察される。

以上のことより中世の当該地は15世紀頃より、区画溝を伴う施設がまず本調査地点の北側を中心にして存在していて、本調査地点が墓域であったと考えられる。その後、牧の可能性をもつが、大型の掘り込みである1号性格不明遺構が掘られて、埋められる。そして井戸が掘られるという流れであろう。また、区画溝を伴う施設の性格だが、2011年度調査における溝の規模などからひとまず館跡と考えたい。台地の内側という位置だが、牧の推定や本遺跡の西側で台地の縁辺部に位置する峯台館跡と内側の上坂田館の内館跡との関係と本遺跡南側で台地の縁辺部に位置する下坂田屋敷内館跡と本調査地点付近の関連が示唆的であるが、1例しかないため今後の発掘調査や分布調査に期待したい。

近代になり、西区の1号溝や西区北側の大型土坑、1号櫛列が掘られる。1号溝は覆土から繊片だが近代の瓦が出土していることや、現在の土地区画とほぼ平行することなどから、近世以降の区画溝として掘られたと考えられる。また、1号櫛列も現在の土地区画とほぼ平行することやその構成するピットの覆土からやはり土地区画のものと考えられる。西区北側の大型土坑は覆土の状況などから、本調査地点周辺で営まれている果樹園の抜根跡であろう。

以上本発掘調査を土地利用の流れを中心に見てきたが、縄文時代後期前葉から中葉にかけての集落分布や古墳時代の堅穴住居跡の検出、中世における当該地の土地利用の変遷が少なからず判明したことは、今回の発掘調査において大きな成果となった。今後本調査地点の周辺、特に西区と東区の間や東区の北側において発掘調査が進めば、2011年度の調査と今回の発掘調査の成果を含めて、下坂田地区の縄文時代や中世の状況が大きく判明することであろう。

引用・参考文献

- 豊村宣行 1991 「茨城県南部における鬼高式土器について」(『研究ノート』創刊号 財団法人茨城県教育財团)
- 茨城県考古学協会 2011 「茨城中世考古学の最前線～編年と基準資料～」第1・2分冊 茨城県考古学協会シンポジウム資料編
- 比毛君男・西本豊弘・柴田洋考 2013 「坂田台山古墳群・下坂田中台遺跡・下坂田貝塚～坂田地区遺跡総合整備事業に伴う発掘調査報告書～」 土浦市教育委員会 有限会社毛野考古学研究所

写 真 図 版



西区完掘（南より）



西区完掘及び1号柵列完掘（北より）



1号竪穴住居跡完掘及びA～A'土層断面（北より）



1号竪穴住居跡1号土坑完掘（南より）



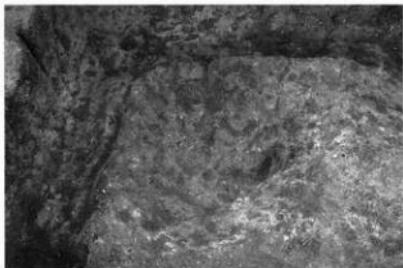
2号竪穴住居跡完掘（北より）



2号竪穴住居跡A～A'土層断面（西より）

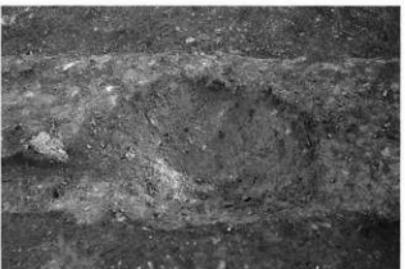


2号竪穴住居跡B～B'土層断面（南より）

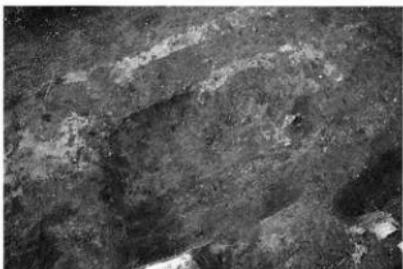


2号竪穴住居跡1号土坑完掘（西より）

P L 2



2号竪穴住居跡 1号炉完掘 (西より)



2号竪穴住居跡 2号炉完掘 (東より)



2号竪穴住居跡 遺物出土状況 (東より)



3号竪穴住居跡 完掘及びB~B'土層断面 (西より)



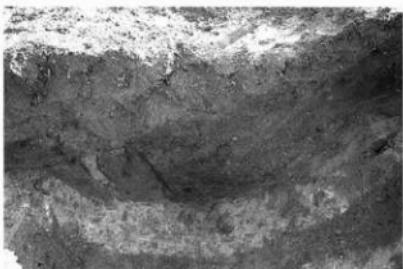
3号竪穴住居跡 A~A'土層断面 (北より)



1号溝 完掘 (東より)



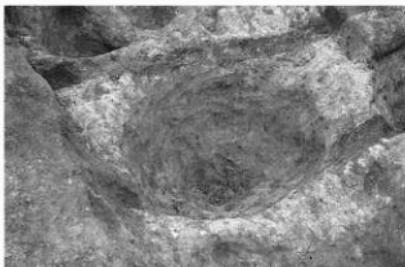
1号溝 土層断面 (東より)



1号屋外炉 土層断面及び完掘 (西より)



1号屋外炉土層断面（西より）



1号土坑完掘（西より）



2号土坑完掘（西より）



3・4号土坑及び1・2号ピット完掘（南より）



4号土坑遺物出土状況（南より）



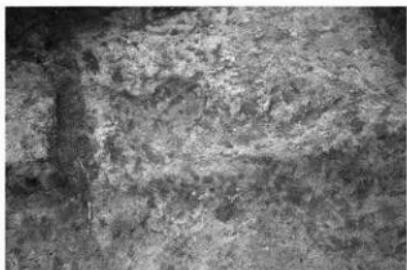
5号土坑完掘（西より）



6号土坑土層断面及び完掘（東より）



7号土坑及び6号ピット完掘（東より）



8号土坑完掘（北より）



9号土坑土層断面及び完掘（東より）



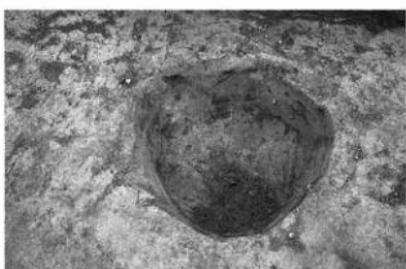
10号土坑及び34号ピット完掘（東より）



11・12号土坑及び4・25・26号ピット完掘（西より）



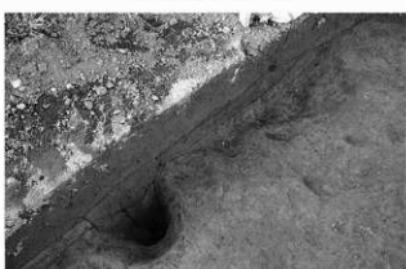
13号土坑完掘（南より）



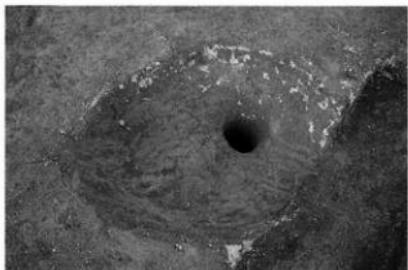
14号土坑完掘（東より）



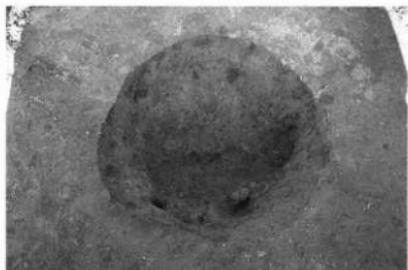
15号土坑及び27号ピット完掘（東より）



16号土坑及び18号ピット土層断面及び完掘（東より）



17号土坑及び31号ピット完掘（東より）



18号土坑完掘（南より）



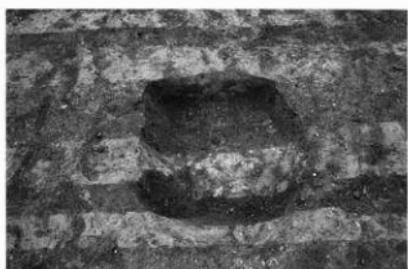
19号土坑土層断面及び完掘（東より）



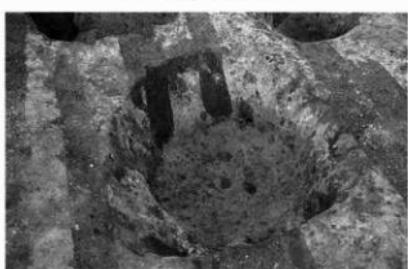
20号土坑土層断面及び完掘（東より）



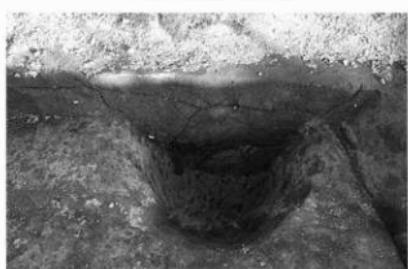
21号土坑完掘（北より）



22号土坑完掘（南より）

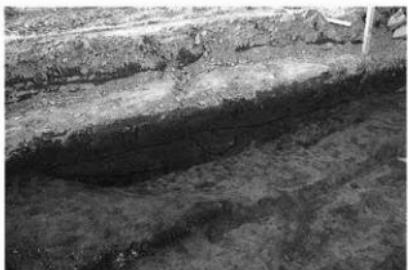


23号土坑完掘（南より）



24号土坑土層断面及び完掘（西より）

P L 6



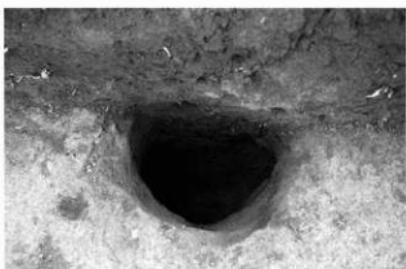
27号土坑土層断面及び完掘（東より）



25・26・28号土坑完掘（東より）



28号土坑土層断面（南より）



3号ピット完掘（西より）



7号ピット完掘（西より）



29号ピット完掘（西より）



西区南側縄文時代土坑及びピット群（北より）



基本土層断面（西より）



東区完掘及び1号性格不明遺構完掘（北より）



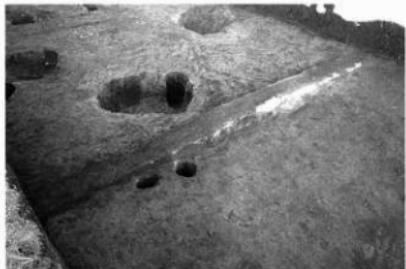
1号性格不明遺構 A～A'土層断面南側（東より）



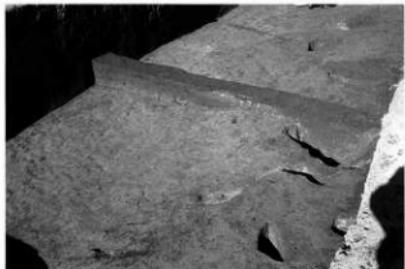
1号性格不明遺構 A～A'土層断面中央部（東より）



1号性格不明遺構 A～A'土層断面北側（東より）



1号性格不明遺構 B～B'土層断面（南より）



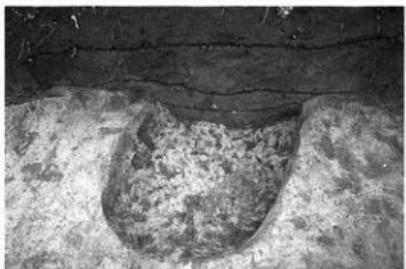
1号性格不明遺構 C～C'土層断面（南より）



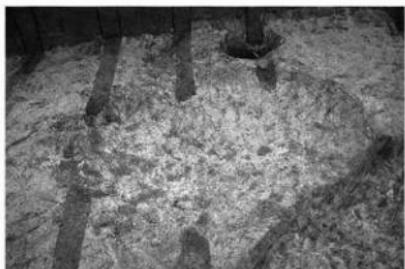
1号性格不明遺構 D～D'土層断面（南より）



1号性格不明遺構 E～E'土層断面（南より）



1号土坑完掘及び土層断面（東より）



2号土坑完掘（南より）



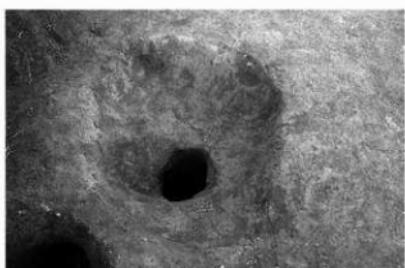
3号土坑完掘（西より）



4～6号土坑完掘（西より）



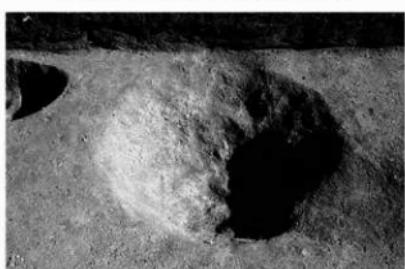
7号土坑完掘（西より）



8号土坑及び23号ピット完掘（南より）



9号土坑及び57・61・73～75・84号ピット完掘（西より）



10号土坑完掘（西より）



11号土坑完掘（南より）



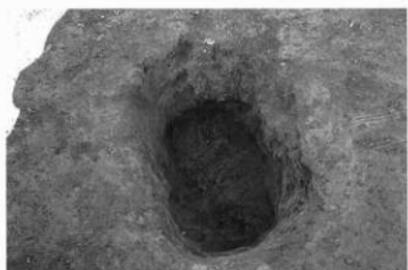
12・13号土坑及び11・36・37号ピット完掘（西より）



14・19号土坑及び22号ピット完掘（南より）



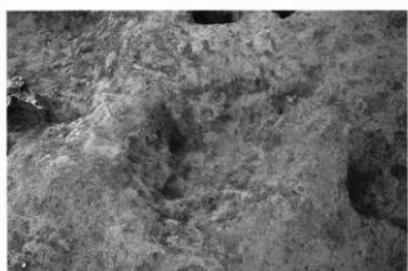
19号土坑遺物出土状況（南より）



15号土坑完掘（南より）



16・18号土坑完掘（西より）



17号土坑完掘（西より）

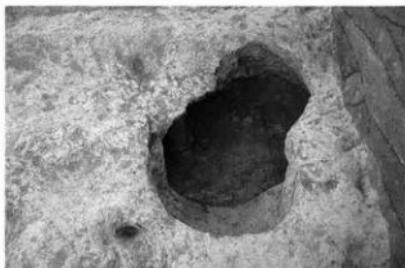


20号土坑及び44号ピット完掘（北より）

P L 10



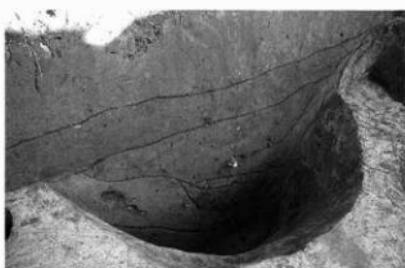
20号土坑獸骨出土状況（北より）



21・22号土坑完掘（北より）



1号井戸完掘（西より）



2号井戸土層断面及び完掘（西より）



2号ピット根石検出（西より）



3号ピット完掘（東より）



12・47・63～66号ピット完掘（西より）



東区南側ピット群（西より）

2号土坑出土遺物



1

4号土坑出土遺物



2

3

4

3号土坑出土遺物



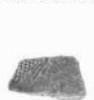
1



2

3

6号土坑出土遺物



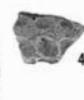
1



2



3



4



5



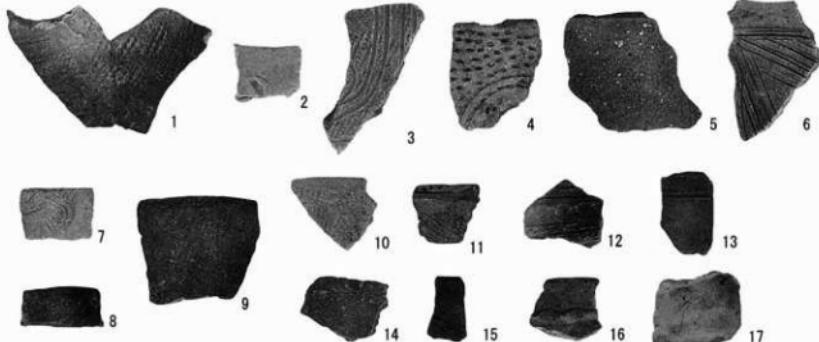
6

9号土坑出土遺物



1

11号土坑出土遺物



7

10

11

12

13

8

9

14

15

16

17

12号土坑出土遺物



1

2

3

4

出土遺物 (1)

P L 12

13号土坑出土遺物



19号土坑出土遺物



1号竪穴住居跡出土遺物

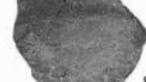


2号竪穴住居跡出土遺物



5

6



7

8

9

10



11

12

13

14



3号竪穴住居跡出土遺物



27号土坑出土遺物



ピット出土遺物



P-2 1

P-2 2

P-5 3

P-7 4



P-13 8



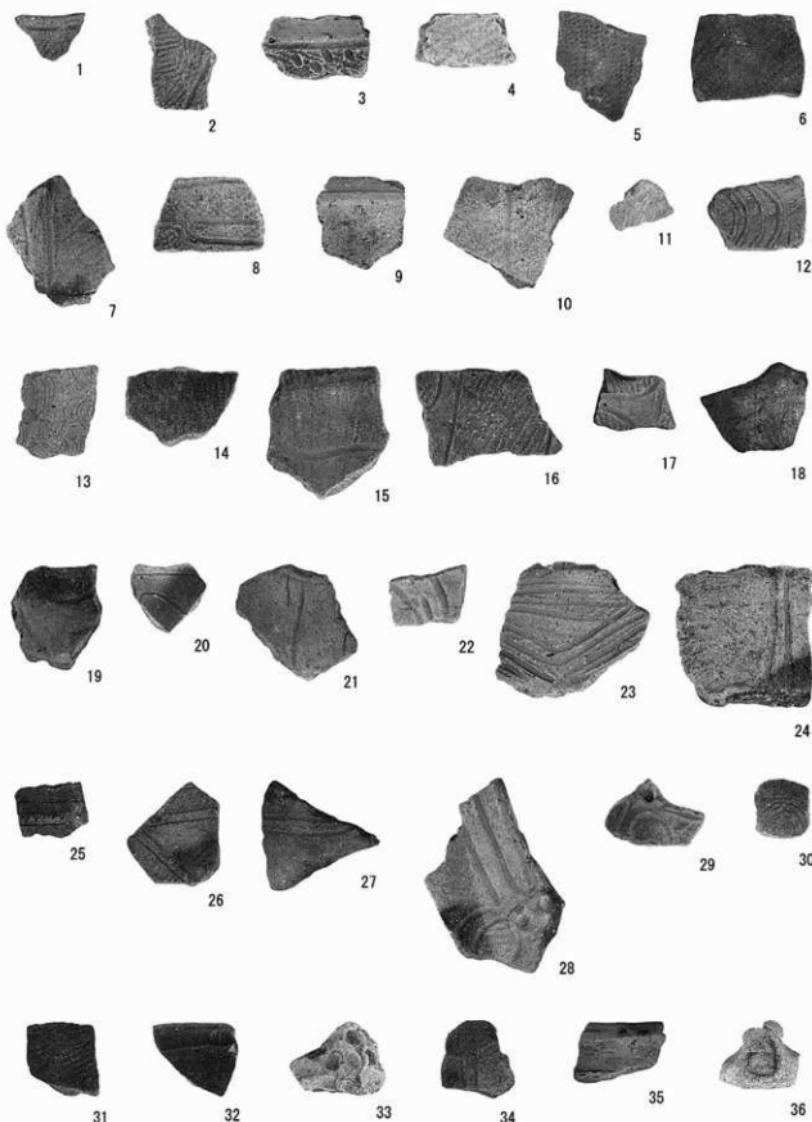
P-15 9



P-17 10

出土遺物 (2)

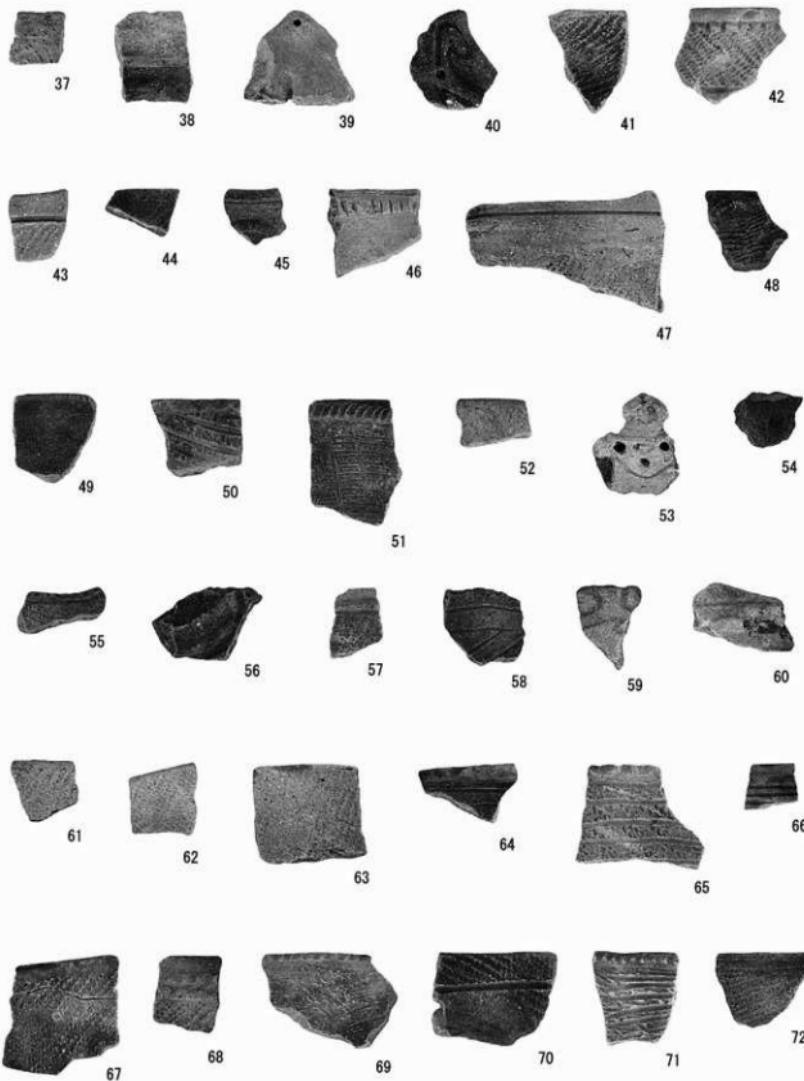
遺構外出土遺物（1）



出土遺物（3）

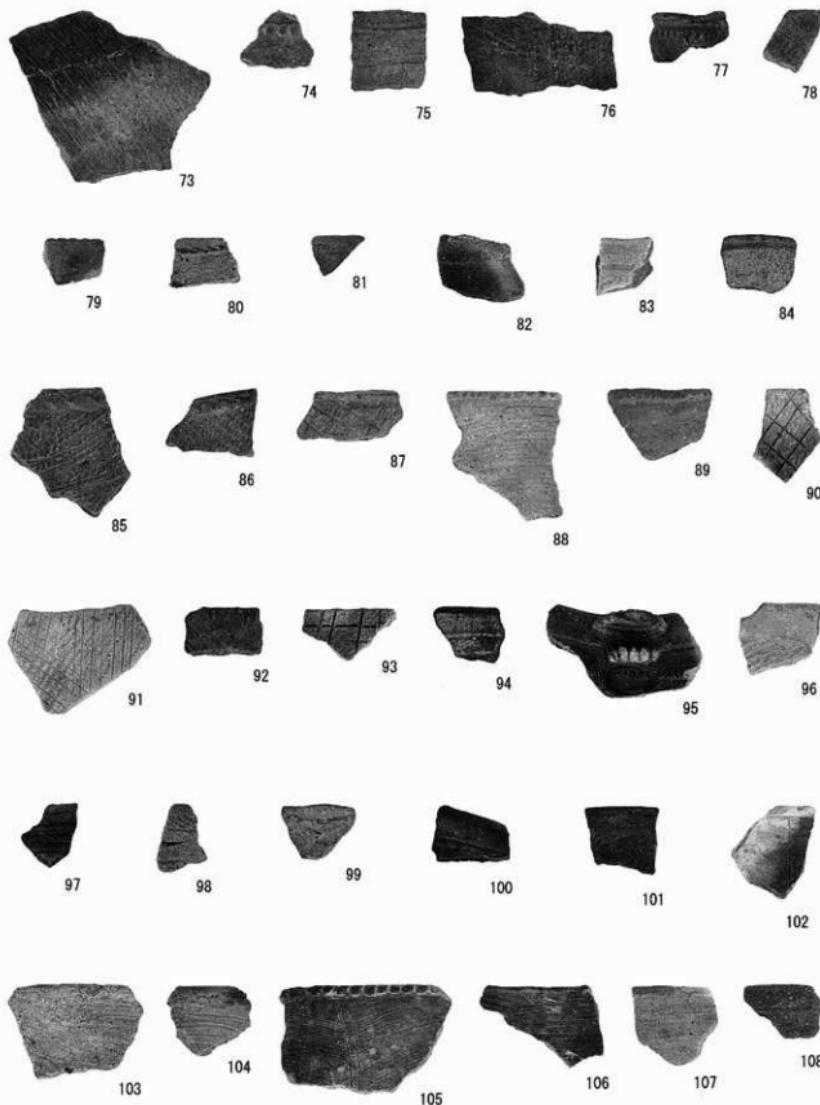
P L 14

遺構外出土遺物 (2)



出土遺物 (4)

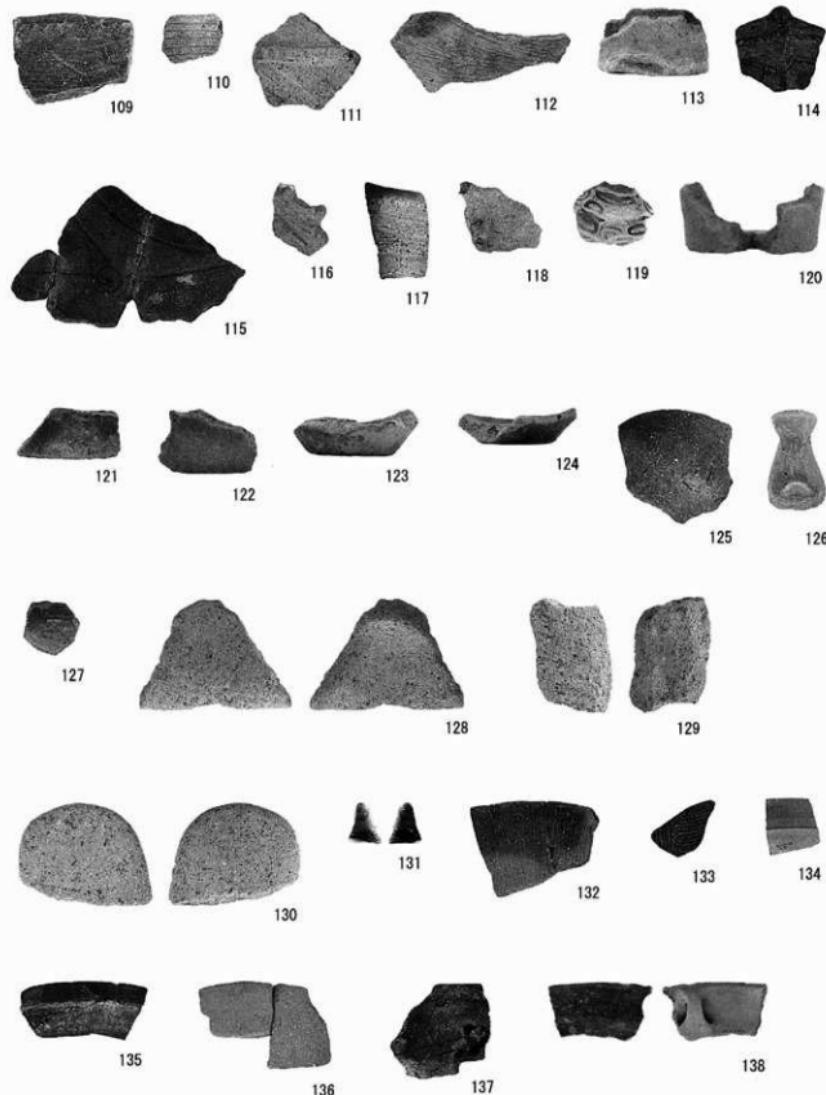
遺構外出土遺物（3）



出土遺物（5）

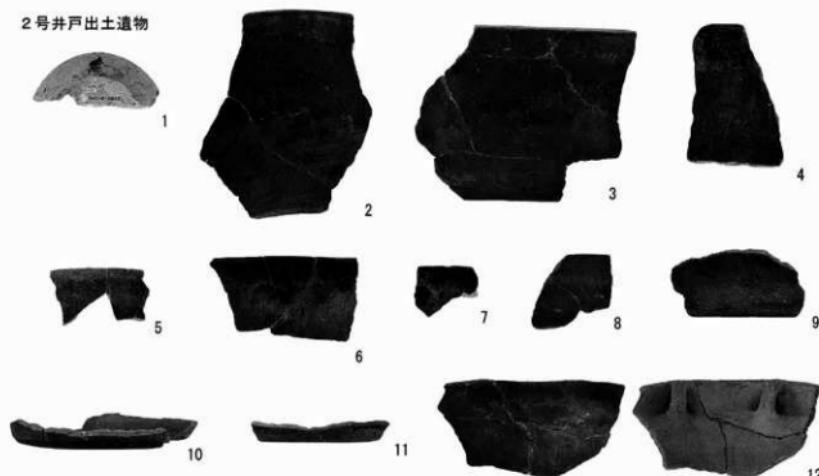
P L 16

遺構外出土遺物 (4)



出土遺物 (6)

2号井戸出土遺物



8号土坑出土遺物



9号土坑出土遺物



10号土坑出土遺物



19号土坑出土遺物



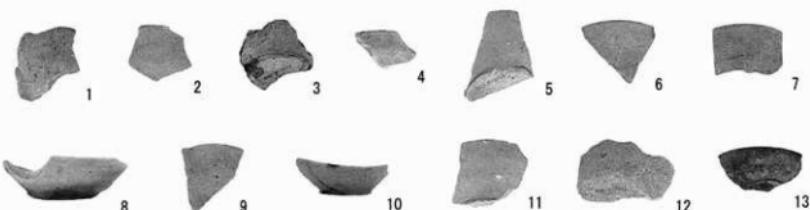
20号土坑出土遺物



21号土坑出土遺物



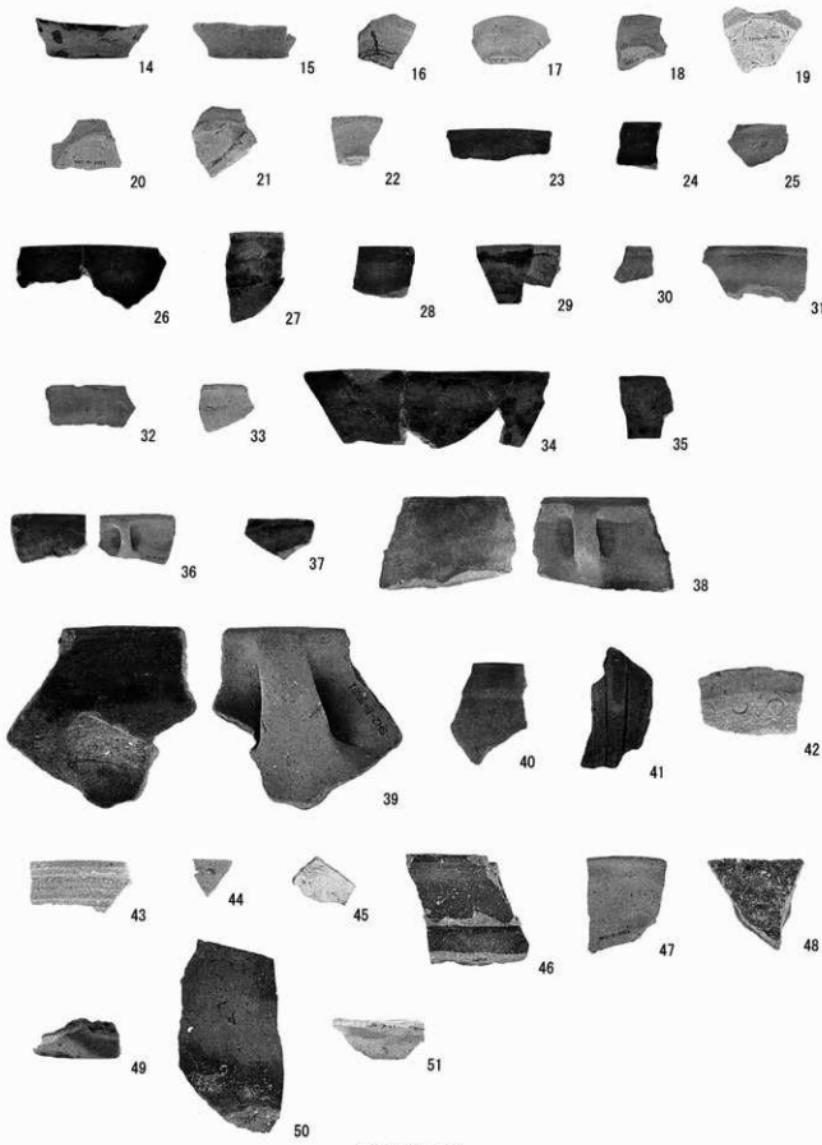
1号性格不明遺構出土遺物（1）



出土遺物（7）

P L 18

1号性格不明遺構出土遺物 (2)



出土遺物 (8)

ピット出土遺物



遺構外出土遺物



18



20



21

出土遺物 (9)

報告書抄録

ふりがな	しもさかたなかだいいせき							
書名	下坂田中台遺跡							
副書名	坂田地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名								
編著者名	林 邦雄							
著者名	比毛君男・林 邦雄							
編集機関	株式会社東京航業研究所							
所在地	〒350-0855 研究県川越市伊佐沼28番1号 ☎ 049-229-5771							
発行年月日	西暦2014年(平成26年)3月5日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもさかたなかだいい 下坂田中台遺 跡	いばらきけん つちうらみや しもさか た 1480番地ほか	465	005	36° 24' 26' 29'	140° 10'	2012.11.27 ~ 2012.12.28	475.85 m ²	畠地帯総合整備 事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下坂田中台遺跡	集落跡 館跡	绳文時代	土坑18基 屋外炉1基	土器 石器		今回の発掘調査は、西区と東区の2区に分けられている。西区からは绳文時代後期前葉から中葉の土器や円形土壤墓、貯藏穴、ピットを中心に分布している。また、中央部から北側にかけて古墳時代の竪穴住居跡が3軒検出されている。このうち2軒は一辺8m近い法量を持つ竪穴住居跡である。東区は全体が盛土状遺構になっていて、切り合い関係から盛土状遺構に先行する土壤墓や地下式壙、馬埋納土壙などが検出されている。後続する遺構としては井戸が2基検出されている。このうち馬埋納土壙は本地点の南側調査時に同様の遺構が検出されていることから牧の存在を推定させ、南側調査時にこの盛土状遺構遺構の南側に溝が数条存在していることから本地点を含め北側にかけて館跡などの施設の存在を推定できた。		
		古墳時代	竪穴住居跡 3軒 土坑2基	土師器 須恵器				
		中世以降	溝1条 土坑30基 横列1条 井戸2基 性格不明遺構 1基	カワラケ 土師質土器 陶器 磁器				
		時代不明	ピット120基	陶器 磁器 瓦				

下坂田中台遺跡

—坂田地区畠地帯総合整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷 平成 26 年 3 月 5 日

発行 平成 26 年 3 月 5 日

編 集 株式会社東京航業研究所
埼玉県川越市伊佐沼 28-1
TEL 049-229-5771

發 行 土浦市
土浦市教育委員会
株式会社東京航業研究所

印 刷 蘭東印畫株式会社
埼玉県さいたま市南区別所 3-1-10
TEL 048-862-2901